

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

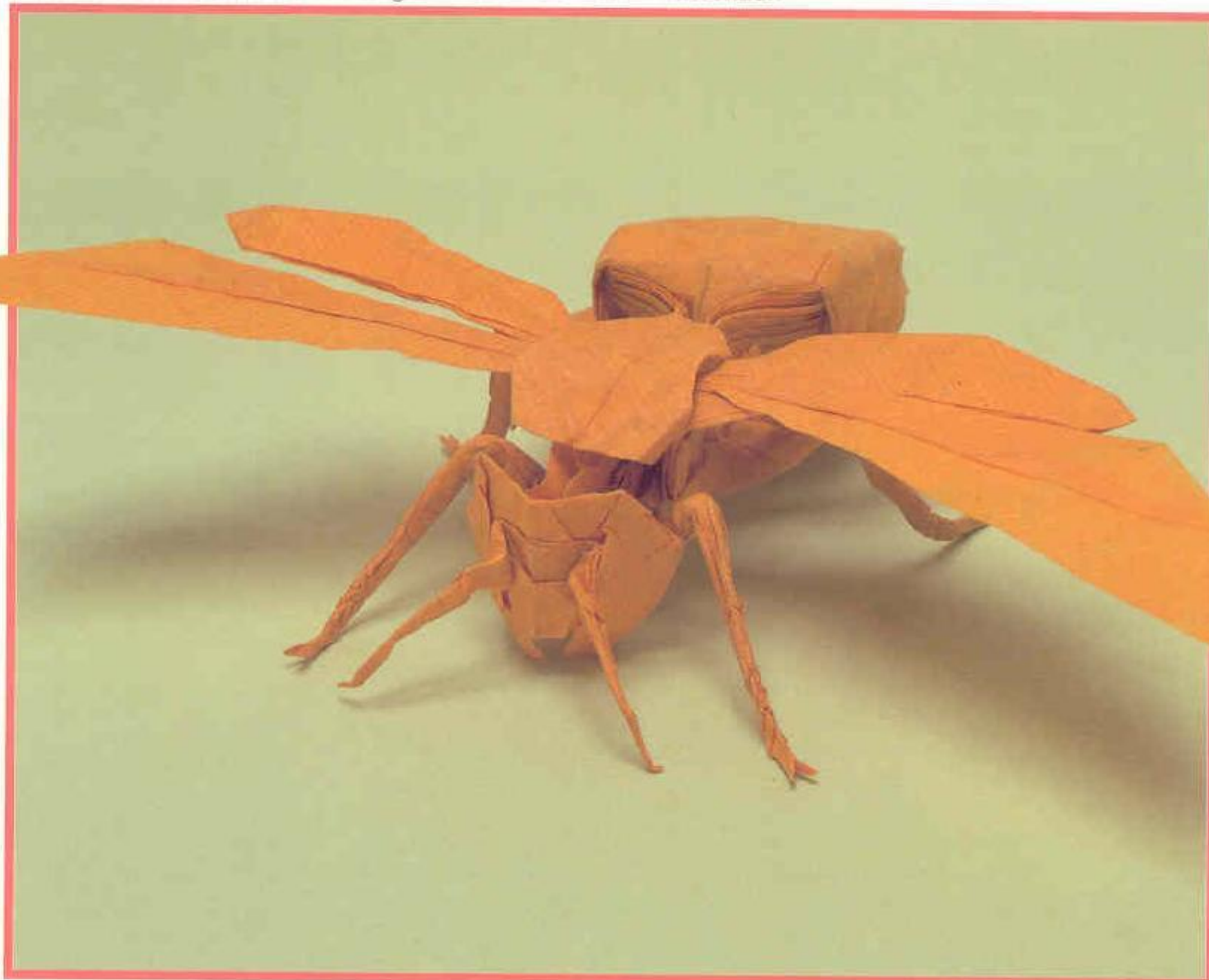
M A G A Z I N E

定価 600円

イベント情報

第4回 折紙探偵団関西コンベンション日程決まる

The Schedule Fixed for the 4th Origami Tanteidan Kansai Convention



クローズアップ Close-up : Columbus's Egg

Sakasegawa Takashi

「コロンブスの卵」 逆瀬川貴司

折り図 猫 Cat

小松英夫

Model & Diagrams by
Komatsu Hideo

展開図折りに挑戦!

スズメバチ

Vespid

神谷哲史

Kamiya Satoshi

好評連載

Tomoko in the Box : Fuse Tomoko / Tomoko's Shikishi-Hyakka : Tanaka Tomoko / Let's Enjoy Math through Origamics : Haga Kazuo /
Tomokoのびっくり箱:布施知子/ともこさんの色紙百花:田中具子/数理を楽しむオリガミクス
Takagi Satoshi's the Origami Reference Room : Takagi Satoshi / Still Yet Another Series of Origami Sampo: Maekawa Jun
:芳賀和夫/高木 智の折り紙資料館:高木 智/まだまだ折紙散歩:前川 淳

通巻 76 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

手前に折る
Fold forward.

後ろへ折る
Fold backward.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

段折り
Pleat.

裏返す
Turn over.

引き出す
Pull out flap.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

見えない
ところ
X-ray.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

スズメバチ
作: 神谷哲史 (P.33)
Vespid
Kamiya Satoshi (P.33)

■スズメバチをスズメバチたらしめるのは、やはり顔の正面の表情。そして足や触角の繊細な加工は、神谷氏自作の手漉きによる用紙だからこそ可能な作業。題材に対する作者のあくなき追究の姿勢が、見た瞬間思わずたじろいでしまうほどに生命感あふれる作品を生み出しました。

(解説: 北條高史) Comments: Hojo Takashi

No. 76

C O N T E N T S

■ 好評連載陣

Series

Tomokoのびっくり箱

Tomoko in the Box

1/3立方体

Tripartite Cube

布施知子 Fuse Tomoko

4

ともこさんの色紙百花

Tomoko's Shikishi-hyakka

シンビジウム Cymbidiums

田中具子 Tanaka Tomoko

8

数理を楽しむオリガミクス

Let's Enjoy Math through Origamics

コピー用紙1枚折りで最大の正四面体

How to make the largest regular tetrahedron from a single sheet of JIS-sized rectangular paper which has 1 to square root 2 ratio.

芳賀和夫 Haga Kazuo

14

高木 智の折り紙資料館

Takagi Satoshi's Origami Reference Room

鈴木春信画「見立恵比寿」他～「舟」のおりがみから2～

Origami vessels 2: from "A Boy as the God Ebisu" by Suzuki Harunobu, and others

高木 智 Takagi Satoshi

16

まだまだ折紙散歩

Still Yet Another Series of Origami Sampo (Origami Walk)

折るくすり

Medicine to Fold

前川 淳 Maekawa Jun

18

ペーパーホルダーの横顔

Paper Folders on File

イーセン・プラウト Ethan Plaut

取材・羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

34

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY

解説・北條高史 Comments: Hojyo Takashi

20

■ クローズアップ

Close-up

「コロンブスの卵」

Columbus's Egg

逆瀬川貴司 Sakasegawa Takashi

11

■ 折り図

Diagrams

猫 Cat

22

作・折り図: 小松英夫

Model and diagrams by Komatsu Hideo



展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

スズメバチ Vespid

神谷哲史 Kamiya Satoshi

33

■ エッセイ・コラム

Essay & Column

おりすじ

Orisuji ("Fold-Creases")

岡 雅夫

Oka Masao

31

折紙三昧

Origami-Zanmai
(This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

32

■ レポート

Report

第6回 吉野一生基金招待者レポート

A Report from the Yoshino Fund 6th Invited Folder

ジニー・モズリー Jeannine Mosely

35

■ インフォメーション

つまみおり Rabbit Ear (Information)

36

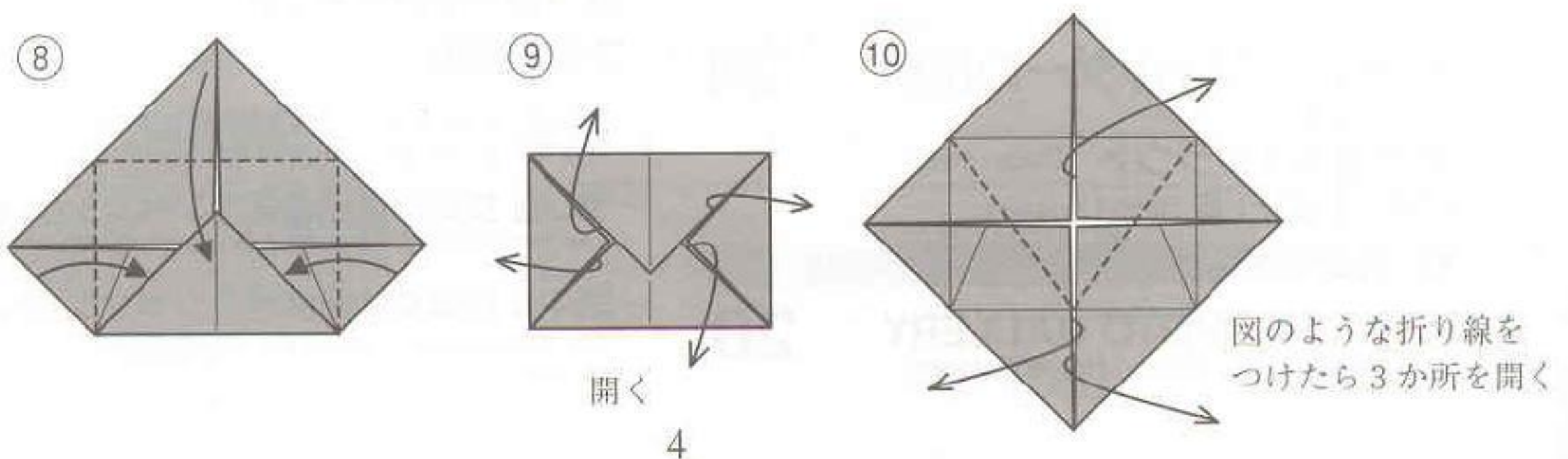
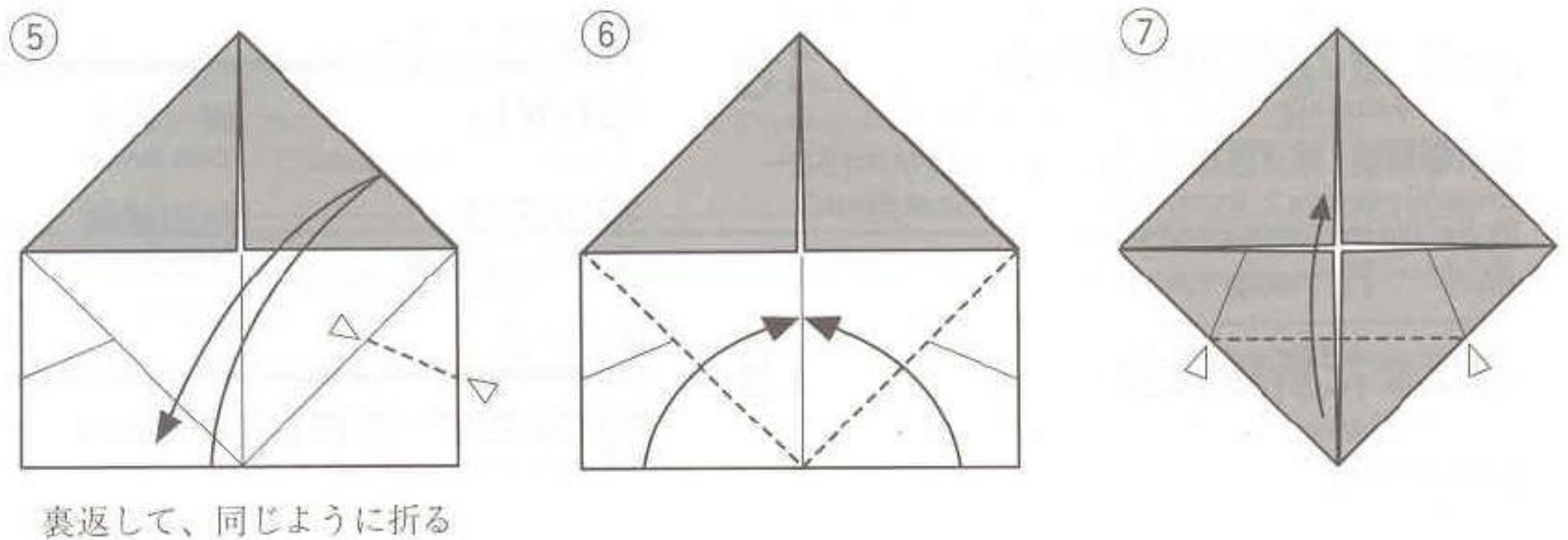
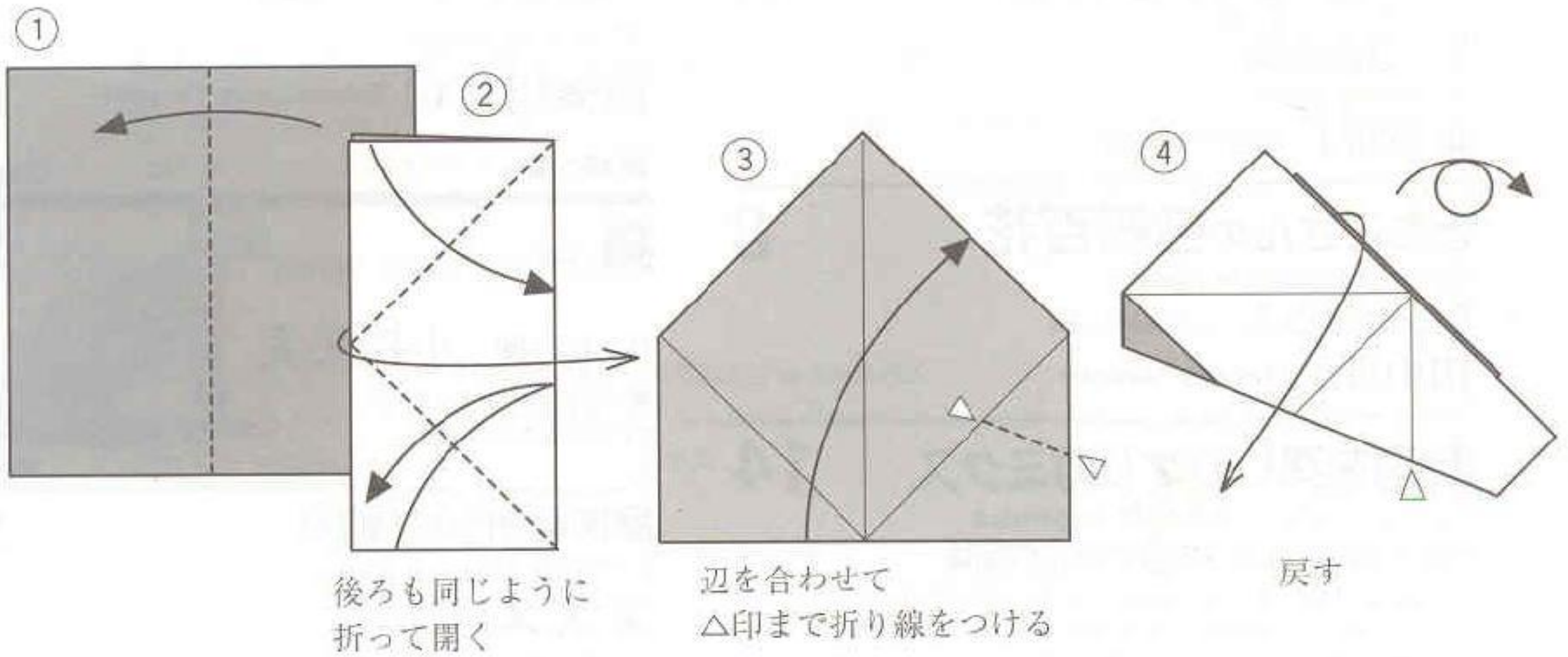
・第5回 Southeast Origami Festivalレポート
The 5th Southeast Origami Festival Report

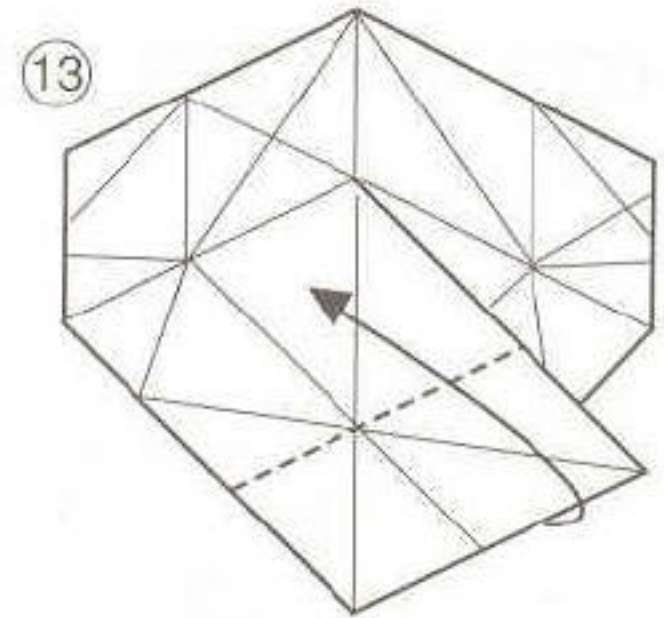
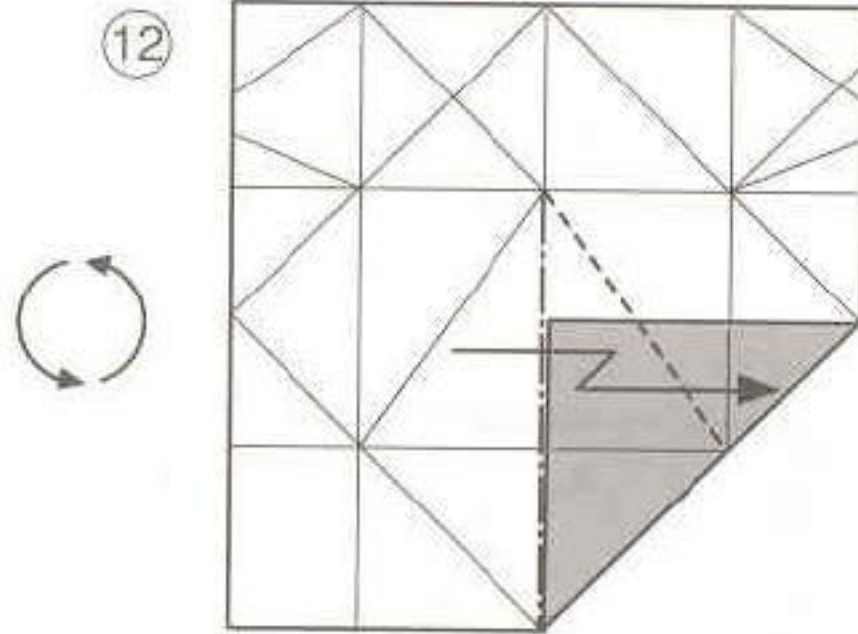
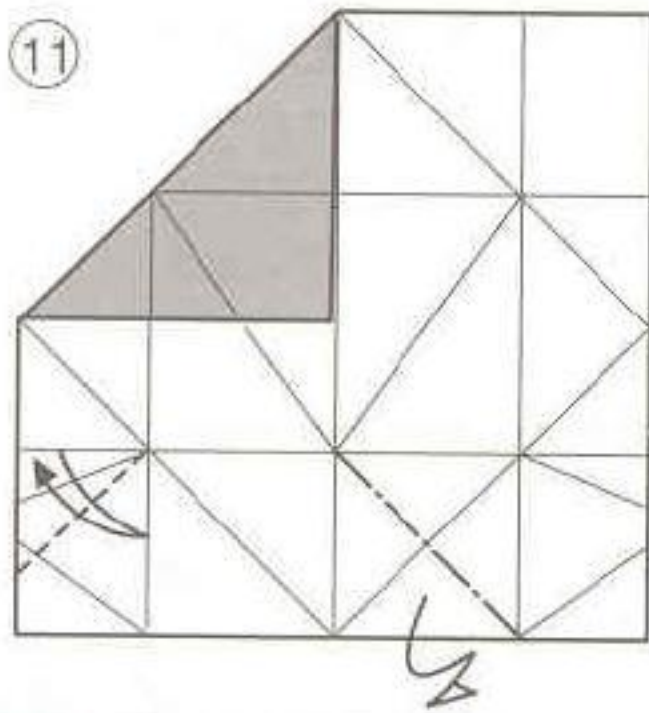
・第5回 折紙探偵団静岡コンベンションレポート
The 5th Origami Tanteidan Shizuoka Convention Report

・第4回 折紙探偵団関西コンベンション案内
The Schedule Fixed for the 4th Origami Tanteidan
Kansai Convention

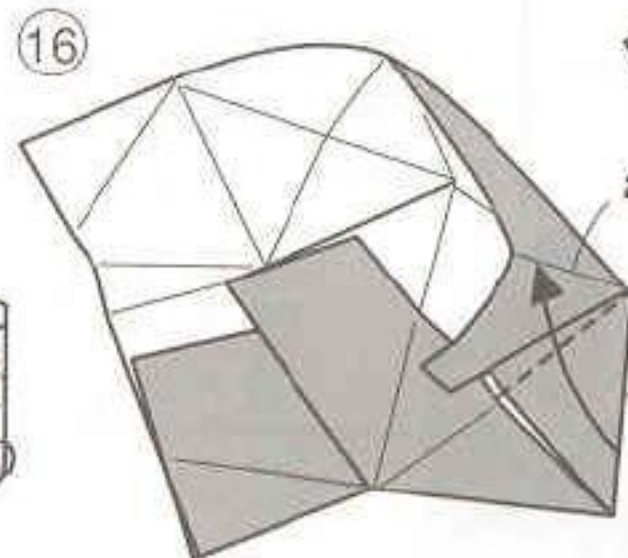
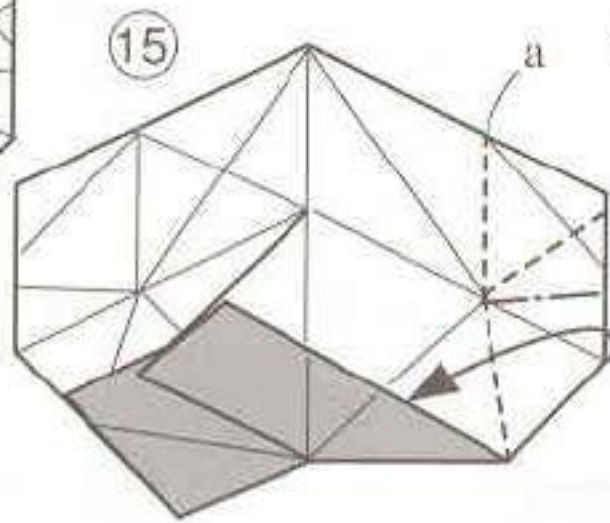
1/3立方体

立方体を3分の1に分割したものは、Thoki Yenn さんのものが知られていますが、私も自分なりのものを作ってみました。それらを納める立方体と合わせてお楽しみください。

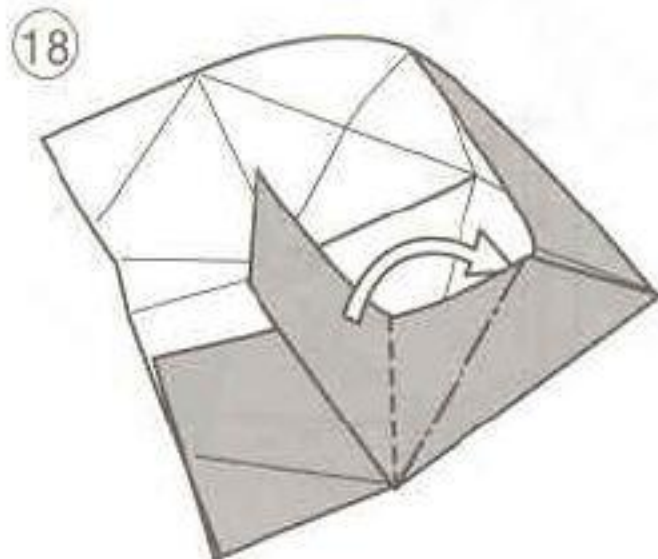
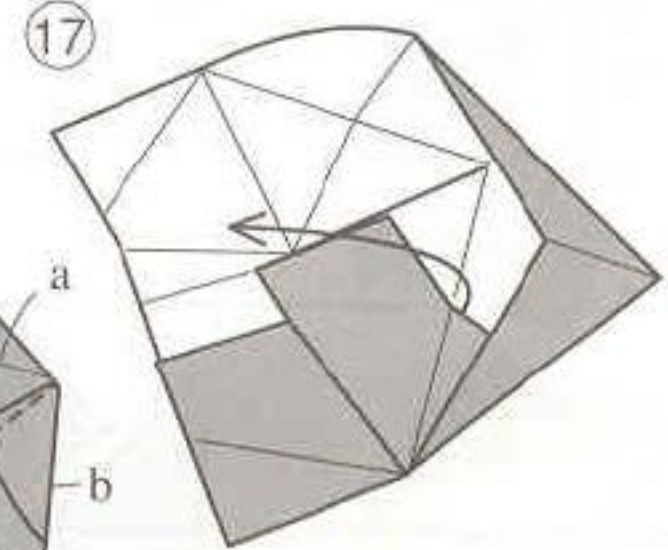




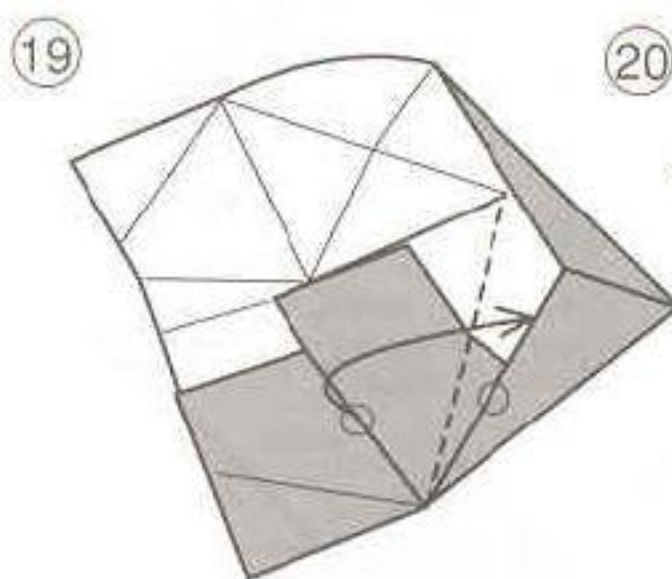
反対側に倒して折る



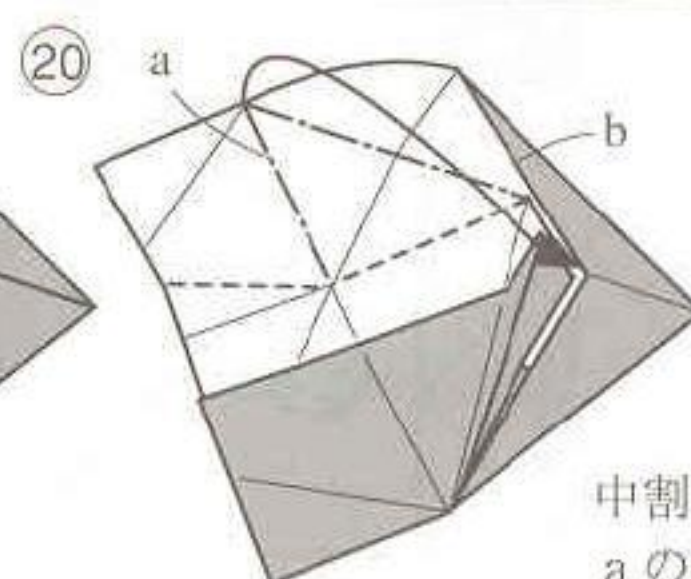
aの線にbのへりを合わせる



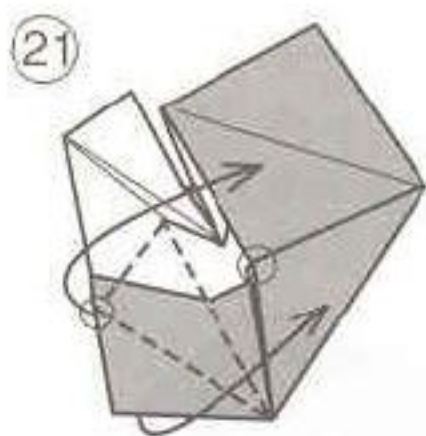
先をおさえてかぶせて折る



立てて○印の辺に合わせる



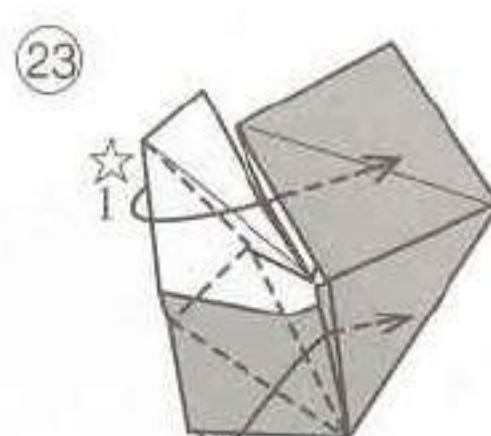
中割り折りをして
aの線をbのへり
に合わせる



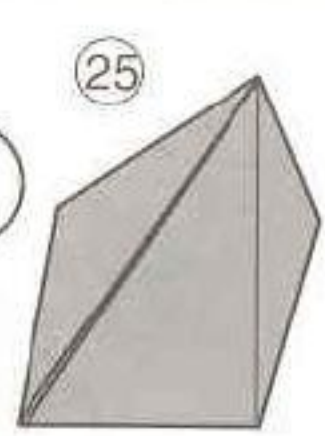
○印を合わせて
ひとまずかぶせて折る



☆と★の部分を差し
込むが、いったん開く

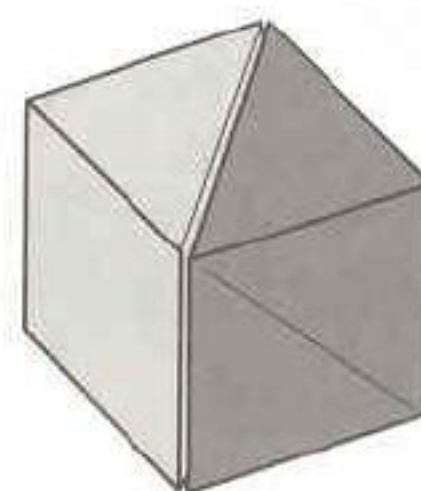
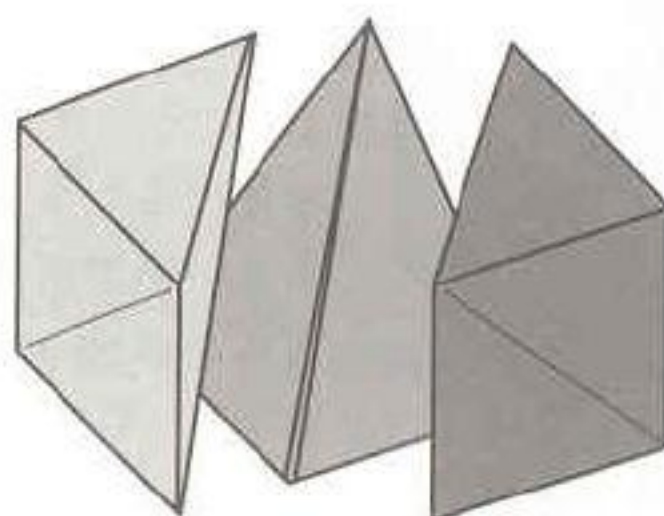


番号順に差し込む



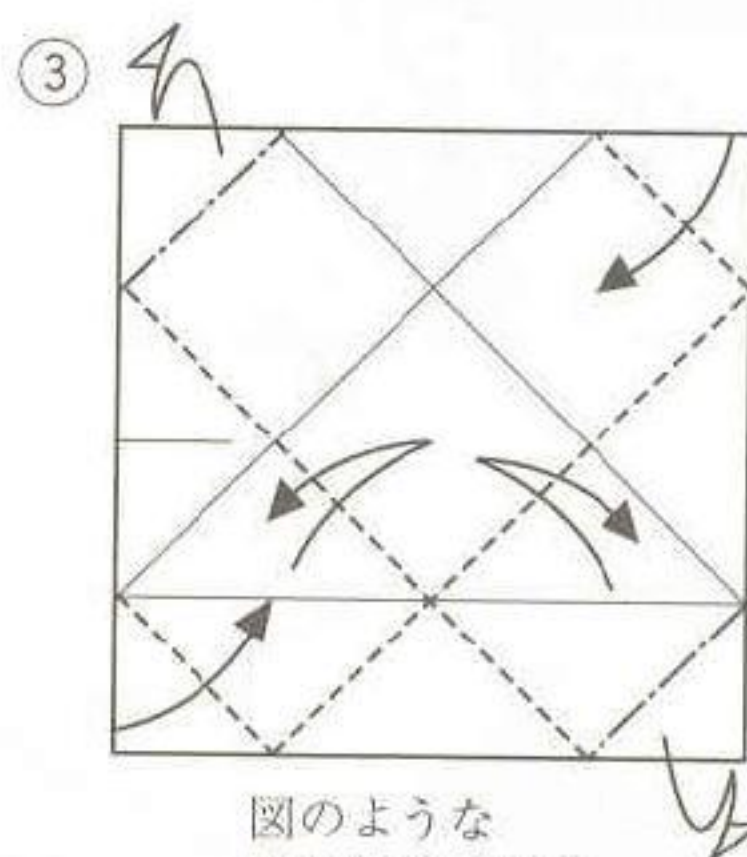
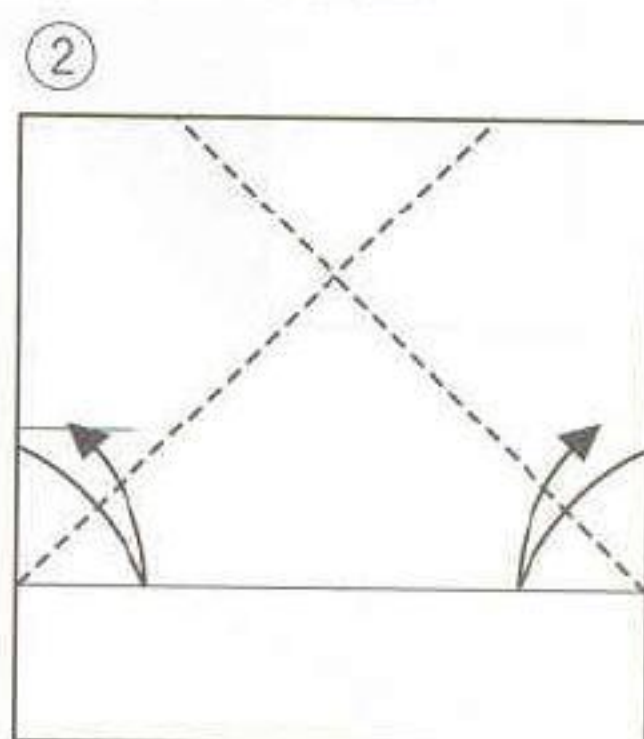
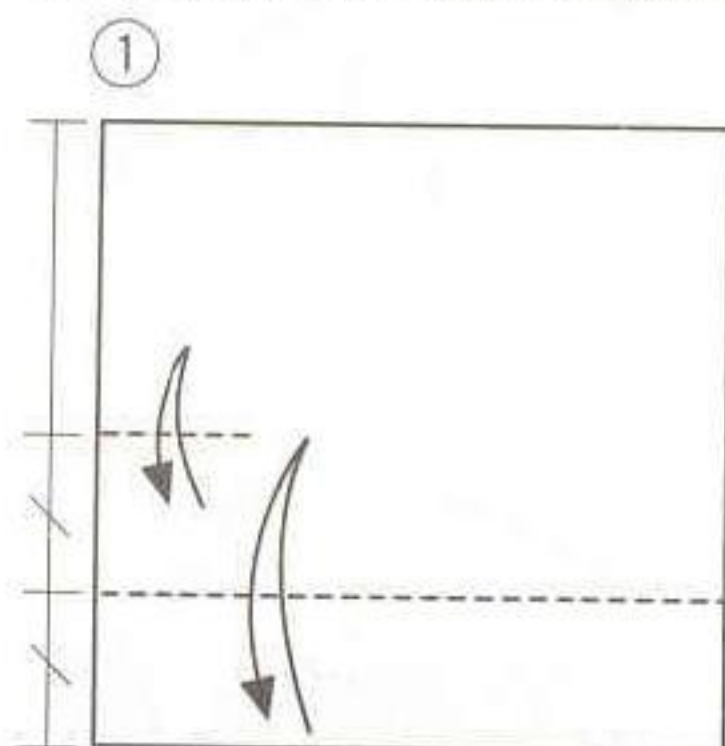
(×3)

3つ合わせると
立方体になる

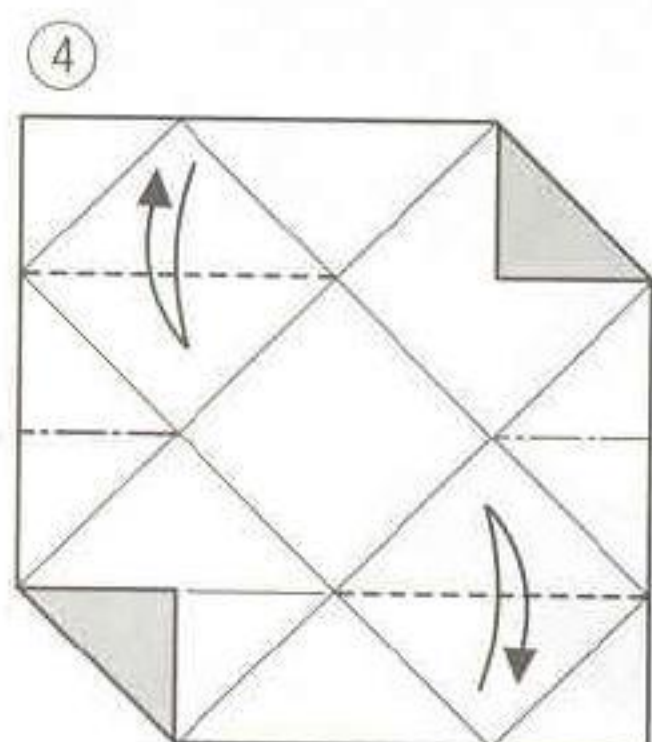


1/3立方体を詰める立方体

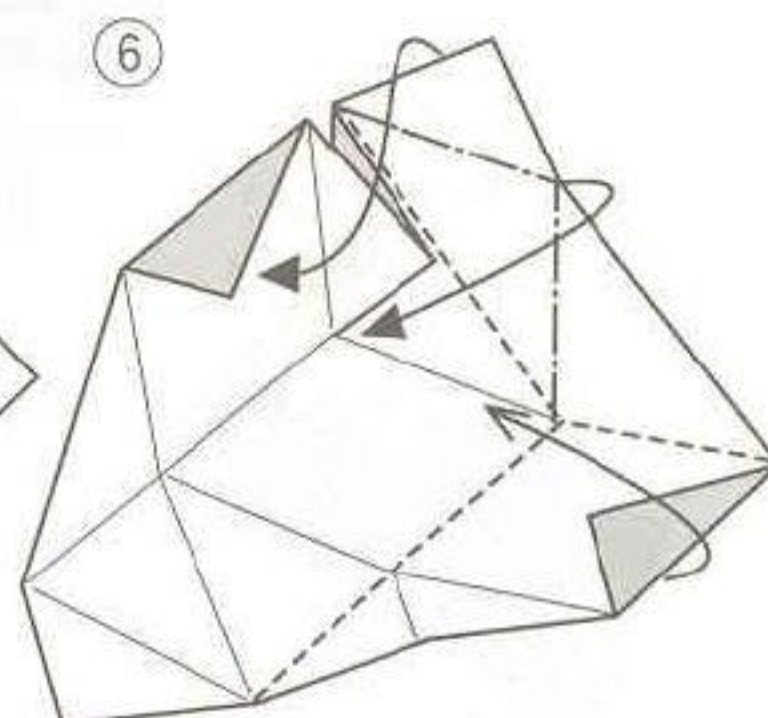
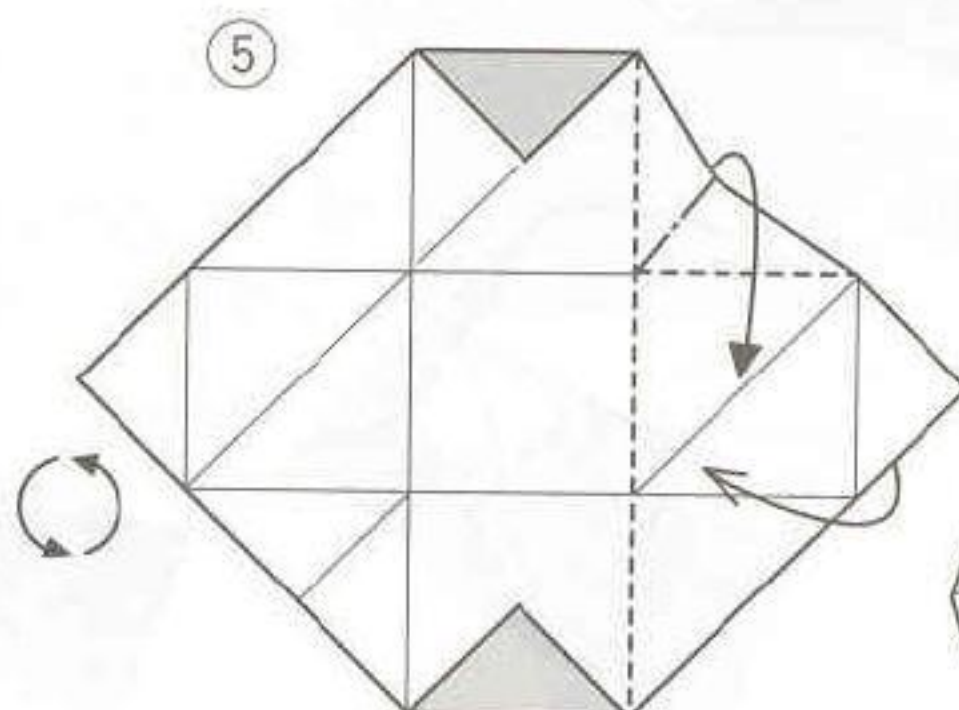
3分割したもを入れる立方体です。出来上がりはふわふわしていますが、中に入れると圧力でしっかりした形になります。ふたもかぶせるとしっかり形になります。しかし、何度も遊びたい場合は、要所をのりづけしてもいいでしょう。



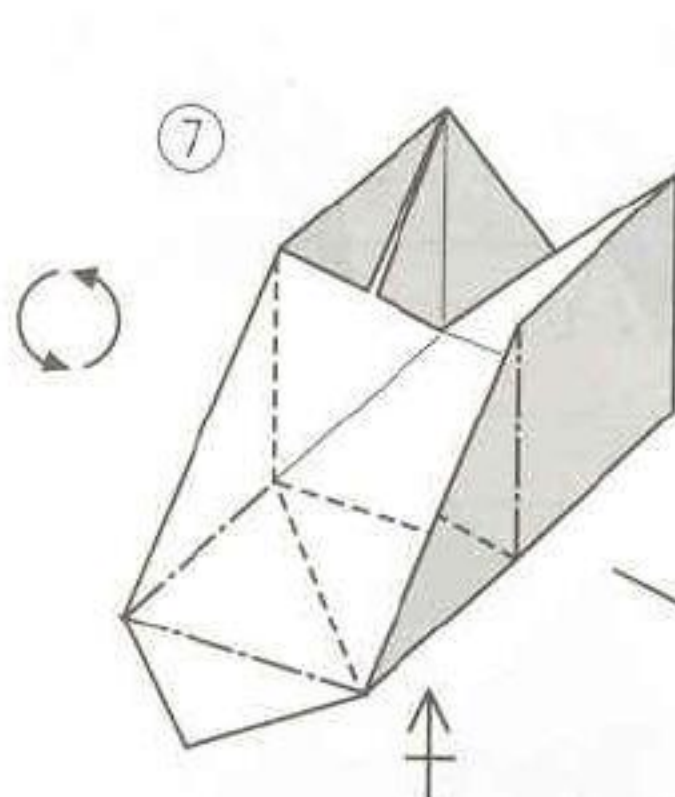
図のような
折り線をつける



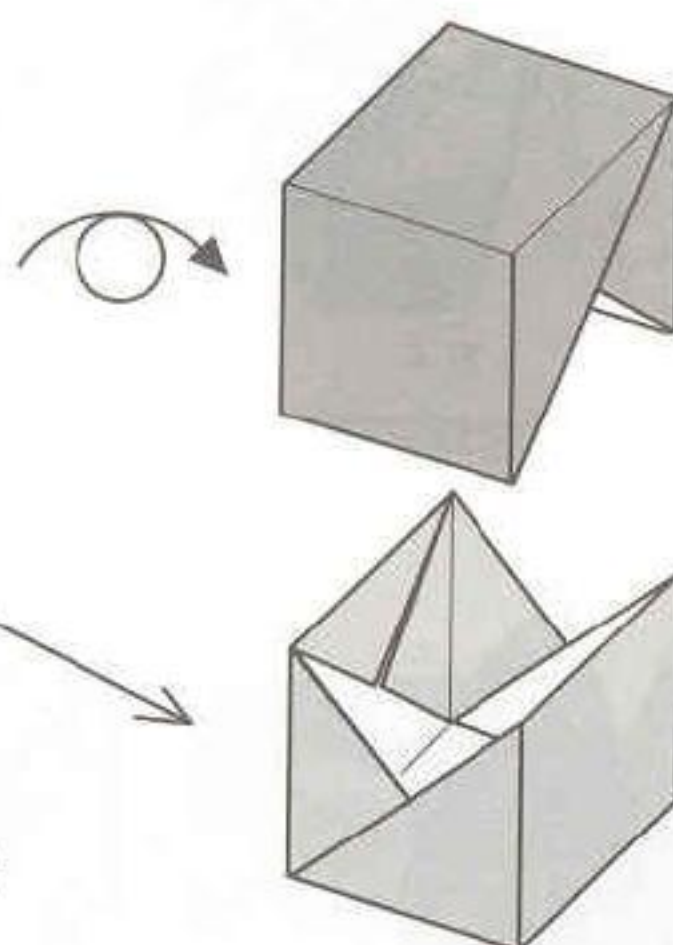
図のような
折り線をつける



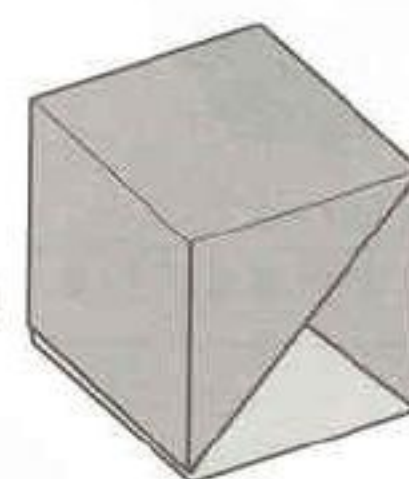
折り線どおり
にまとめる



もう一方も同じようにまとめる



ひとつはふたの
ようにかぶせる

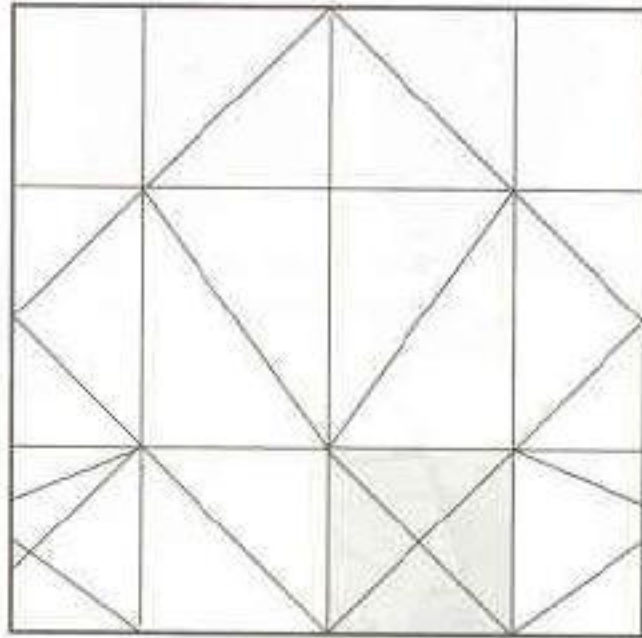


本体はふたより5mmほど
小さい紙で折ると、スミーズにかぶせられる

立方体の箱づめ寸法

箱づめの寸法です。1/3立方体を15cmで折ったときは、下の目安のようにすると、しっくりします。もっと大きいものを作るときや厚い紙を使うときは工夫して加減してください。

< 1/3 立方体の展開図 >



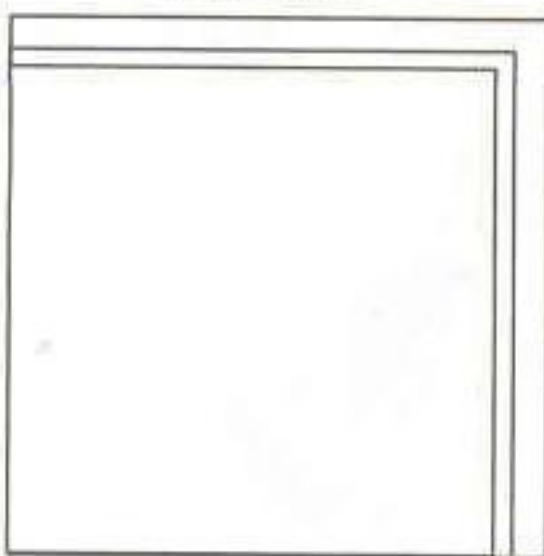
色のついた部分が立方体の一面になる

< 立方体の展開図 >



立方体の本体は図のような寸法より 5mm ほど大きくする。ふたはさらに 5mm ほど大きくする。

< 目安 >

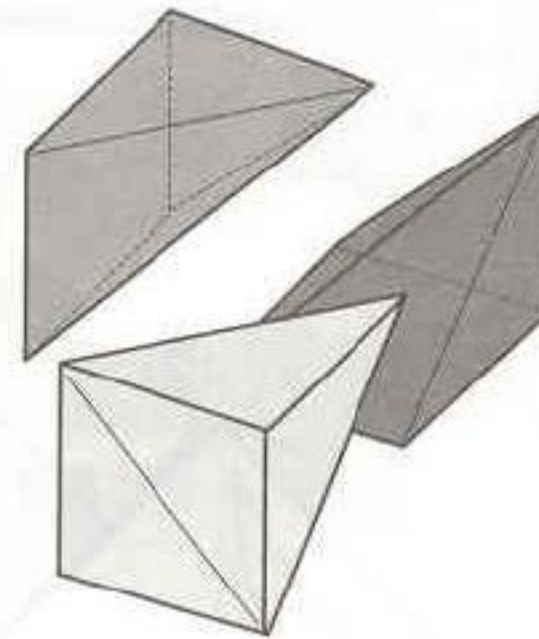


大 / 1/3 立方体を 15cm としたとき

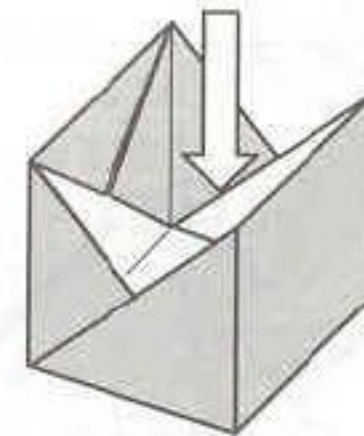
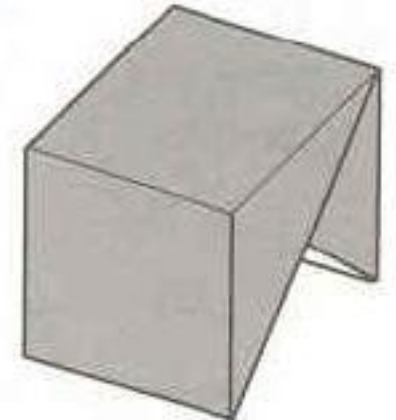
中 / ふた：それより 8mm くらい小さく (150-8mm)

小 / 本体：それより 13mm くらい小さく (150-13mm)

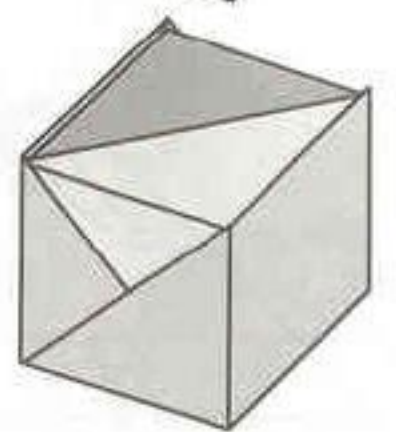
1/3 立方体



立方体のふた



立方体の本体



ショートエッセイ「秋深し」

周囲の動物たちの動きが変わり、秋が深まってきた。タヌキが軒先にぼこんと現れたり、カケスが片目でこっちを見ながら忙しく木の間を出入りしたり、卵を孕んだカマキリが家の中にいたり。

圧巻は、ある晴れた日に彼方を眺むれば、あんなつかしき、それはカメムシ。きらきらと羽を輝かせて越冬のためにふんぶん家の中に飛び込んでくる。半端な数ではない。

で、カメムシたちはでんでんに夢見のいい場所を見つけてもぐりこんでいく。本棚の本のすき間、カーテンのひだ、どこぞの穴ぼこ。そしてもちろん封を切った折り紙の中や、いわゆる折り紙ゴミの中も大好きとくる！ふと思い付いて取り上げたらカメムシ付きなんてことたびたび。そういえば Herman Goubergen さん

の作品に『壁に止まるハエ』ってのがあったっけ。なんて思いながらカメムシをちょいと外にはじき飛ばす。また戻ってくるかなあ。

何かの拍子にぼとりと落ちてきて、ひっくり返ってお尻の思いの他大きいガスを出す穴を見せて、綿ぼこりとからんでもがもがと權をこぐように足を動かすのを見て「おお、おお」と季節のめぐりと命無情を思えば、山暮らしも板についてきたもんだ、としみじみ。カメムシの来訪を防ぐなんてとても無理。うまくよけ合って暮らすに限る。

今年も採りたいキノコはますます採った。10年前はこうはいかなかった。凄腕の採り手が引越したり、年寄りたちがより年寄って山に入らなくなった結果、順送りに引き上げ

られて、いよいよ私達にお鉢がまわってきた。「なんだ、こんなにあったんだ。今まで××の父さんや○○の母さんが採っていたんだ」

しかし、振り向くと、次のキノコ採り世代がこの山里にはいない。そもそも人がいない。秋深し。

「真の芸術はごくわずか。普通の人々が週末に楽しんでできるようなものではない」David Brill さんはずばりこう始めた。シャーロットでのフォーカスセッション。折り紙に芸術はあるか。折り紙の芸術とは何か、という話題で。

感じていることを考えて言葉にする。むつかしい。言葉は意識を引き上げる。しかし私はそれを避けて、ただ折っている。

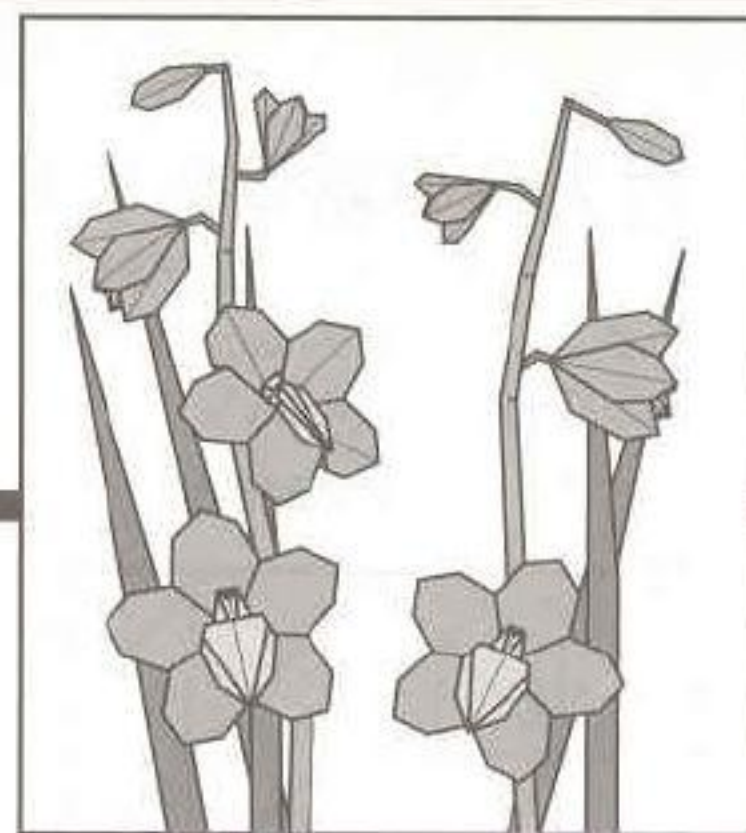
秋はぐんぐん深まっている。

ももこさんの 色紙 しきし ひゃっか 百花

シンビジウム Cymbidiums

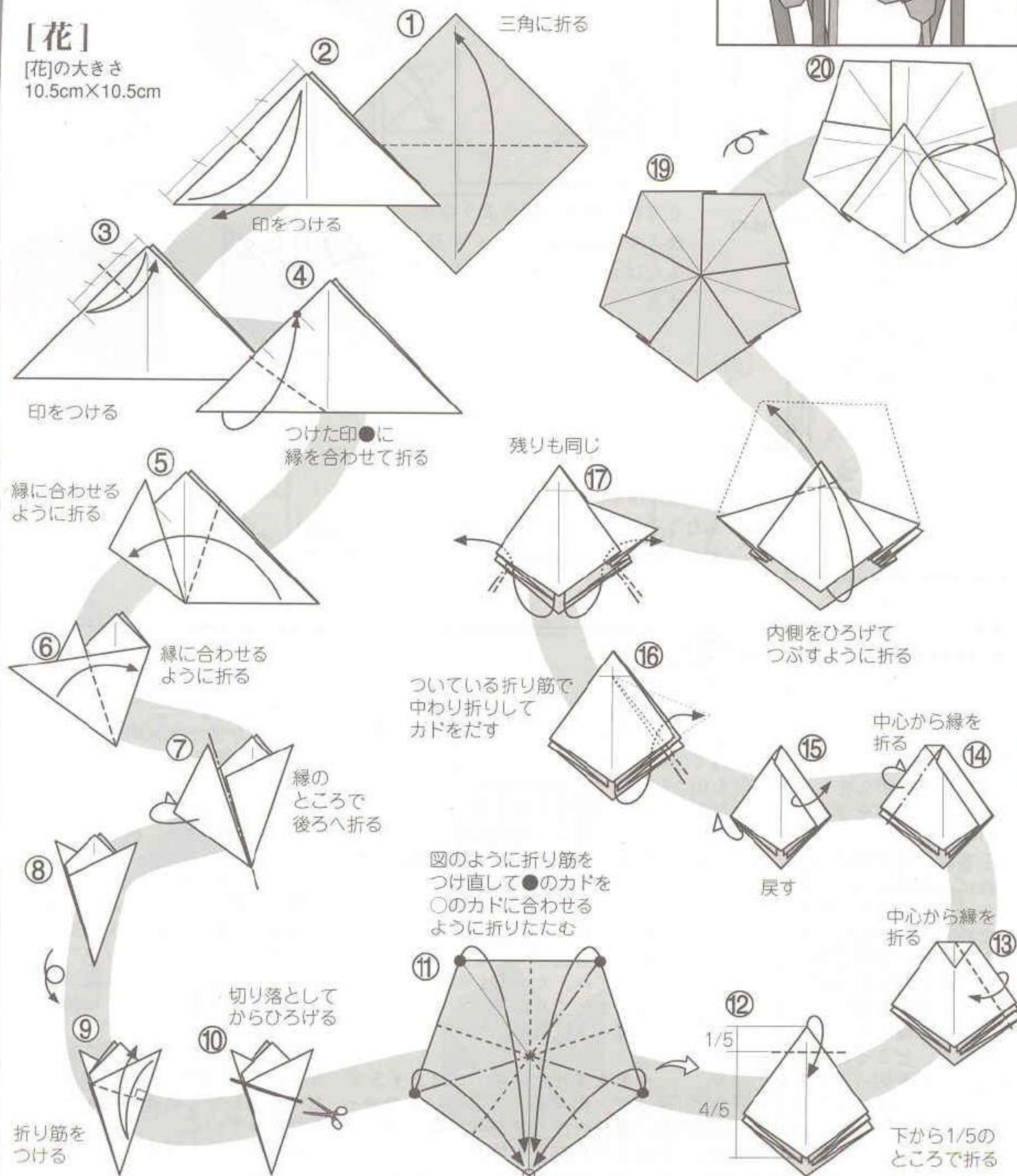
田中具子
Tanaka Tomoko

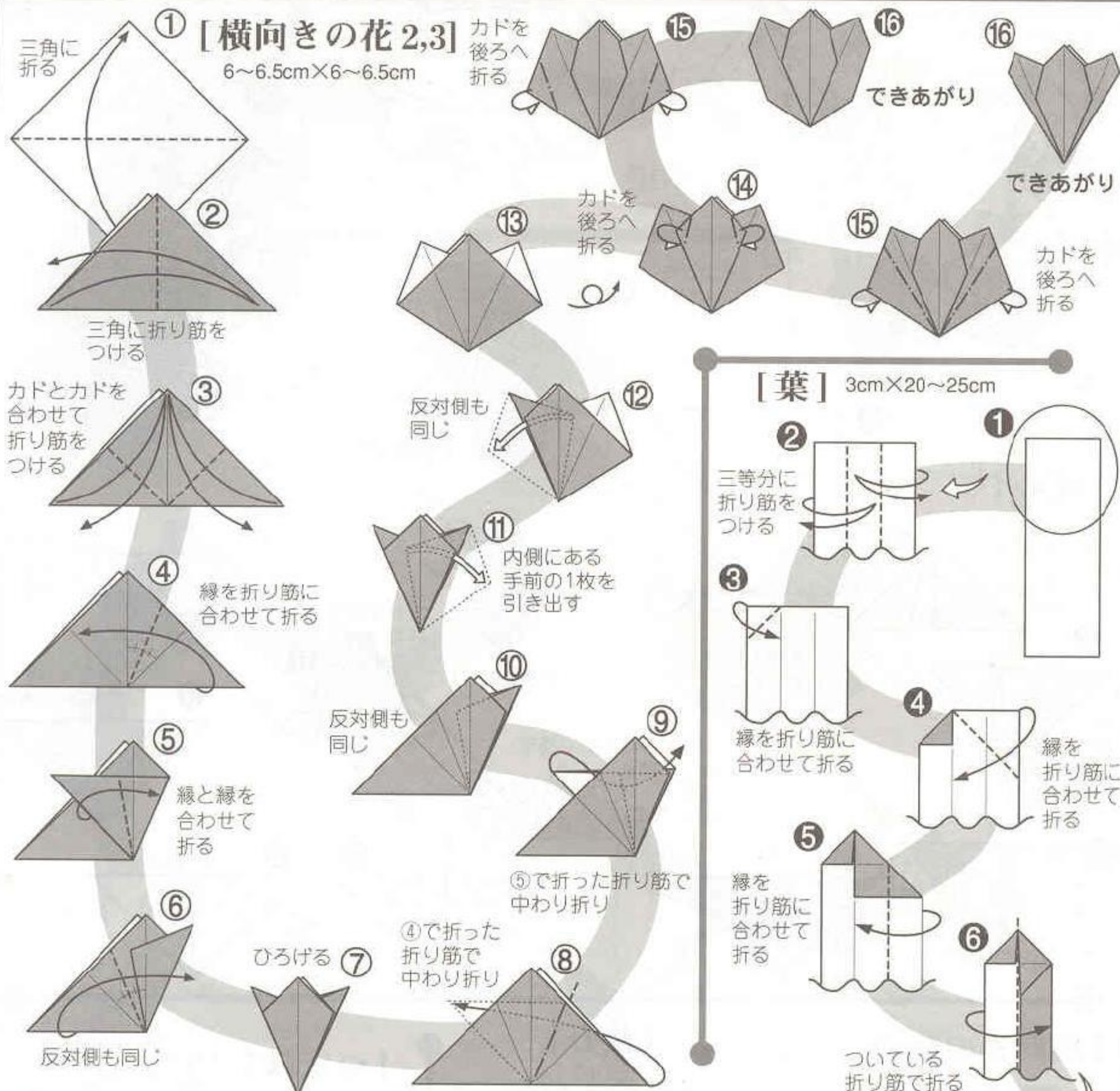
〔花〕の⑬～⑭はあわせて丁寧に。折り筋をし
っかりつけていけば、難しいところではありま
せん。



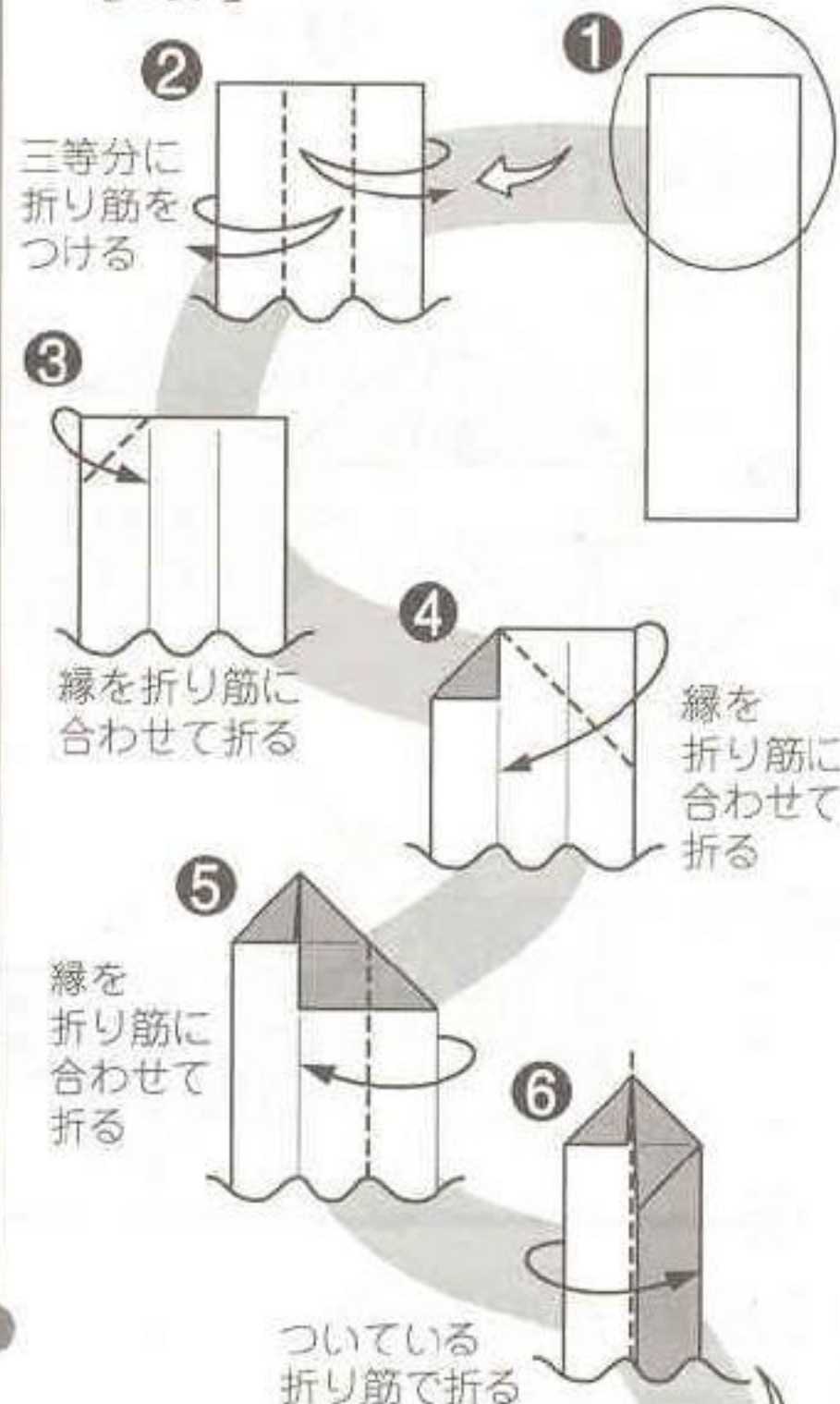
〔花〕

〔花〕の大きさ
10.5cm×10.5cm





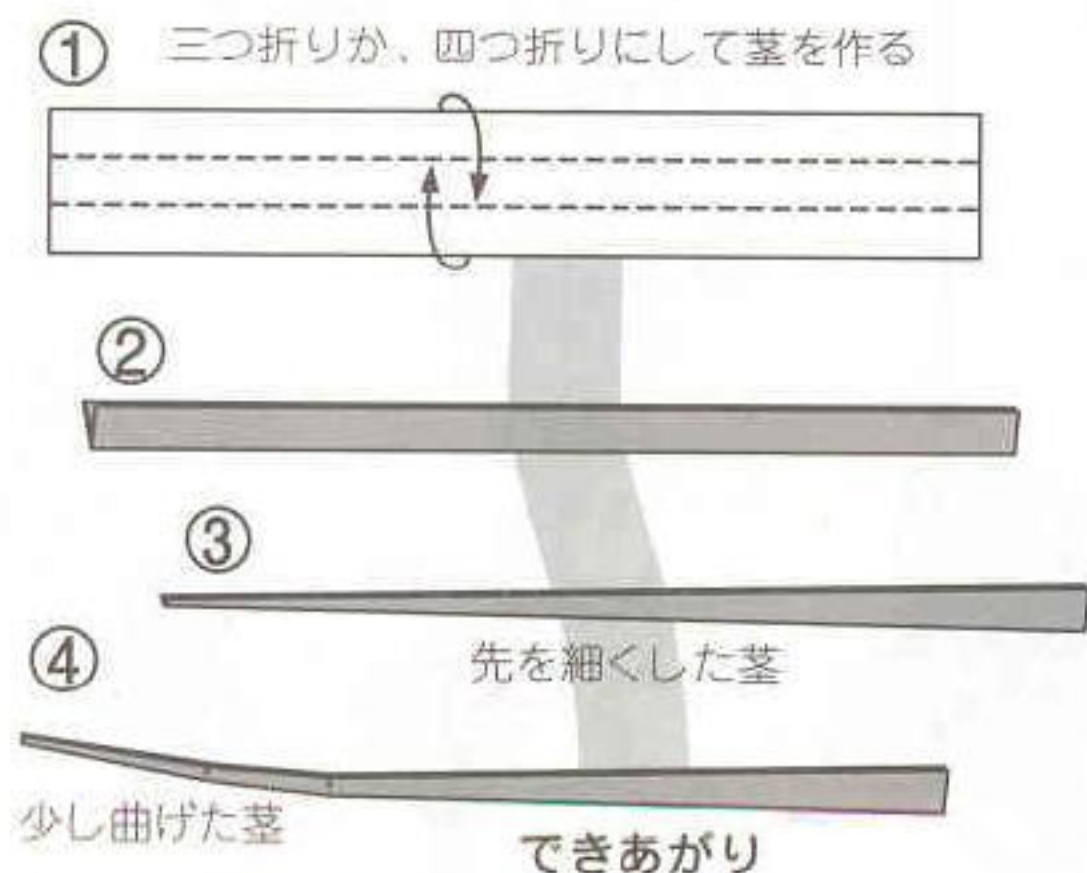
[葉] 3cm×20~25cm



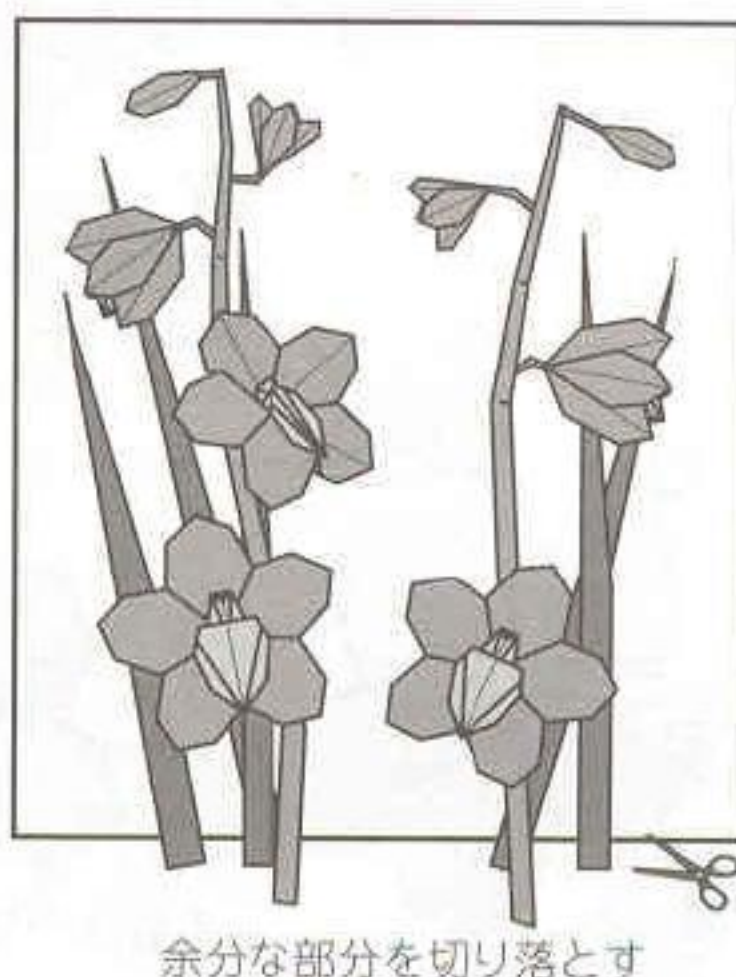
[茎]

2cm×25~30cm

茎は色紙に貼るときレイアウトによって先を細くしたり曲げたりする



[組み方]





「コロンブスの卵」

Columbus's Egg

逆瀬川貴司

Sakasegawa Takashi

コロンブスは、1492年、ヨーロッパ人としてはじめて新大陸アメリカに到達した冒険家です。

ところが、その冒険を、誰にでもできそうなことじゃないか、と莫迦にした人がいました。コロンブスはその人に問いかけました。「あなたは卵をテーブルの上に立てることができますか?」。相手ができないでいると、コロンブスは縦にした卵をテーブルに打ちつけ、カラをへこませて見事に立てて見せたのです。

そして一言。「何事も、他人がやった後に行うのは簡単なことです。」

1. 著作権

著作した人+権利

「特許を取っている」という言い方があります。これは「(新しい技術などを発明した人が)その技術を利用する権利を持っている」ということで、その権利を「特許権」といいます。つまり、「特許権」は「発明者」が持っている、「他人に技術を勝手に使われない」という権利です。

「著作権」は「特許権」に似ています。

「著作権」の場合には「著作権を持っている」と言いますが、「(新しい文学/芸術作品などを作った人が)その作品を利用する権利を持っている」という意味になります。「著作権」は、「ある作品について、他人に勝手なことをされない」という権利なのです。

「著作権を持つ人(著作権者)だけがやっていいこと(他人が勝手にやっては

いけないこと)」は、著作権法でいろいろと決められています。(表1)

著作権を細かく分けると、表1のようなことをする権利で、「公表権」「氏名表示権」「同一性保持権」などと呼ばれます。これらの多くは、基本的には、「勝手にやってはいけないこと」ですから、裏を返せば「著作権者の許諾があればできること」でもあります。

特許権と著作権には、違いもあります。大きな違いの一つは、特許権が主に工業的・科学的な技術に関する権利であるのに対して、著作権は文学や芸術に関するものであるという、いわば守備範囲の違いです。

【表1 (著作権者の主な権利)】

作品を公表する(または、しない)こと
作品に作者の名を表示する(または、しない)こと
作品に改造などの変更を加えること
作品(の一部)を複製すること
作品を展示すること
作品を譲渡、頒布や貸与すること
作品をテレビやインターネットで放送すること
(放送できる状態にすること)

2. 著作物

「著す(あらわす)」+作品

先に「新しい文学/芸術作品」という言い方をしましたが、著作権の問題を扱うときには、「著作物」という言い方があります。著作権法は、「著作物」とはどんなものかを規定しています。(表2)著作物の範囲をどのように考えるかを、例を挙げて説明しましょう。

工場で大量生産される茶碗と、作者(別に陶芸家である必要はありません)が何らかの思い(感動や感情など)を表現した茶碗(図工の授業や、旅先の樂焼の店で作ったものでも構いません)を比較すると、通常、工業製品の食器は、

【表2 (著作物に関する主な規定)】

「思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。」(著作権法第2条)

「この法律にいう著作物を例示すると、おおむね次のとおりである。」

- 一 小説、脚本、論文、講演その他の言語の著作物
- 二 音楽の著作物
- 三 舞踊又は無言劇の著作物
- 四 絵画、版画、彫刻その他の美術の著作物
- 五 建築の著作物
- 六 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型その他の図形の著作物
- 七 映画の著作物
- 八 写真の著作物
- 九 プログラムの著作物」(著作権法第10条)

「コロンブスの卵」

Columbus's Egg

逆瀬川貴司

Sakasegawa Takashi



著作物とは見なされません。著作権法第2条の「思想又は感情」を表現しているとは考えられないからです(著作権法の対象でなくても、意匠法や実用新案法で保護されている場合があります)。

また、ある人が頭の中ですばらしい彫刻を考えついて、それを作品にしようと考えていたところ、実際に作る前に別の人が偶然同じような彫刻を作って発表してしまいました。このとき、先に考えついていた人は、他人が自分の著作物を勝手に作ってしまったと主張することはできません。なぜなら、著作権法第2条で著作物を「表現したもの」と定めているからです。アイデアとして頭の中にあっても、表現されていないものは著作物とは見なされないのです。

さて、折り紙作品や折り図は著作物でしょうか。伝承作品は別として、現代の折り紙作品は、思想や感情＝作者が思い描く何か(恐竜の力強いイメージ、ウサギの可愛らしさ、龍や魔法の不思議な雰囲気など)を創作的に表現したものですし、完成度次第では十分に美術作品として通用するものでしょうから、著作物だと考えて良さそうです。

また、折り図は、見た人にわかりやすいように、時にはその作品の特徴がよく表れるように創意工夫されていますから、これも著作物と考えられるでしょう。

3. 著作権の制限

使っていい?いけない?

表1に著作権の主な中身を挙げましたが、この中に「鑑賞する」権利は含まれていません。当たり前のことですが、

著作権があっても「この作品を勝手に鑑賞させない」ということはなく、見たり聞いたりして楽しむことはできるわけです。著作者の権利を大切にすれば、誰もが鑑賞し、楽しむことができるのです。

ところで、日本折紙学会の例会やコンベンションで、新作発表や講習が行われたときに、「この作品の折り図はありますか?」という質問がよくあります。

作者以外の人折り図を見て作品を折ることは、考え方次第では作品の「複製」になります。しかし、折り図が描かれる理由のひとつは「他人にその作品を折ってもらうため」でしょうから、作者が折り図を発表すること自体が、その折り図を見る人に対して複製を許諾していることとするのが自然ではないでしょうか。

また、著作権法では、著作権を何もかも保護しているわけではありません。著作権者の持つ権利が制限される(著作権が保護されない)場合もあるのです。たとえば、著作権者の許可なしに「私的範囲で複製すること」は、法的に認められています。身近な例では、音楽CD(音楽は「著作物」です)を購入して、自分がMDプレーヤーで聞くためにコピーする場合などです。「自分が聞くため」というのが肝心で、友達のをコピーするのは著作権法違反になります。

同じように考えると、著作物である折り図のコピーも、自分のため(たとえば、図に書き込みをして折り方を研究するためなど)のコピーは認められますが、友達にコピーをしてあげるのは、著作権者の許諾がない場合、違法行為です。

では、折り図を見て折った作品を、自

分だけ(私的範囲)ではなく多くの人の目に触れさせること(お店に飾ったりすること)はどうでしょうか。実は、これは少し微妙な問題です。展示権は著作権のひとつですが、日本の著作権法では、美術作品に関する展示権は原著作物に限って権利を認めていますので、折り紙作品を美術作品と考えれば、著作者の許諾を得ずにその複製を展示しても、著作権法に反しないことになります。しかし、作品名と創作者名の表示など、できるだけ創作者の意志を確認することは、法的なルールというよりモラルだろうと思いますが。

なお、著作権の侵害(許諾なしに複製などをする)は違法行為ですが、著作権法違反という犯罪は親告罪ですので、被害を受けた人(著作権者)が違反者を訴えることによって司法的判断が行われることになります。

4. 折り紙作品一代記

著作権たちとの出会い

折り紙作品が、創り出されてからどのように「著作権」と関わっていくのかを、例を通してたどってみましょう。

折り紙愛好家Aさんは、自分のイメージに基づいてシマウマの折り紙作品を創作しました。思想又は感情を込めて作品を創り出したのですから、これは「著作物」の誕生です。同時に、作者が「著作者」となることでもあります。

また、その折り図(「著作物」)も描きましたが、それは自分が折り方を整理するためのものであり、公表しませんでした。

○逆瀬川貴司(さかせがわ・たかし)=1963年生。鹿児島県出身。幼い頃、両親から折り紙の本を、祖父から1,000枚の折り紙用紙を贈られ、人生の楽園の1つを知る。

理科系優位の現代折り紙愛好家の中で、数少ない文系。創作も行き当たりばったりなので作品数が少なく、作風も脈絡がないことを、本人は密かに悩んでいる。



(折り図の「公表権」)。

Aさんは、日本折紙学会のコンベンションで、作品を公表することにし(作品の「公表権」)、作品に「ゼブラ」と名づけ、自分の作品として公表しました(作品の「氏名表示権」)。作品はコンベンションの作品展示コーナーに置きました(作品の「展示権」)。

ところが、この作品を見たスタッフから、是非講習をして欲しいと依頼されたので、Aさんは講習のために折り図をコピーしました(折り図の「複製権」)。そして、講習の受講者に折り図を配布しました(折り図の「公表権」)。

展示コーナーにあった「ゼブラ」を大変気に入った参加者のBさんは、「自分のWebサイトで、『ゼブラ』の写真を使いたい」とAさんに言い、デジタルカメラで撮影することを承諾してもらいました(写真を撮るので、作品の「複製」の許諾。Webで公開するための「公衆送信権」の許諾)。

一方、Aさんの知らないところで、著作権に関わる事が起きていました。

Aさんの講習を受けた小学生のC君は、「ゼブラ」を改造して「トラ」を作りましたが、一緒に来ていた母親以外には「トラ」を見せませんでした(個人的に楽しむ範囲なので、作品の「同一性保持権」の侵害にはならないと考えられる)。

展示コーナーでは、Aさんの知らない間に、「ゼブラ」に少し手を加えた「シマリス」という作品が、Dさんによって展示されていました(無許諾で、公表しているので、作品の「同一性保持権」の侵害)。

また、講習を受けたEさんは、講習を

受けなかった友人のFさんから「受講者にだけ配られた『ゼブラ』の折り図をコピーして欲しい」と頼まれました。Eさんは、コピー代の実費だけをもらうなら問題ないだろうと考えて、Aさんに無断でコピーしてしまいました(友人は私的範囲とは言えないので、折り図の「複製権」の侵害。代金の設定は無関係)。

実際にはこれら以外にも多くのケースが考えられます。ひとつの折り紙作品を巡って、こんなにも著作権との関わりがあるのです。

なお、ここでは、伝承作品を別に扱うこととしました。その理由は、著作権には保護期間という考え方があり、伝承作品のような古い作品は、著作権の中の大部分について保護される期間を過ぎているからです。

最後に弁明をひとつ。この文章の執筆者は、仕事上で著作権問題に関わった経験がありますが、法律の専門家というわけではありません。細かい部分で解釈の異なる部分や、ケース・バイ・ケースで必ずしもここで述べたとおりでないこともあります(たとえば、Dさんの「シマリス」は「ゼブラ」にヒントを得ていても、かなり違っていれば「改造」(同一性保持権の侵害)ではなく新たに創作された「別の作品」とみなされるかもしれません)。

ただ、間違いなく言えることは、折り紙を好きな皆さんは、自分が作品と関わっているとき、その作品を最初に創り出した著作者に対して失礼なことをしていないか、作者が知ったら不快な、または悲しい思いをすることではないかを考えてみるべきだということです。

5. 創作のサポーター

～誰のために？

最近、音楽CDの売上げが落ちていると聞きます。その原因の一つに、CDを買わずに、不法コピーで楽しんでいる人が多いからではないかという考え方もあるようです。

お金のためだけに音楽を作る人ばかりではないでしょうが、たとえば、これから活躍が期待される新人のCDが不法コピーが原因で売れなかったら、その新人が音楽界から去っていくことになるかも知れません。

著作権法を守ることは、創作者を応援することになるのです。著作権法第1条は次の言葉で終わっています。

「……著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。」

本文章に関するお問い合わせは、必ずe-mail(webman@origami.gr.jp)でお願いします。電話、FAX等でのお問い合わせには応じかねます。また、匿名でのお問い合わせはご遠慮ください。なお、全てのお問い合わせには回答できないことがありますことをご了承ください。

《参考文献》

「四訂版 著作権法の解説」(千野直邦、尾中普子／一橋出版)

「著作権法」(斎藤博／有斐閣)

「解説教育六法」(三省堂)

東京の新宿にある社団法人著作権情報センターでは、一般への資料提供や電話による著作権相談を受け付けています。[著作権テレホンガイド 03(5353)6922]

数理を 楽しむ

オリガミクス[®]

芳賀和夫

Let's Enjoy Math through Origamics
Haga Kazuo

○芳賀和夫(はが・かずお)♂=1934—
去る11月30日(土)午後、日本総合学習
学会に招かれて、オリガミクスについて
「1枚の紙から広がる世界」という90分の
実習付き講演をしました。会場が東京大
学数理科学研究科棟だったので、数理
科学としての折り紙も意識しました。(過
去形で書いてあっても、発行日直前の
事なので予定原稿なのだ!)



コピー用紙1枚折りで最大の正四面体

How to make the largest regular tetrahedron from a single sheet of JIS-sized rectangular paper which has 1 to square root 2 ratio.

この連載では、素材としての正方形の紙をひらがなで「おりがみ」、それ以外の意味合いでは「折り紙」と書くことにします。

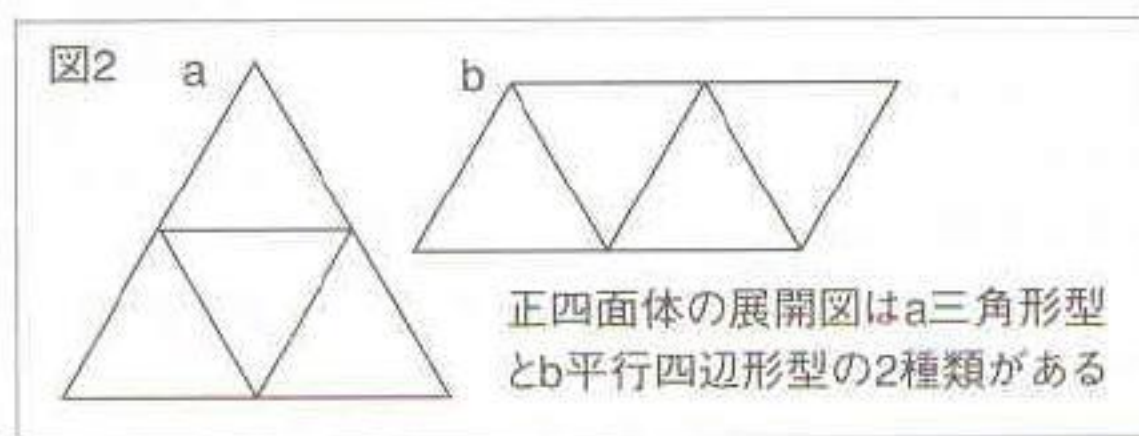
いまさら正四面体(図1)…?という気がしないでもないのですが、正方形おりがみからではなく、コピー用紙、便せん、メモ帳から折り込み広告に至るまで、どこにでもあるA4、B5などJIS規格サイズの紙($1:\sqrt{2}$)を使い、1枚の用紙から最も大きい正四面体を作ろうとしたときに、四苦八苦、いや、結構楽しさもあったから、四苦八楽?した結果について報告したいと思います。

「五箇条の制約」

前号(75号)の川村みゆきさんの「独り言」、その発想に驚きと共感と脱帽と羨望と憧憬をない交ぜにして読みました。思わず夜空にクローン羊ドリーの大きさを思い描いたりして…。以前から、いろいろなみゆきユニットを使って多面体を作ったり、子どもたちに作らせていたりしていましたが、川村さんの「ユニッター」に対して、実は、私は「モノシーター」です。mono-sheeter1枚折りにこだわる人という意味で、もちろん勝手に作った言葉です。

私は下記の5箇条の制約、あるいは努力目標を自分に課しています。

- (1) 無地の紙1枚から作る
- (2) いっさい道具を使わない
- (3) 紙に切れ目や裂け目を作らない
- (4) 形が安定している図形にする
- (5) 芸術的に仕上げる



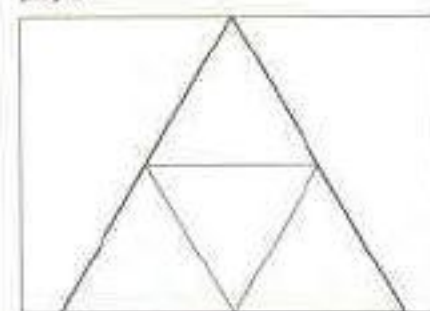
な展開図配置の折り線構造を描いてみました。

傾きの角度は分かったけど…

しばらく(実はときどきなので何日も)この図4とにらめっこをして、まず、角度を計算する方法が1本の補助線(図5太線)を引くことによって可能であることが分かりました。それによって、対角線の半分を斜辺とし、他の2辺が正三角形の1辺と中線である直角三角形(図5アミ)ができ、これによって逆三角関数で傾きの角度が求まり、また、面になる正三角形のサイズも求めることができました(図6に記入)。

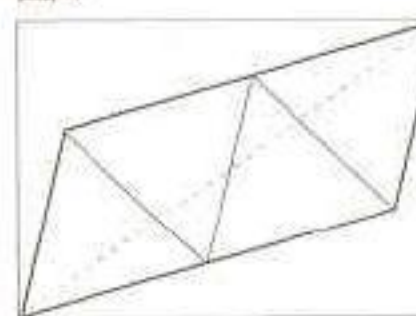
しかし、それらは簡単な値ではなく、分かったといっても、どう折ればよいかが分かったわけではありません。

図3



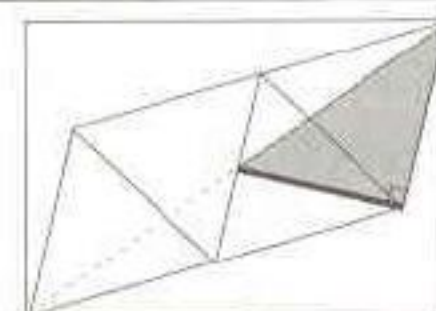
規格長方形紙に三角形型の展開図を最大に配置すると、底辺が折り線ではなくなる

図4



規格長方形紙に平行四辺形型展開図を最大に配置すると対角線(破線)が一致する

図5



1本の補助線(太線)で2辺の比が知られている直角三角形が描けるので、角度や長さが計算できるようになる

近似値探しの試行錯誤

そこで、紙の中心を走る1本(中央斜線)に目を付けました。設計図でこの中央斜線を折ってみると図7aのようにになります。このときに重なった左右の辺の交点は中央斜線の中点に直交する線、垂直二等分線の左右の端点と一致しています(図7b)。つまり、新しい用紙にこの端点の位置さえマークできれば中央斜線を折ることができるわけです。このマーク(図7●)を「基準点」と呼びましょう。

紙に不要な折り線をつけずに基準点だけをマークするには「定理折り」が有効です。これは、辺の上などにある1点に紙のいずれかの角(頂点)をあてがって紙を折る折り方で、芳賀第1定理の折り方に由来します。この際、折り線全体を折らずとも、辺にたるみがないように注意すれば端

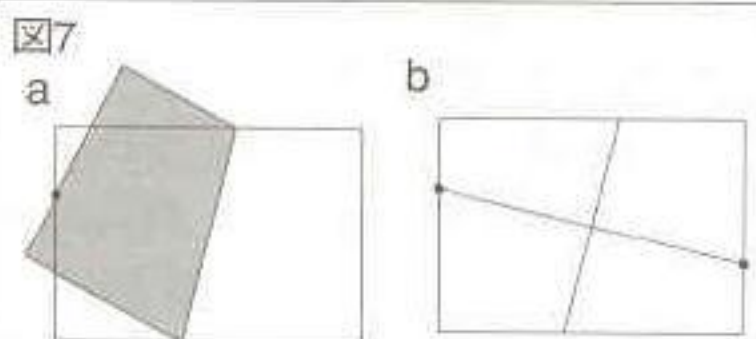
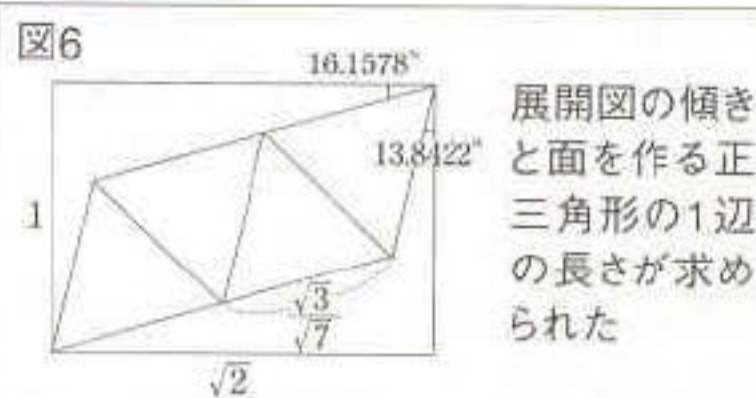
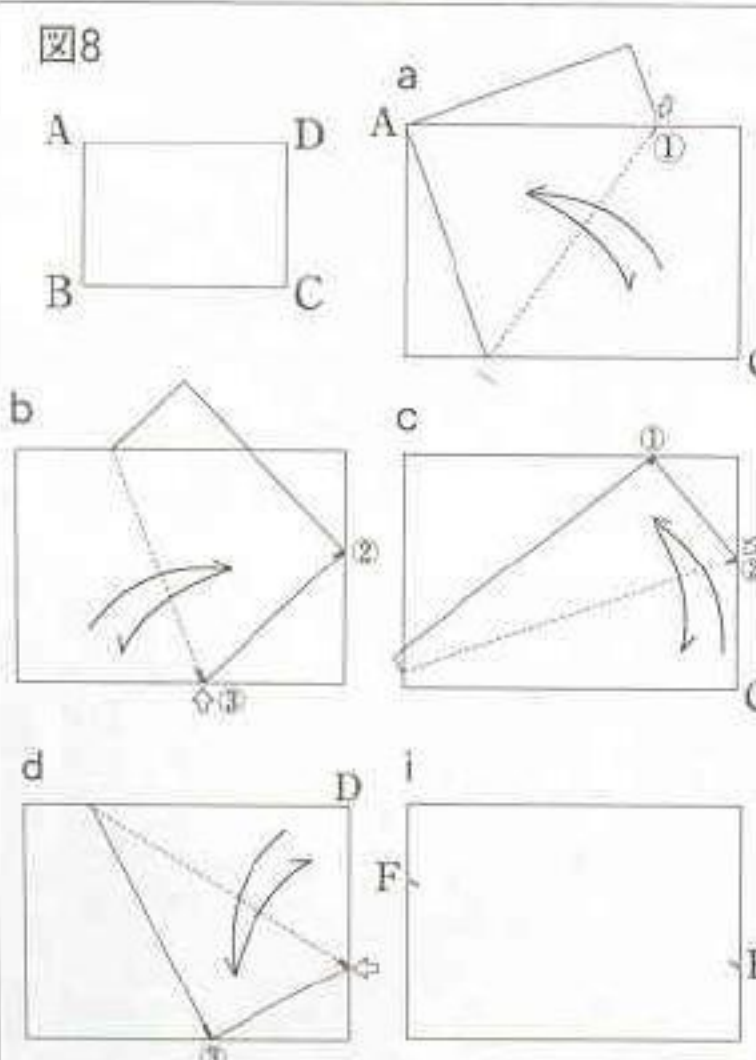


図6の中央斜線はその垂直二等分線の両端を合わせて折った折り線になる



基準点を「定理折り」を繰り返してマークする(E, Fが基準点)

に短い折り線をマークとしてつけることができます。そして、1辺につけたマークをもとに他辺に次のマークをつける、といったことを繰り返して計算上の正確な位置にできるだけ近い基準点を得ようとする。これは、試行錯誤の繰り返しです。

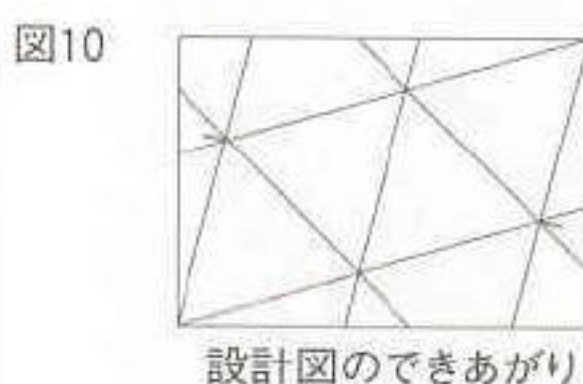
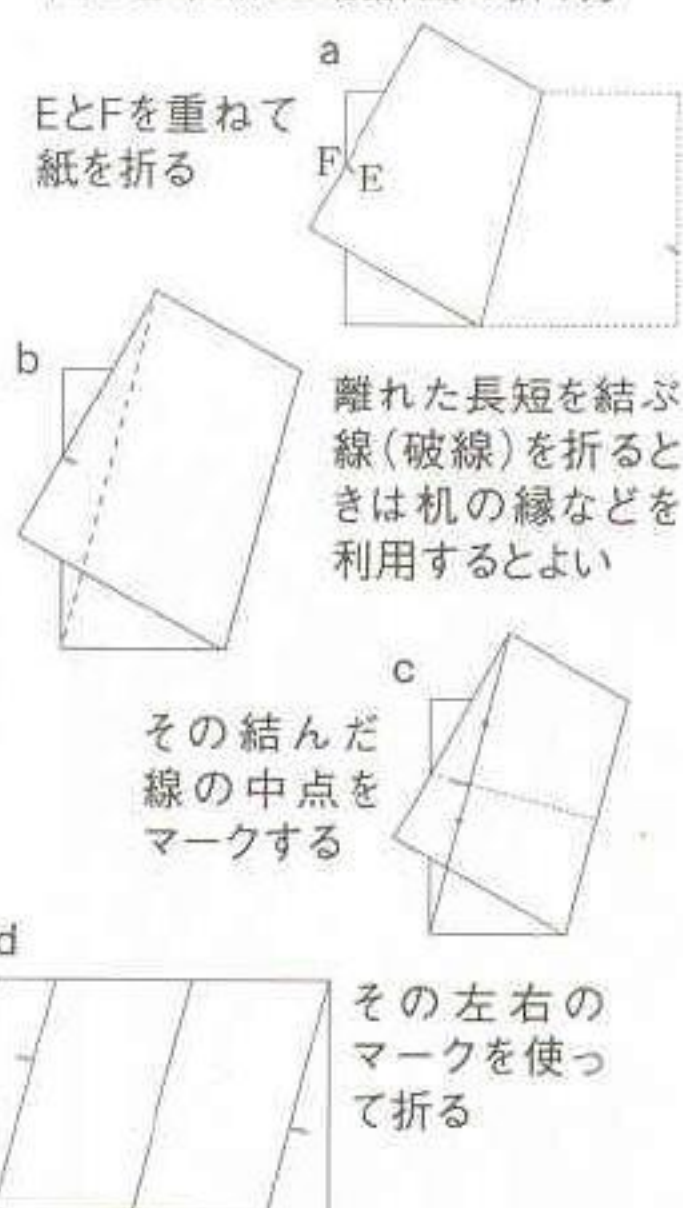
4ステップで基準点

ようやく納得のいく基準点のマークの仕方を見つけました。これは左右4ステップずつでマークできます(図8a~d)。(a)規格紙1枚を横置きにします。説明上、その4隅の頂点を左上から反時計回りにABCDとします。

(a)AにCを重ねて辺AD上に短い折り線マークをつける(矢印①)。(b)そのマーク①にCを重ねて辺CD上にマーク②をつける。(c)そのマーク②にBを重ねて辺BC上にマーク③をつける。(d)さらに、そのマーク③にDを重ねてCD上にマーク④をつける。これが基準点の1つEになります。

以下、反対側に同じことの繰り返しをすることになるので図は省略しますが、(e)CにAを重ねて辺BC上にマーク⑤をつけ

図9 基準点から設計図の折り方



設計図のできあがり

る。(f)そのマーク⑤にAを重ねて辺AB上にマーク⑥をつける。(g)そのマーク⑥にDを重ねて辺AD上にマーク⑦をつける。(h)さらに、そのマーク⑦にBを重ねてAB上にマーク⑧をつける。これが他の1つの基準点Fになります(i)。

設計図から正四面体へ

設計図の折り方は図9によります。(a)得られた基準点E, Fを重ね合わせて紙を折ることによって中央斜線ができます。(b)紙を折り重ねたまま、一番離れた位置にある2つの頂点を結ぶ線(破線)で紙を折ります。これは折りにくいので、机の縁に両端の頂点を合わせておいて縁の線で型をつけるような五箇条2に?がつく方法も便利に使っています。(c)その離れた頂点を結ぶ線の中点にしるしを付けます(矢印)。この中点が正四面体の面になる正三角形の頂点の一つになります。今までの線や点を使って残りの線を折っていけば(d)の設計図ができます。この先はうまく描画できませんが、これらの折り線で立体になるように折って、余りの部分を内側で互いにうまく差し入れるようにすると、一応、形を保つ正四面体になります。甘く採点して五箇条4もOです。

誤差は?一合格!

最後に誤差を計算しておきましょう。図8で次々にマークと頂点を合わせたときの折り線は、その2点を結ぶ線分の垂直二等分線です。その一方の端点がマークされるわけですから、2点の位置からピタゴラスと三角形の相似比でマークの位置が計算できます。計算が煩雑になるので、最終結果だけ書くと、基準点Eは、 $CD=1$ とした場合、 $DE=0.67715549\dots$ となり、正確な計算上の基準点の位置の $DE'=0.67423461\dots$ の100.433214...%なので、誤差0.43%、目標の1%以下になりました。しばらくは、手当たり次第いろいろな大きさの紙で正四面体を作り、この程度の誤差では全く支障ないことを確かめました。

いつのまにか机の周りは大小色とりどりの正四面体で埋まりました。

折り紙資料館

5

Takagi Satoshi's the Origami Reference Room

高木 智

Takagi Satoshi

鈴木春信画「見立恵比寿」ほか

—「舟」のおりがみから2—

Origami vessels 2: from "A Boy as the God Ebisu" by Suzuki Harunobu, and others

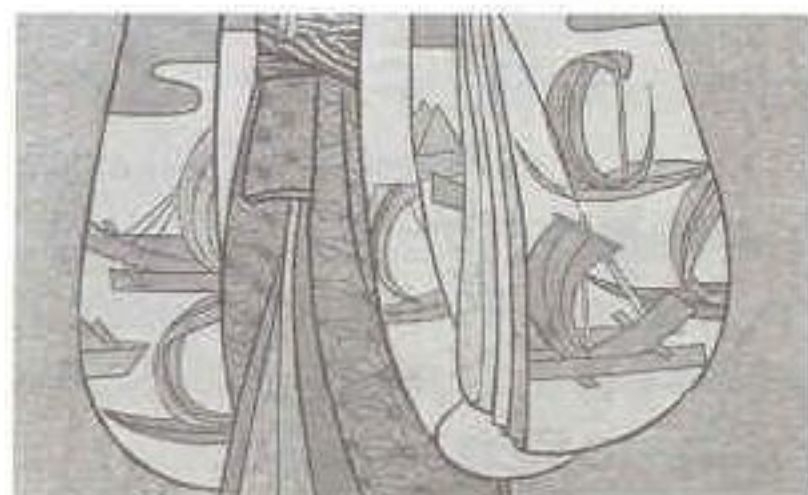
元禄時代以後、衣装の雛形本に現れた「折り据の舟」は、前回記したように、まず宝永元年(1704)刊の『丹前ひいなかた』にあり、続いて西川祐信画の正徳3年(1713)刊『正徳雛形』のうち「若衆風」の80番に二種類の絵が見える。この雛形は、『折るころ』にも提示したように、北尾重政画の「東西南北之美人」のうち「西方の美人 堺町」(安永期=1772~80刊)の「橘屋内三喜蔵」の着物の柄として、そっくり取られているのだが、実は、それ以前に、鈴木春信も明和2年(1765)頃の「見立恵比寿」に同図をちゃっかり借用している。今回同図の色擦り複製を入手したので提示する。いずれも、若衆の着物であることは原作に同じである。ただ、原作には「かた、板ぶね折すへ舟白 地あさぎ(浅葱)あけほの 水ほそのり すそ白に さぶねに色ぞめ 又地ぢやにてもよし」とあり、「西方の美人」がその指定に忠実なのに対し、春信は、着物ではなく羽織の柄として扱ったり、色も変えるなど、あえて独自のスタイルで纏めている。

さて、これらの図の舟は、いずれも「かぶとの基本形」から折る作品と考えられるが、春信はその後、幾つかの特殊な形

の舟を描いている。「蹴鞠(けまり)の男女(仮)」のうち娘の着物の柄をはじめ、「婚礼錦貞女車(こんれいにしきみさおくるま)」(中判錦絵・揃物)の「床杯(とこさかずき)」や「杯」に描かれている娘の袖、その他にも船首が極端に折れ曲がった図を描いている。特に「蹴鞠の男女」やタイトル未詳の中判錦絵の場合、単に線が曲がっているのではなく、明らかに折りが入っていることを意識しての図と思われる。それは、別の折り方の存在を思わせるほどである。中でも、タイトル未詳の作品の場合、「折すへ舟」の縁を斜に引き寄せるように段折りした形になっている。もともと、三角を重ねる荷の形は祐信を踏襲しているようであり、かなり杜撰なものではある。また、春信の図は、「折り鶴」の

場合でも、かなりカリカチュアして描いているものも多いので、頭の中で変形してしまったのかも知れない。

春信を学んで、一時ほとんど変わらない絵を描いていた磯田湖龍斎は、折紙に関しては、春信や喜多川歌麿が女の着物に折り鶴柄を多用したのに対して、「風流女郎八景 玉屋 しづか 暮雪」(中判錦絵、安永頃=1772~刊)の禿や、「江戸町二町目玉屋内 しづか」(同上)の着物の柄のように、もっぱら舟柄を描いている。もともと、これらの絵、特に「玉屋」の内部はまことに丁寧に描写しているので、その衣装も正確に描かれている可能性は高い。したがって、この「舟柄」は湖龍斎の好みで描いたわけではないのかもしれないが、もしそうだとすると、同じ「しづか」を描き乍ら、一枚は太夫の衣装に、他は禿の着物の柄に同じ「舟柄」を使っているという不思議な現象がある。このあたり、考えられるのは、一枚は慎重



▲「見立恵比寿」部分図
(全体写真は21ページに掲載)



◀「蹴鞠の男女」部分図



◀「床杯」部分図



◀「杯」部分図

○高木 智(たかぎ・さとし)＝昭和10年6月10日
京都市生まれ。京都大学教育学部卒。昭和42年頃
荒木京子に師事、折り紙を始める。現在日本折紙協
会理事。著書に『古典にみる折り紙』他実用書多数。



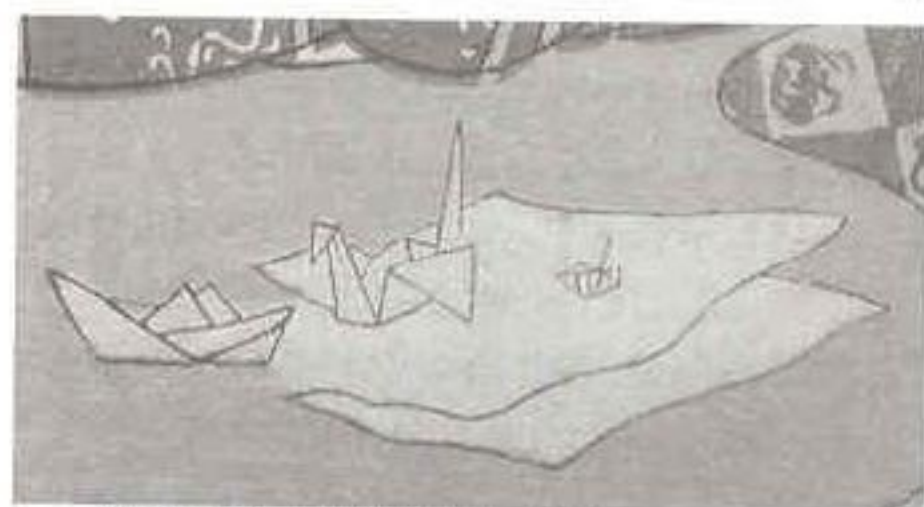
に描写したが、他の一枚は印象によって描いたため二人の衣装の柄を取り違えたのかも知れない。いずれにしても、遊女もまた現実に「舟柄」を使っていた可能性がある。しかし、湖龍斎にはこの他にも、「名鳥坐敷八景 きんけい夜雨」(安永頃=1772～刊、中判錦絵)、「風流七小町 雨乞」(天明頃=1781～刊、中判錦絵)など、幾つかの「舟柄」の作品があるのも事実である。

湖龍斎は、そればかりか、郭の遊女などに、「荷舟」などを持たせてすらい。例えば「あさづま舟」を習っていたはずの「新吉原芸者 荻江 ふさ」(寛政頃=1789～刊、中判錦絵)が、三味線を手放して「荷舟」を持っていたり、さらに「雛形若菜初模様(ひなかつわかなのはつもよう)」シリーズの「鶴屋内 すがはら」(安永年間刊、大判錦絵)の禿も、やはり「舟」を持っている。この「舟」は「荷舟」であるが、もはや祐信の描く作品よりすっきりとし

ていて、ここでも新たな作品の存在を思わせる。

「舟」のおりがみ、もしくは着物の「舟柄」で閑却視できないのが鳥居派の画家たちの絵である。まず、鳥居清信が、「おきく幸助ひよくのかがもん」(享保頃=1716～刊、細判紅摺絵)に「荷舟柄」を描いているのを筆頭に、享保3年(1718)清忠が「平仮名嫁入伊豆日記」(中判紅絵)、清倍が「役者と女絵双紙屋」(享保11年=1726、中判漆絵)「高足駄の雪おとし」(享保頃=1716～刊、細判漆絵)「夕顔の宿」(「役者名物略(やつし)姿」(宝暦7年=1757刊、歌舞伎狂言本挿絵、清満と共同制作)、清満が「新吉原之図」(宝暦年間=1751～刊、大判浮絵、「折るころ」41ページ参照)、「百人一首」(享保頃=1716～刊、大大判紅摺絵)「雁のちらし文」(嵐雛次」(享保以後=1716～刊、細判紅摺絵)、清経が「二代目山下金作のせんじ茶うりおみや」(安永年間=1772～刊、細

判錦絵)「菊慈童酒宴岩窟(きくじどうしゅえんのいわや)」(安永4年=1775刊、横本絵番付)などに、多少の変化はあるが、それぞれ「荷舟柄」を描いている。それらは、歌舞伎もしくはその役者の着物の柄である場合が多いようで、必ずしも画家の考案による絵柄であるとはいえない。そのことは「黒舟忠右衛門」役が、時代の違いを越えて石川豊信(「黒舟忠右衛門と獄門庄兵衛」、寛延3年=1750刊、細判紅摺絵)、歌川國芳(「大日本奇人画像風俗高名略伝 下」、天保3年=1832刊)の二人によって「舟柄」の着物を着て描かれていることも注目し値する。これら、名前にちなんだ着物の柄については、いずれ別記するつもりである。



▲タイトル未詳の中判錦絵部分図

▼「江戸町二町目玉屋内 しづか」部分図



▲「風流女郎八景 玉屋 しづか暮雪」部分図



▲「新吉原芸者 荻江 ふさ」部分図

▼「鶴屋内 すがはら」部分図



まだまだ 折紙 散歩

前川淳の

折るくすり

第4回

Medicine to Fold

野辺山は、11月上旬にして既に零下6度。寒いよ、パトラッシュ。



筆者紹介＝東京生まれ。折紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

We often see names and things related to origami in the medical world. For example, we sometimes come across the name "orizuru" as names of pharmacies, drug stores and therapeutic facilities. Also, one method of wrapping powder medicine had been common before adopting the mechanical wrapping that uses a sheet of paper folded pentagonally. I wonder if this method is peculiar to Japan or not.

散歩と薬と折り紙と

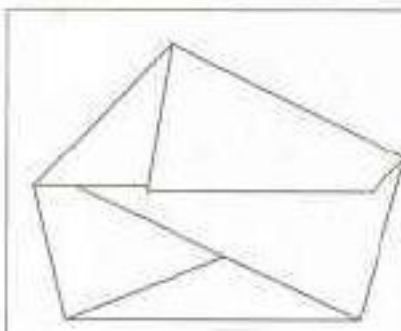
「散歩」という言葉は薬に関係がある、と言われている。古代中国の薬学書に記された五石散なる薬。治療薬というより仙薬、要するに麻薬の類で、服用すると発熱や発汗が激しく起こり、それを発散させるために歩き回らなくてはならない。また、そうしないと、死ぬことすらあるという。発散させるために歩く、すなわち「散歩」、これが散歩の語源だというのだ。つまり、散歩ってのは、向精神薬でワリって歩き回ることなのだ。危ないなあ。

一方、折り紙も薬と関係がある。…って、わたしは、折り紙と〇〇が関係がある、なんてことばかり言っているね。まあ、それはいいでしょう。そういう連載なんだから。で、折り紙と薬とくれば、薬玉(くすだま)や、置き薬のおまけの紙風船なども連想されるが、なんといっても薬包紙である。粉薬を包むための薄くて丈夫な正方形の紙。そして、あの五角形の折りかた。それは、史上最も多く折られた「実用折り紙」なのではないか。ただ、他の折り紙作品同様、その折りかたの起源ははっきりしていない。明治初期やそれ以

前になると、長方形用紙による畳紙(たと)式の包み(道三流と呼ばれるらしい)が一般的だったようで、五角形包みは見あたらないのだ。

現代では機械による分包が一般化したので、あの包みかたも見かけなくなってきた。じっさい、さっきから「あの包みかた」などと言っているが、もしかしたら、若一いひと(単に若いひとではなく、若いひとだ)は、ほとんど見たことがないのかもしれない。市販薬の「改源」は今でもそれを使っており、薬学部の学生も、実習でちゃんと教わるらしいけれど。

ところで、「あの包みかた」には、バリエーションがある。最初の折りできっちり対角線では折らないというのは共通しているのだが、そのずらしかたが、回転対称ずらしであったり、平行ずらしであったりなど、いくつかの流儀があるのだ。もしかしたら、〇〇大学系、××病院系などというものがあるではないか? 他にも、薬を服むときに薬包紙を対角線に折ってはいけないという俗信(高井弘明さんが子供のころに聞いたという)など、このテーマにはまだまだ面白い話も多い。先日、奈良県御所(ごせ)市の三光丸本店(注)を訪問して、多くの興味深い情報も得た。今回は書ききれないので省略するが、いずれまた報告する機会もあるだろう。



粉薬の五角形包み
Pentagonally-
folded sheet for
wrapping powder
medicine

元気になる折鶴

次は、「またかいな」と言うなかれ、折鶴である。いまや平和の象徴となった折鶴だが、それも健康長寿の象徴としての意味があったからこそである。言ってみれば、折鶴は「精神的な薬」の意味を持っている。以下に、そうした話題を2、3紹介しよう。

まずは、前橋市の井上薬局とおりづる調剤薬局。井上薬局が本店で、おりづる

調剤薬局は総合病院前にある支店だが、どちらの店舗にも折鶴の意匠が使われている。「千羽鶴を折るような気持ちで皆様の健康を祈りながら、調剤に携ってゆけたら」という理念によるとのこと、レシートにも折鶴マークがついているところが、コレクター的にはポイントが高い。

屋号に折鶴を冠する薬局・薬店はほかにもある。井上薬局・おりづる調剤薬局



井上薬局(前橋市)
Pharmacy Inoue in
Maebashi city



折鶴薬店(羽村市)
Drug store Orizuru in
Hamura city

いぞ、羽村市。動物園もあるし。(関係ないけれど)

もうひとつ医療関係施設を紹介したい。場所は宮崎市。その名も「折鶴治療院」という。いくら物好きなわたしとは言え、わざわざ宮崎に行ったのではなく、同地で開催された天文学会に出席したついでに同所に寄ったのだが、これがなかなかのモノだった。折鶴を屋号にもつ物件は数あれど、これだけ折鶴を前面に押し出したところはない。看板や窓に折鶴の絵の数々。受け付けには、当然という感じで千羽鶴。治療院というより、児童館のようなノリのディスプレイだった。

「折鶴治療院」を見ただけで元気になったわたしは、その後、同地で不思議な偶然に遭遇した。最後にその話をしよう。学会終了後、市内から10数キロ離れた有名観光地の青島神社に寄った。そこで見つけた一房の千羽鶴。千羽鶴といっても千羽はなく、しかも折鶴でもなかった。なぜか「ふくら雀」(注)なのである。珍しいので、写真を撮ろうと近づいたわたしは、小さく声をあげるほどびっくりした。奉納者の名前が、そのときの学会でのわたしの共同研究者と同姓同名だったのである。記された日付は当日。合理的に考えれば、奉納者がじっさいにそのひとであったという可能性が高い。しかし、確認してみるとまったくの別人で、ほんとうにただの偶然だったのだ。こういう事例は、確率の定義自体が難しいのでなんとも評価しがたいが、こちら側が偶然を引っかけ

たのである。記された日付は当日。合理的に考えれば、奉納者がじっさいにそのひとであったという可能性が高い。しかし、確認してみるとまったくの別人で、ほんとうにただの偶然だったのだ。こういう事例は、確率の定義自体が難しいのでなんとも評価しがたいが、こちら側が偶然を引っかけ

折紙辞典

三光丸本店【さんこうがんほんてん】

奈良県御所市にある、六百年以上の歴史を持つ和漢薬メーカー。大正時代に、薬包紙の五角形包みを使った包装で、いまでいう実用新案をとっており、現在も、この包みを模したパッケージングを使っている。本店には、「三光丸クスリ資料館」が併設され、一般見学も可能である。なお、「改源」については、「季刊をる」6号に詳しい。

ふくら雀【ふくらすずめ】

伝承作品のひとつ。折鶴の基本形ではなく、いわゆる正方基本形から尾とくちばしを細く折ってつくる、折鶴をずんぐりさせたような造形。どう見ても雀には見えない。近年「雌の折鶴」と呼ばれることがあるが、その呼称がどこから広まったのかも定かではない。

たのである。記された日付は当日。合理的に考えれば、奉納者がじっさいにそのひとであったという可能性が高い。しかし、確認してみるとまったくの別人で、ほんとうにただの偶然だったのだ。こういう事例は、確率の定義自体が難しいのでなんとも評価しがたいが、こちら側が偶然を引っかけ



一種の「折り紙彫刻」(羽村市)
A Kind of "Origami Sculpture" in
Hamura city



折鶴治療院(宮崎市)
Orizuru Therapeutic House (acupuncture, moxa cautery
and massage) in Miyazaki city

然を引っかけ
る鉤を持って
いたからこそ
起きた出会い
だった、とは言
える。なにか興
味のタネを
持っていれば、
ひとは薬なん
か服まなくても
ハイになれる、
ということでも
ある。

●朝の冷え込みが次第に厳しくなってゆきます。冬の室内ではもうすぐシンビジウムが花をつける季節。落ち着いた色調のなかに微妙なあたたかみをもつ画面が、外の冷たい空気までも同時に表現しているかのようです。

●今回のびっくり箱作品はまさに開けてびっくり。立方体のなかから次々に飛び出す多面体で、制作したあともパズル的な楽しみ方ができる作品が登場です。

●複雑な曲面で構成され、難度の高い題材としてこれまでも多くの作家を惹きつけてきた「猫」というテーマ。今回紹介する小松氏の新作では、シャープな形態のなかに筋肉のしなやかな緊張までも内包したような印象が魅力的です。

●本誌74号にひきつづき、高木氏の連載では浮世絵に描かれた「舟」の図案について縦横に考察が展開されます。本文中にも登場する春信の作品から、画家が敏感に感じとった当時の世相が伝わってきます。

●ぱっと見て、ほんとうに平面の用紙からできているのかと戸惑ってしまう、モズリー氏の奇抜なユニット。海外作家ならではの斬新な視点をお楽しみください。



「シンビジウム」 作:田中具子 (P.8)

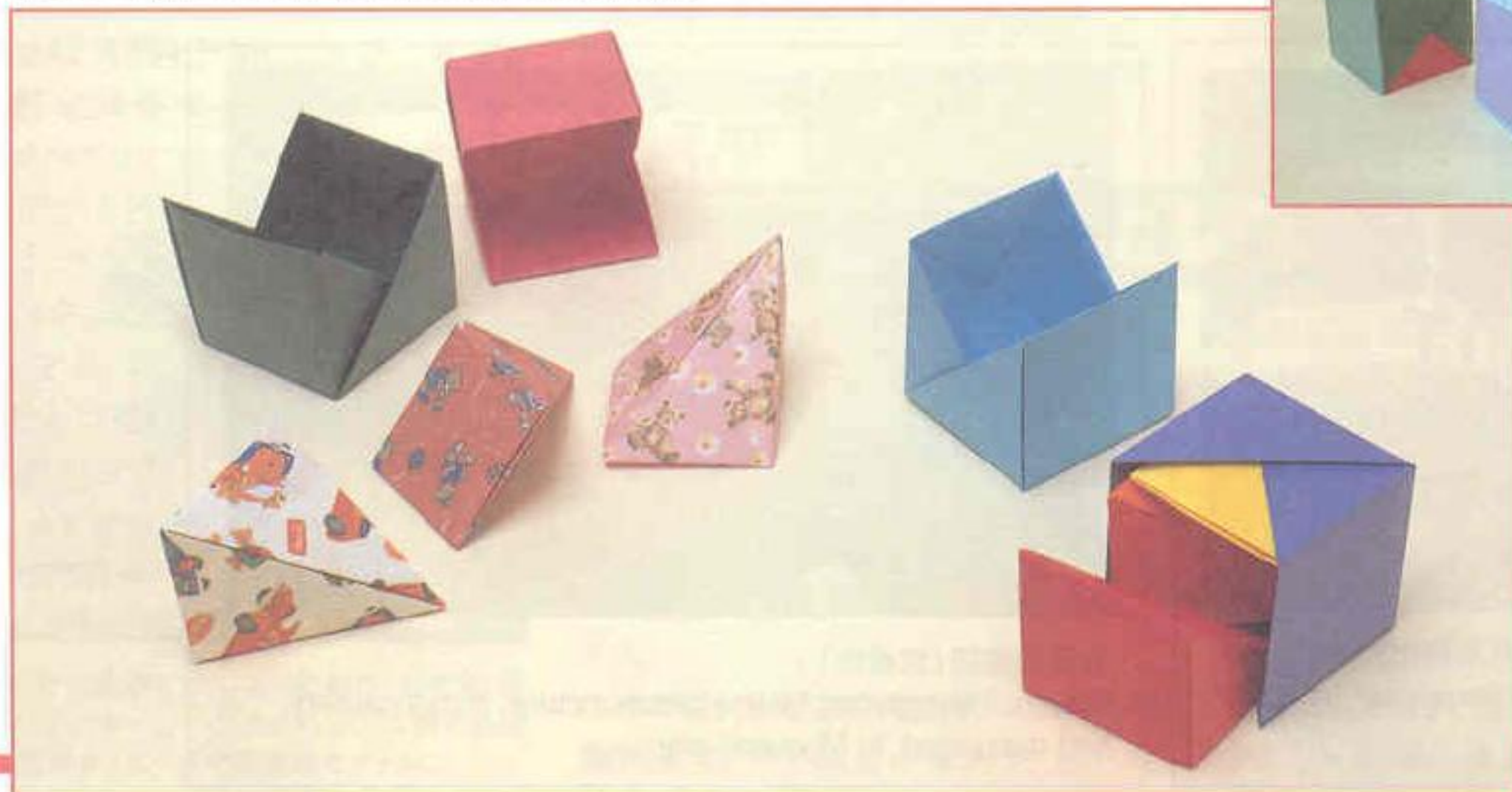
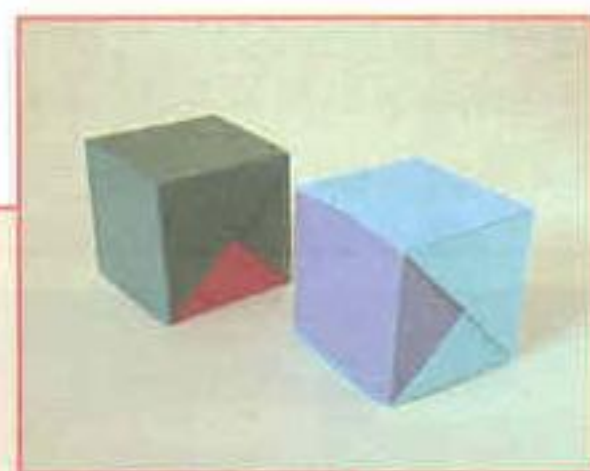
Cymbidiums : Tanaka Tomoko (P.8)

■花の色は黄、桃、紅、橙、緑、白などさまざまな品種が存在します。ランの仲間に特有の肉厚な雰囲気表現すべく、用紙選びや仕上げ方を工夫してみました。

「1/3立方体・1/3立方体を詰める立方体」 作:布施知子 (P.4)

Tripartite Cube, A Tripartite Cube's Cubic Container: Fuse Tomoko (P.4)

■3つの四角錐がぴったりと合体。さらにそれをきれいに収納できる、立方体の箱の折り図も用意。作例のように色とりどりの包装紙を使えば、まさにおもちゃ箱をひっくり返したようなにぎやかさが味わえます。





「猫」 作:小松英夫 (P.22)

Cat: Komatsu Hideo (P.22)

■顔に配された放射状の折り線が、重要なアクセントになって作品全体を引き締めています。作品全体を構成する面と線のバランスは、多くの手間をかけて練り上げられ、洗練されていることを感じさせます。

「見立恵比寿」 鈴木春信 画 高木 智 蔵 (P.16)

"A Boy as the God Ebisu" by Suzuki Harunobu (P.16)
(From a Collection of Takagi Satoshi)

■以下、高木氏によるコメントです。

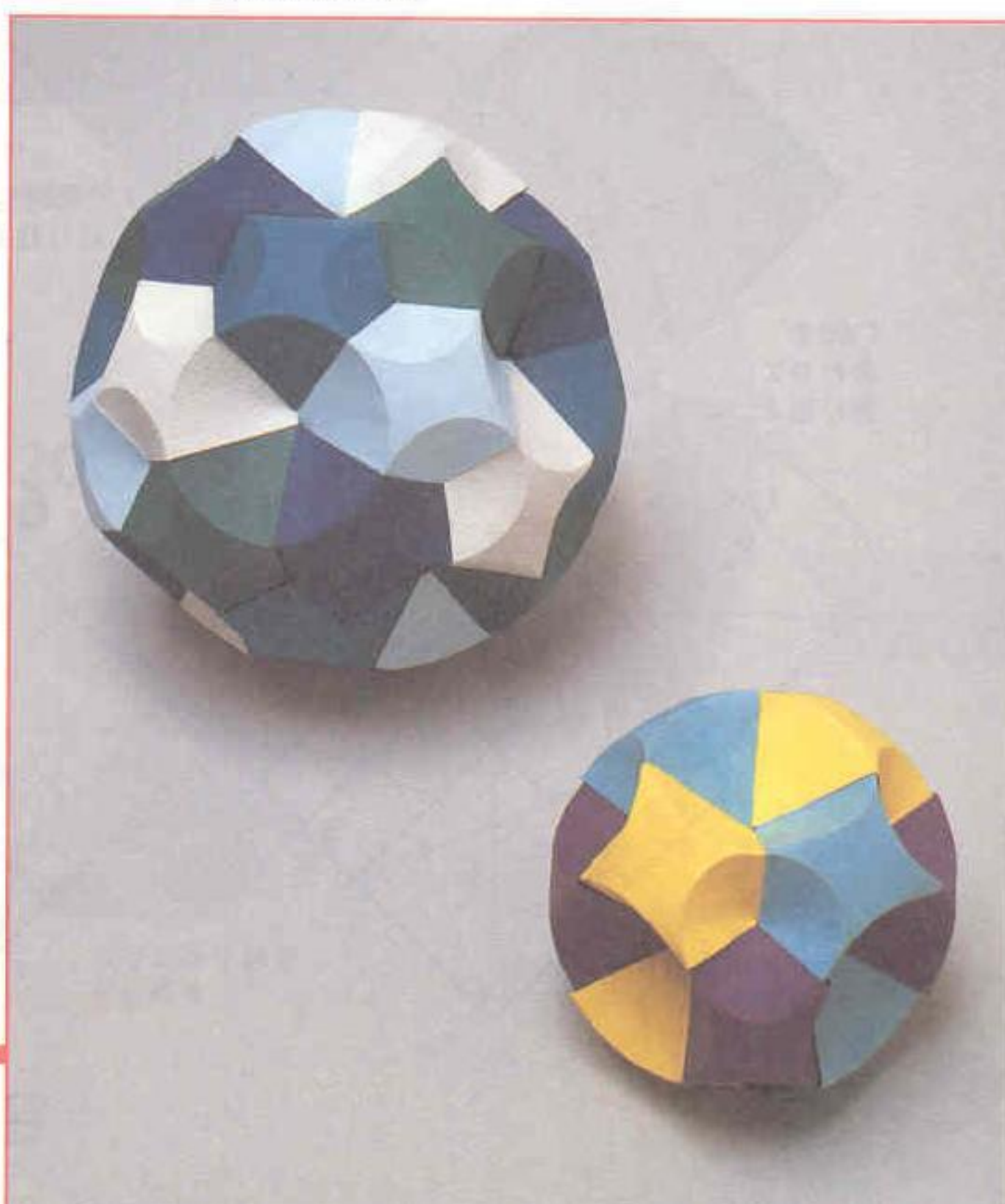
この絵は西川祐信画の『正徳雛形』に描かれた図案を羽織の柄として借用している。「恵比寿」は漁労の神で、関連の船を扱ったと思われる。春信は祐信の息子と考えられ、江戸に下って錦絵を考案したので、折り紙をはじめ上方文化の東漸に貢献した。



「オーブ」 作:ジニーヌ・モズリー (P.35)

Orb : Jeannine Mosely (P.35)

■曲線の折り目を主体にして構成された、カラフルなユニットの球体。このような技法が存在したのか、と発想の豊かさに改めて感心させられます。まだまだ奥が深い、折り紙の将来や可能性を垣間見せてくれる作品です。



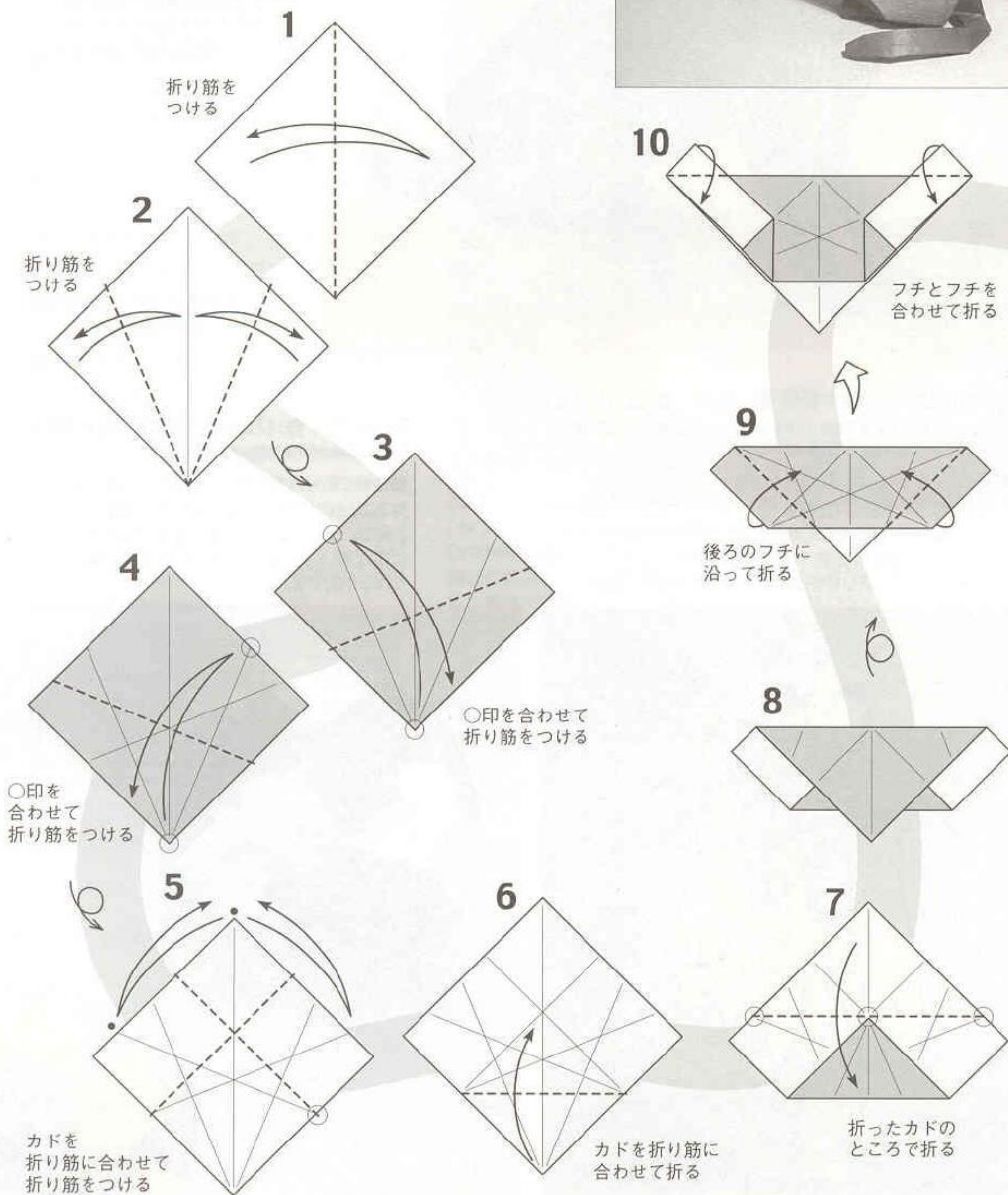
猫

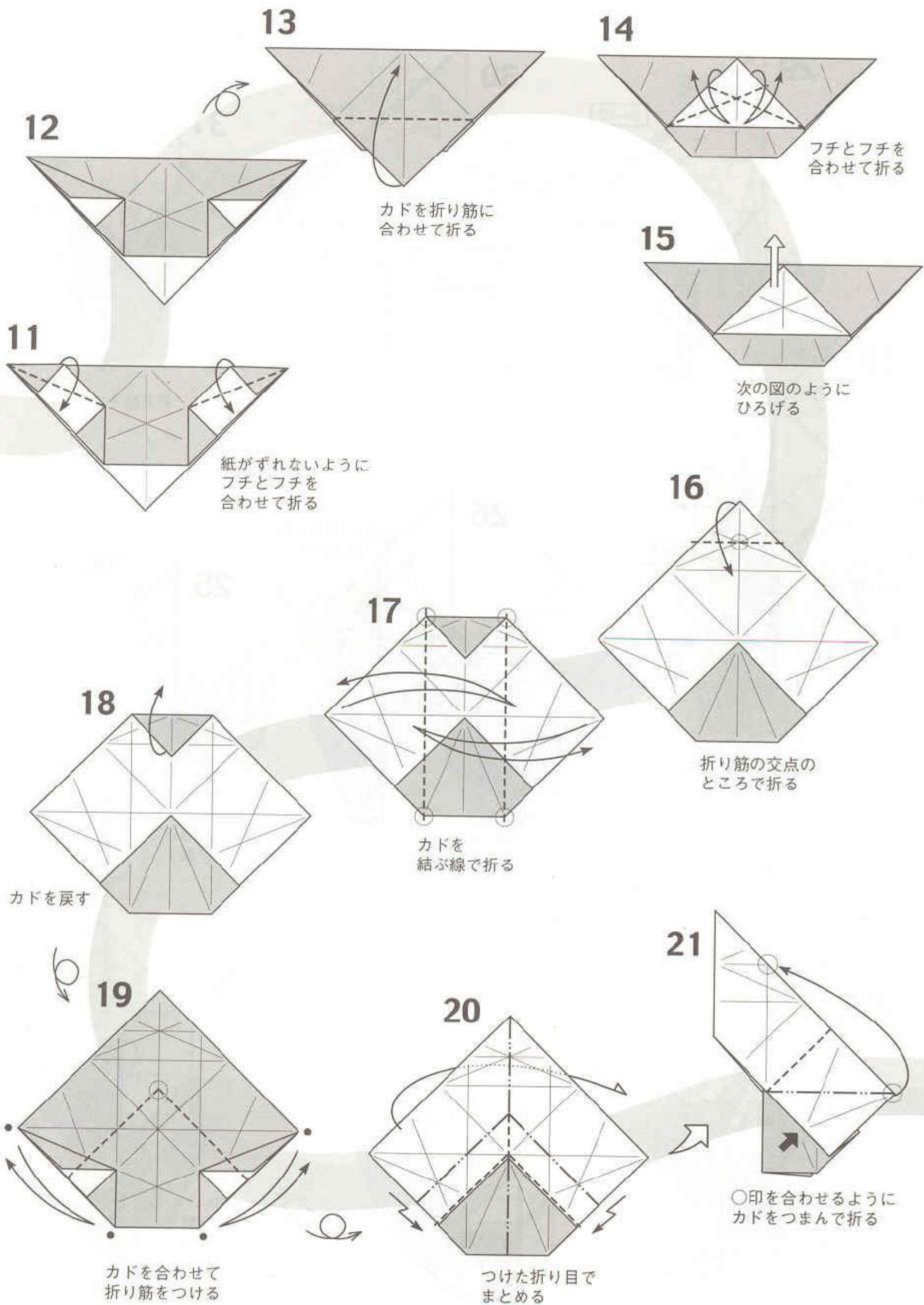
小松英夫

"CAT"

model designed by Komatsu Hideo (Aug. 2002)

diagrams produced by K.H. (Oct. 2002)





29

反対側も
24~28 と
同様に折る

24-28

30

全体を開く

31

折り筋をつける

28

ついている
折り筋で
カドをつまむ
ように折る

26

ヒダを左側に
引き出す

25

折り目をつけて
戻す

27

○印を
合わせて折る

22

持ち上がった部分を
フチに合わせてつぶす

23

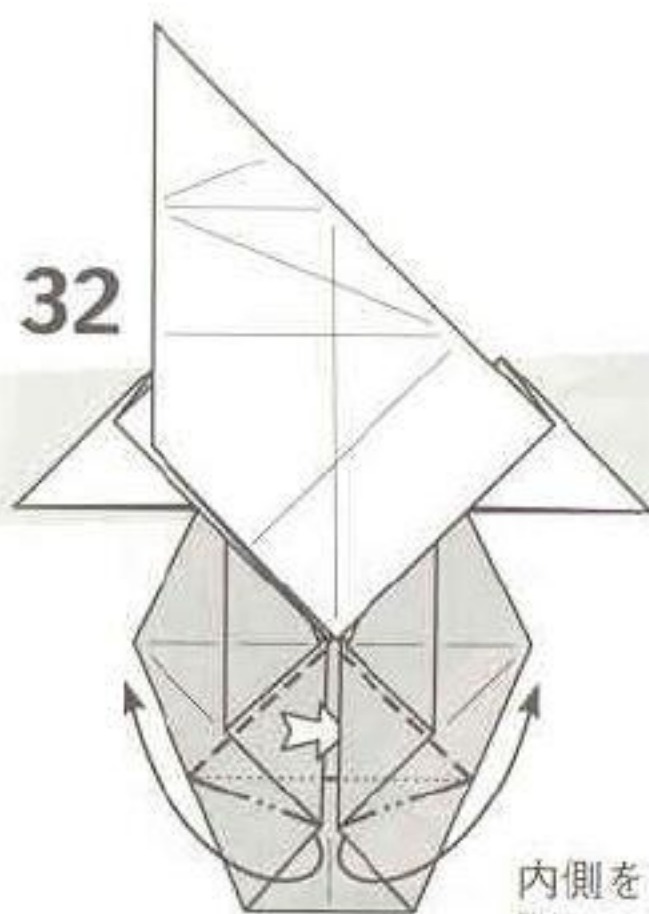
反対側も
21~22 と
同様に折る

21-22

24

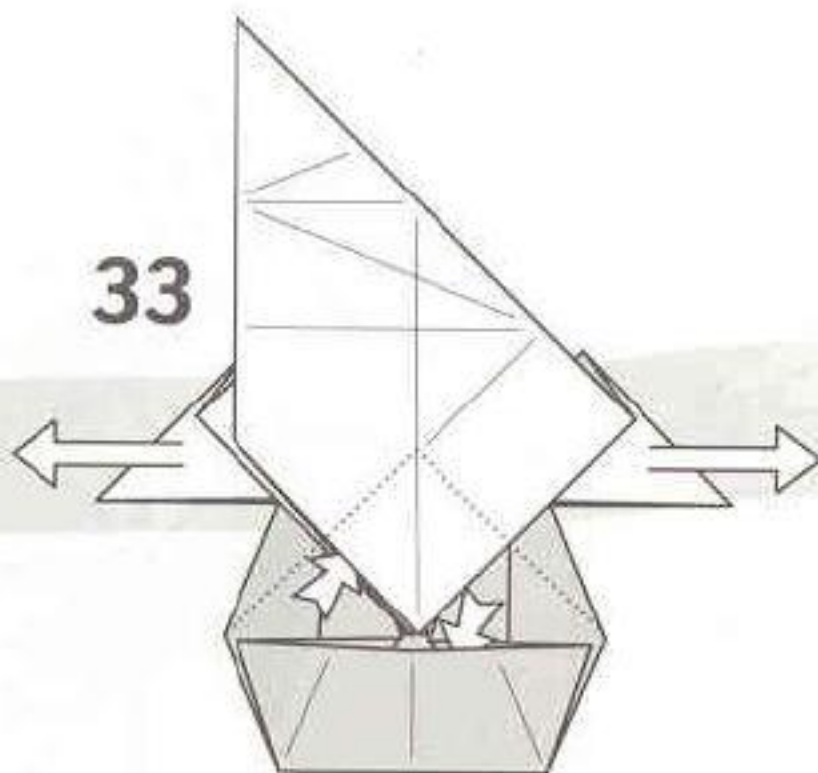
ついている
折り筋を
ガイドに
して折る

32



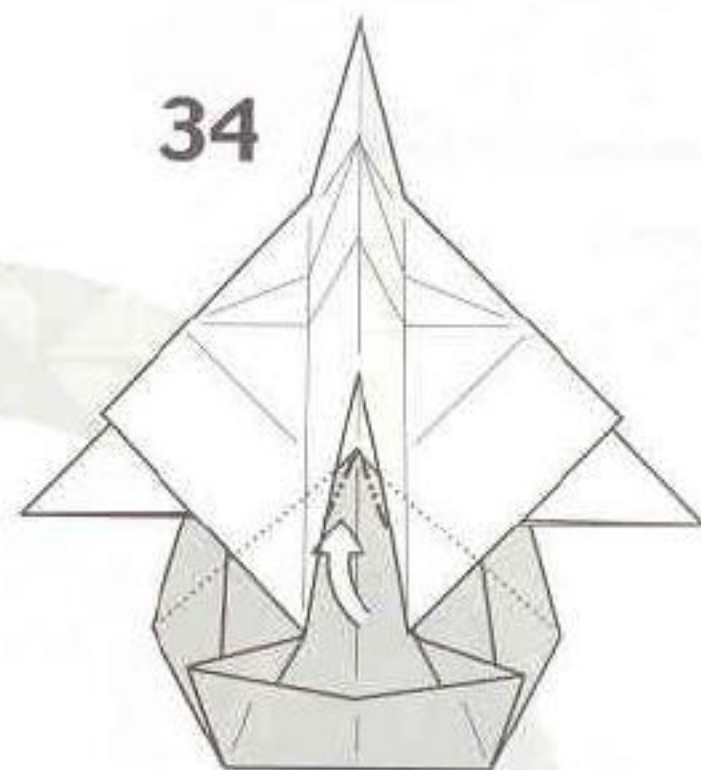
内側を
開いてつぶす

33



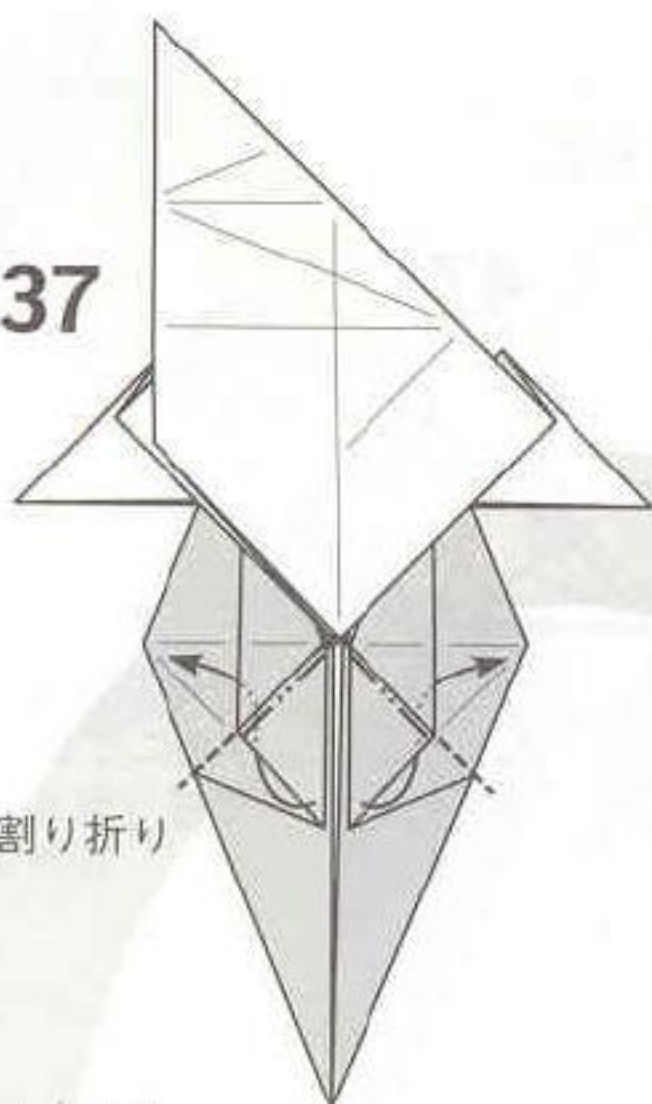
左右に軽くひらいて
内側を見る

34



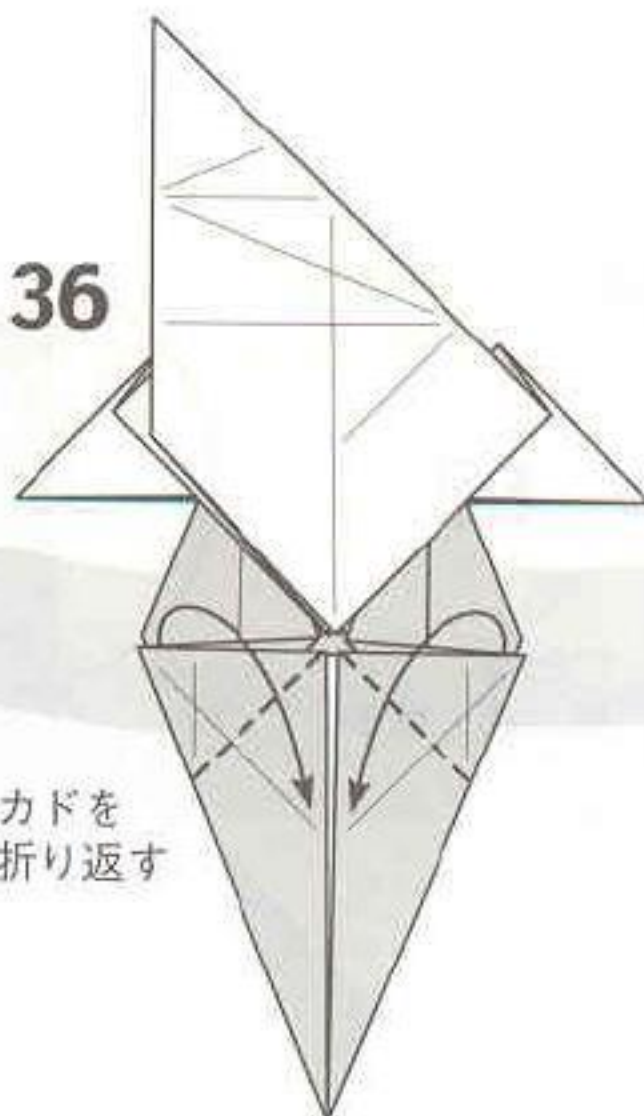
内側に折り込まれている紙を
すべて引き出して
次の図のように折り畳みなおす

37



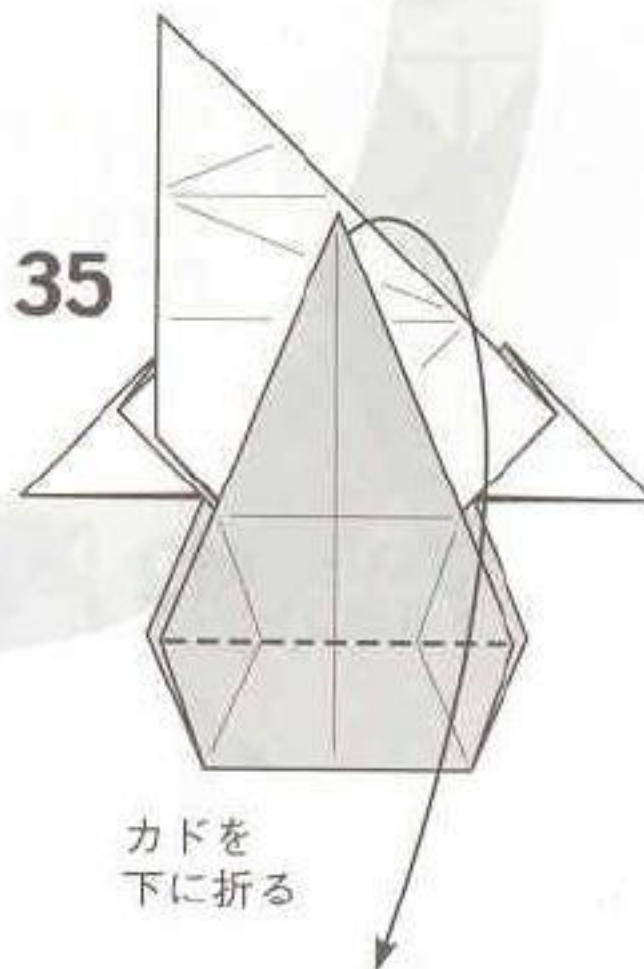
中割り折り

36



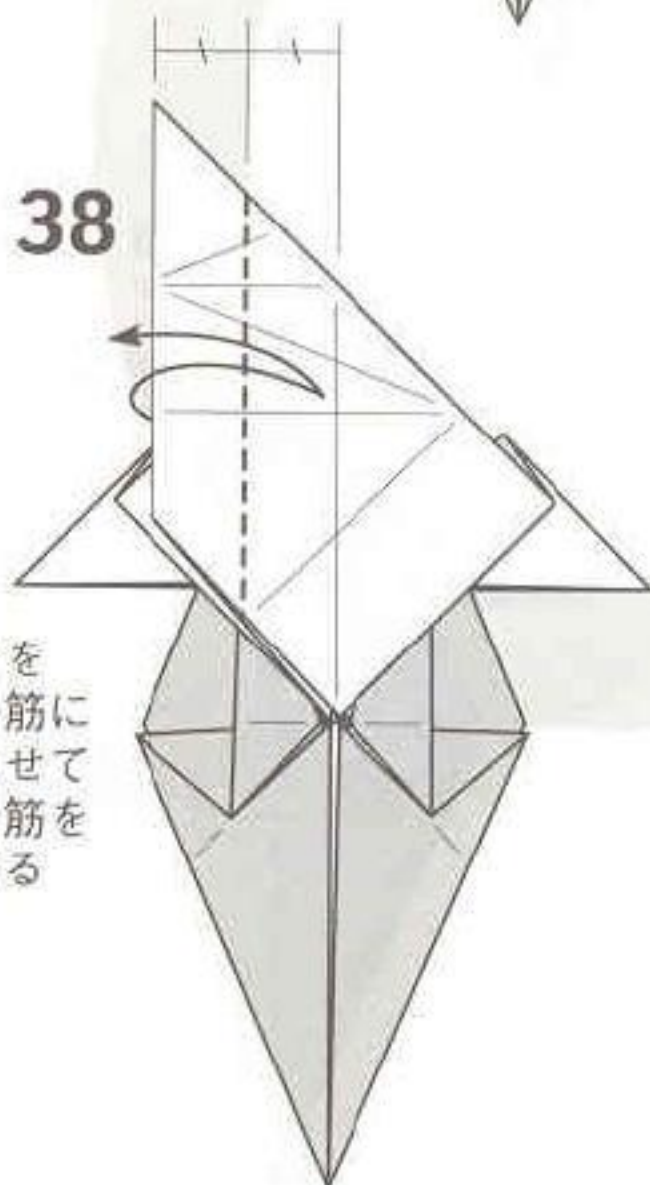
カドを
折り返す

35



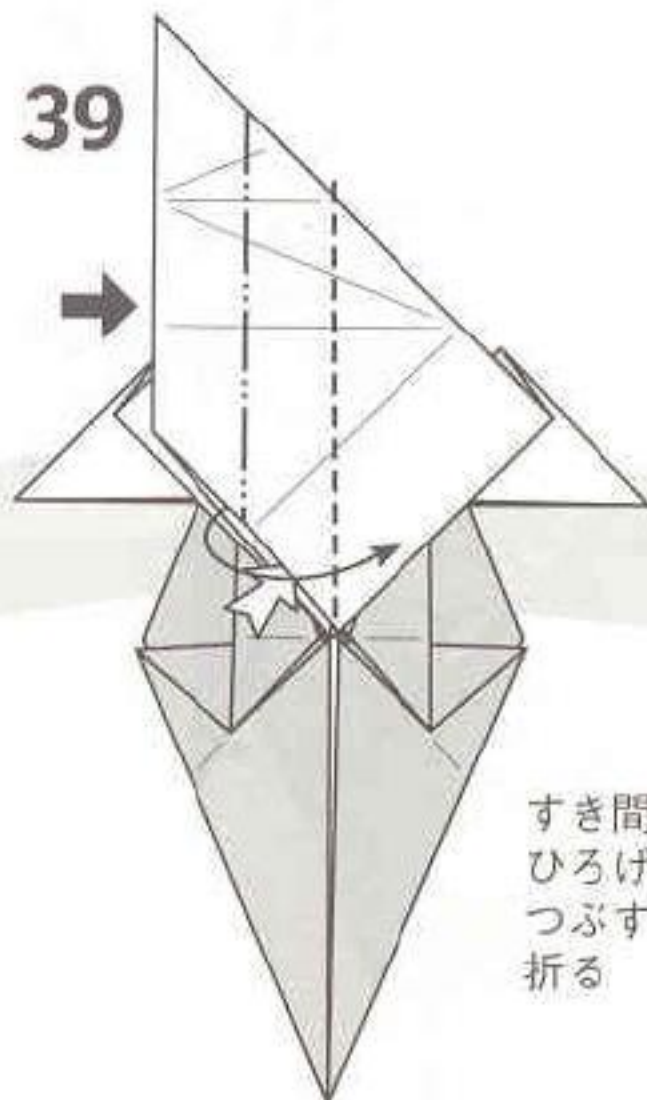
カドを
下に折る

38



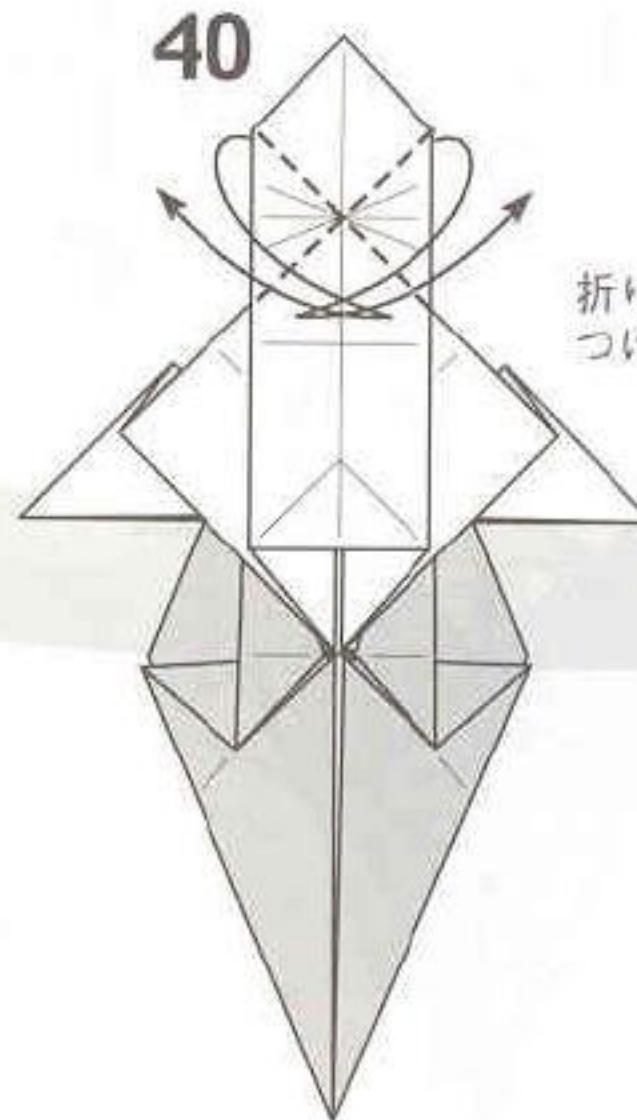
フチを
折り筋に
合わせて
折り筋を
つける

39



すき間を
ひろげて
つぶすように
折る

40



折り筋を
つける

この部分は
立体的に
なっている

44

フチを合わせて
平らに折り畳む

45

このまま
半分に折る

46

こちら側も
42~44 と
同様に折る

47

48 で全体が
平らになる

48

ヒダを
引き出して
つぶす

49

全体を開く

42

○印を
結ぶ線で折る

41

カドを
結ぶ線で
折る

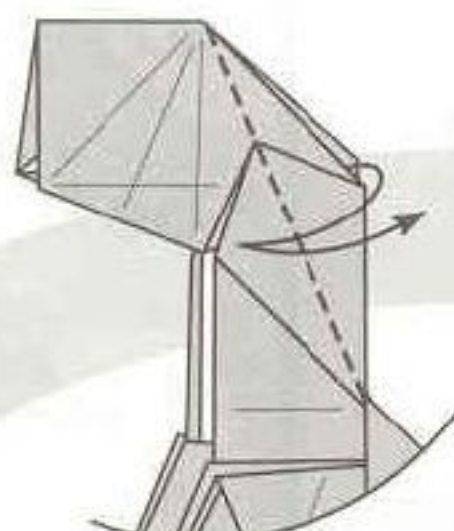
59 以降の折りは仕上げの一例です
お好みでアレンジしてみてください

56



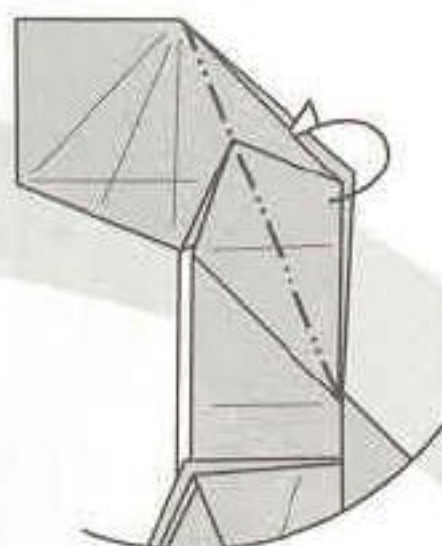
ずらすように折る
反対側も行う

57



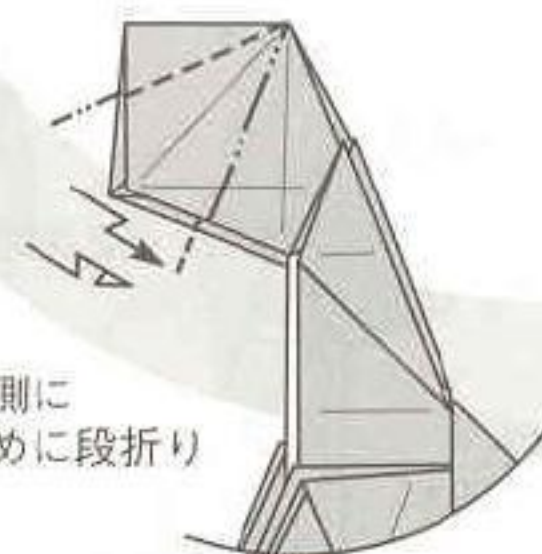
折り目をつける
反対側も行う

58



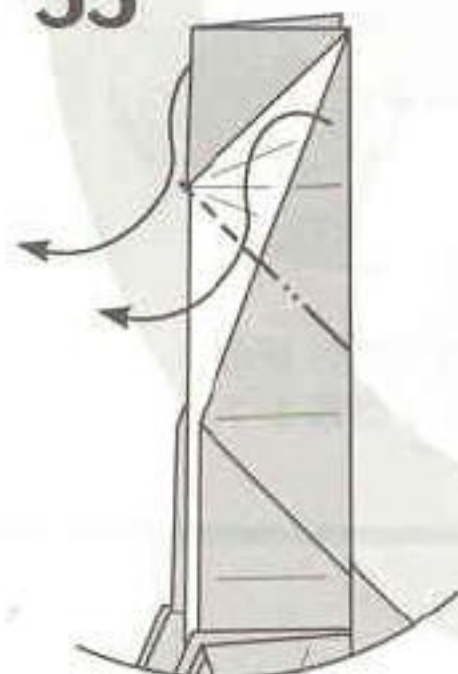
折り目を逆にして
内側に折り込む
反対側も行う

59



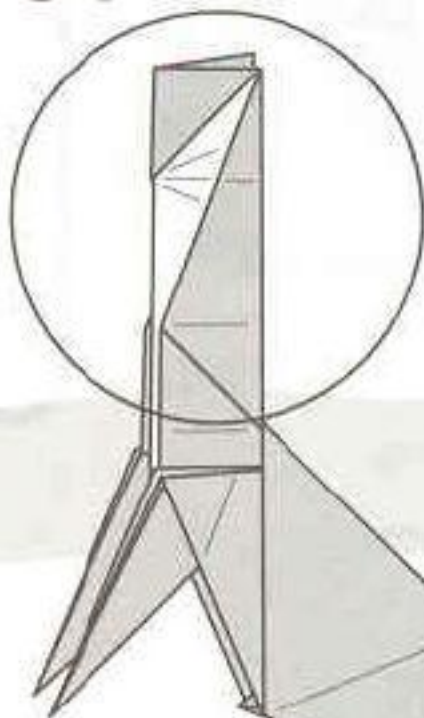
内側に
斜めに段折り

55

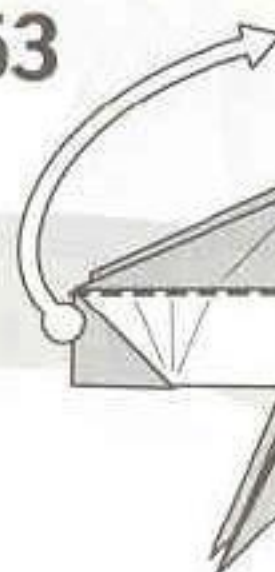


ついている折り筋で
折りまとめる

54

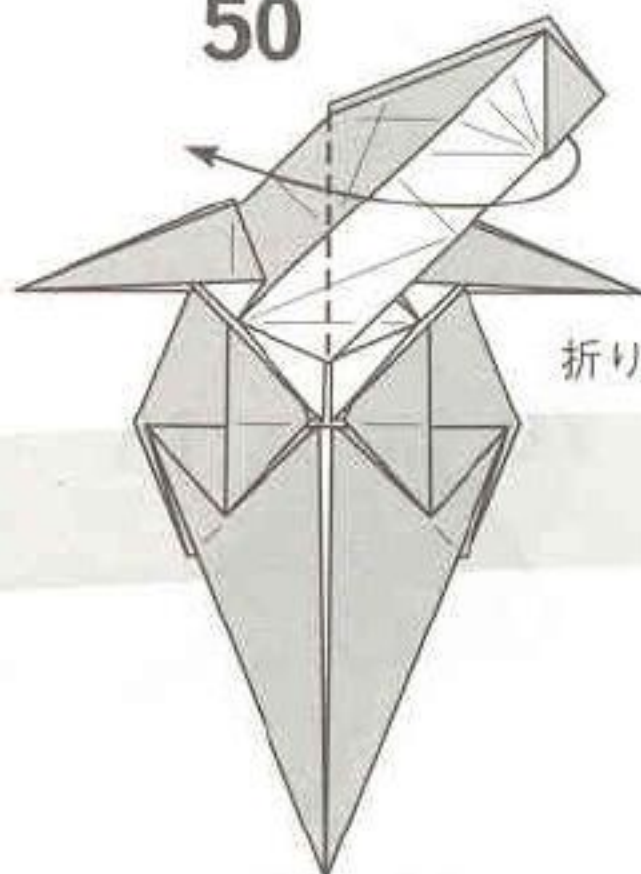


53



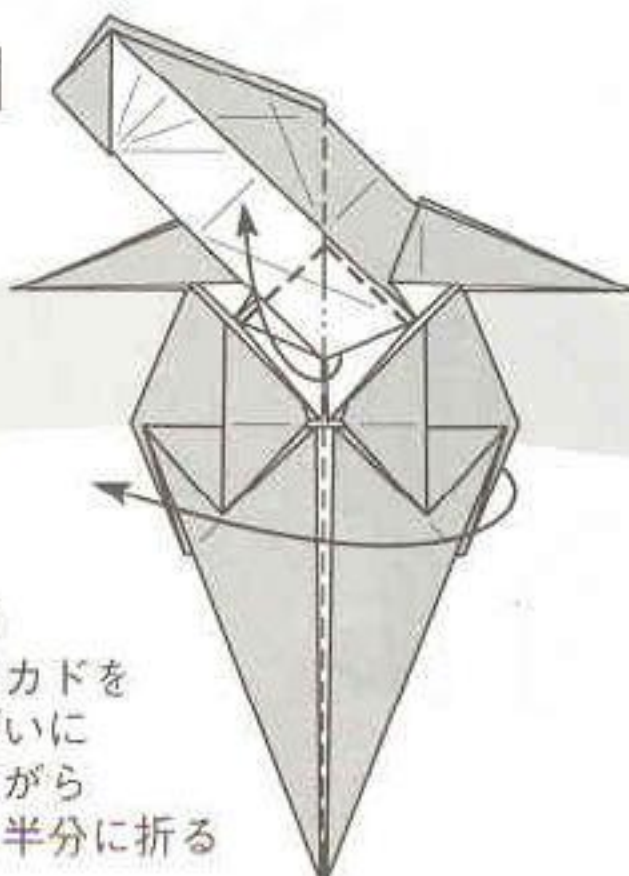
引き上げる
ように折る

50



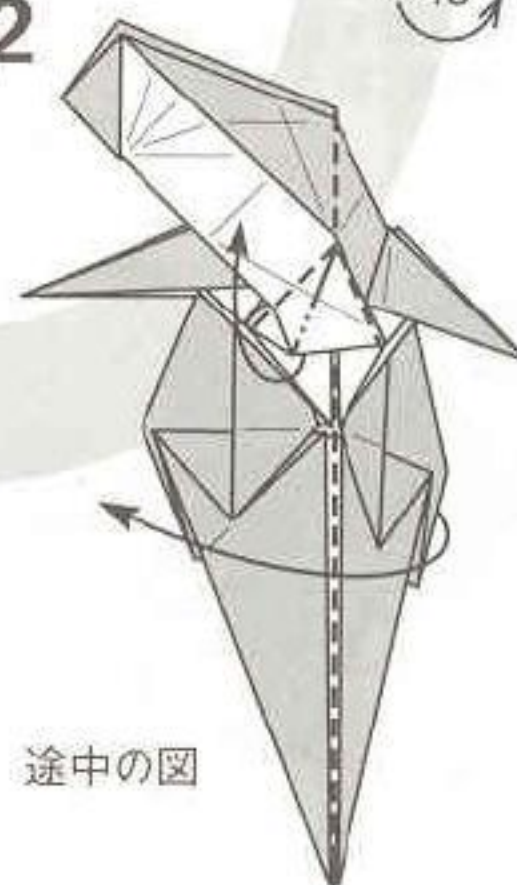
折り返す

51



内側の
小さいカドを
いっぱい
折りながら
全体を半分に折る

52



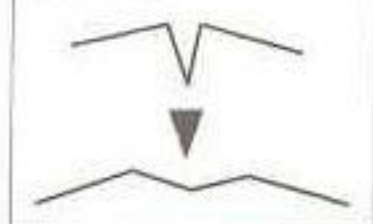
途中の図

61

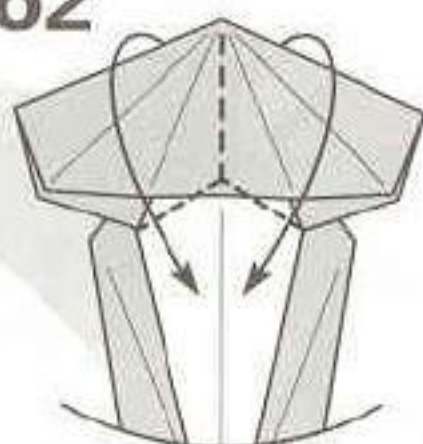


上の方を
平らにする

断面図

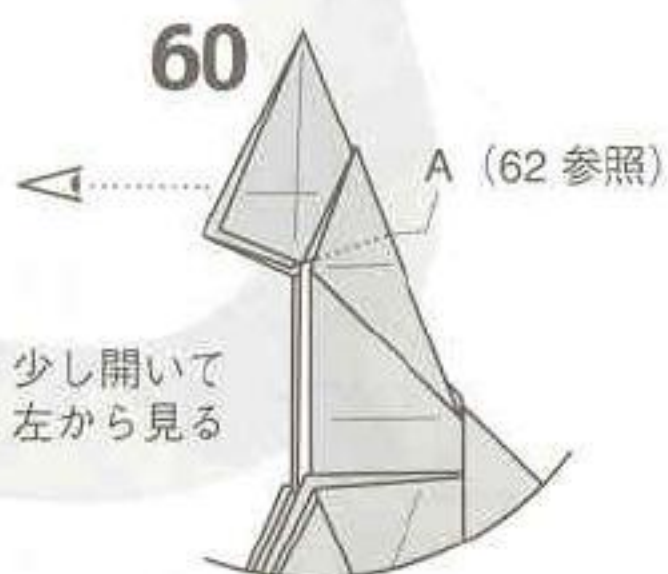


62

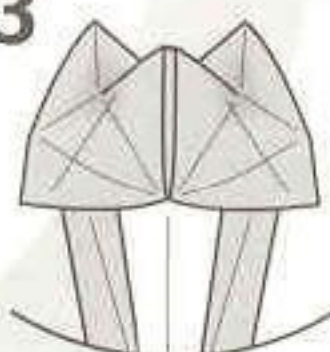


後ろにある2つのカドの
根元(60のA)から
立体的にかぶせ折り
(角度はぐらい折り)

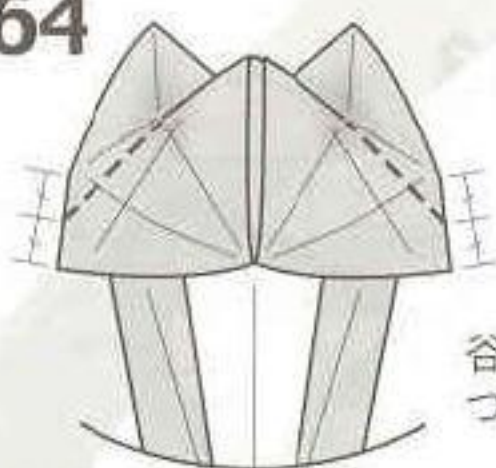
60



63

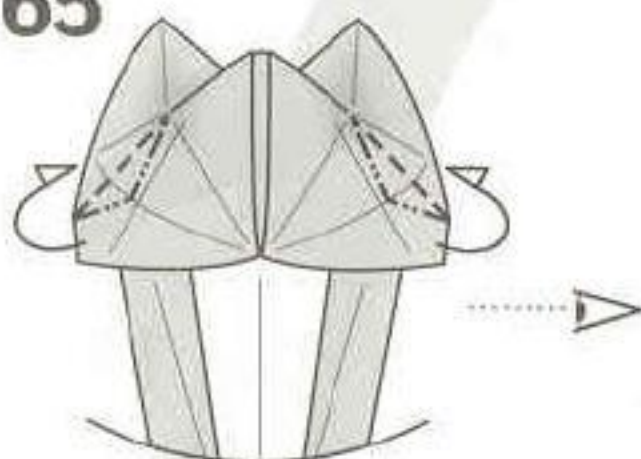


64



谷の折り目を
つける

65



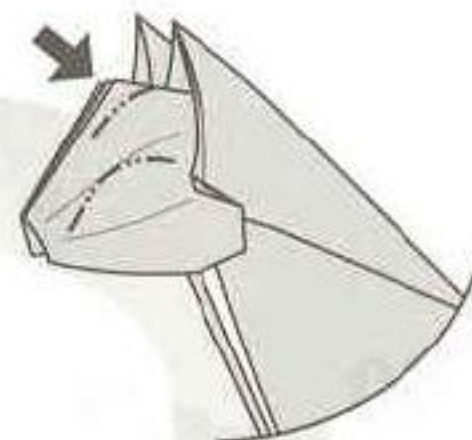
「く」の字形の
山折り線を加えて
立体的に折る

68



少し折り込む

69



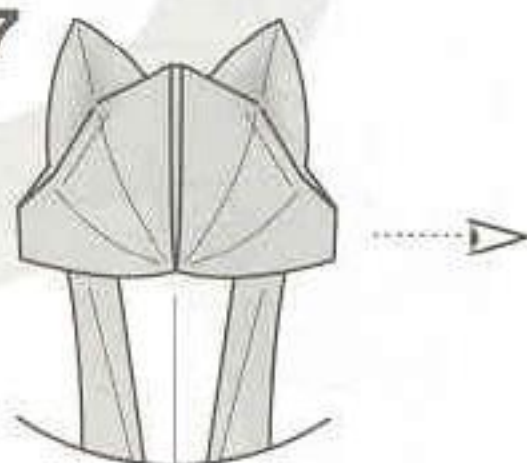
猫の顔らしく
仕上げる

66

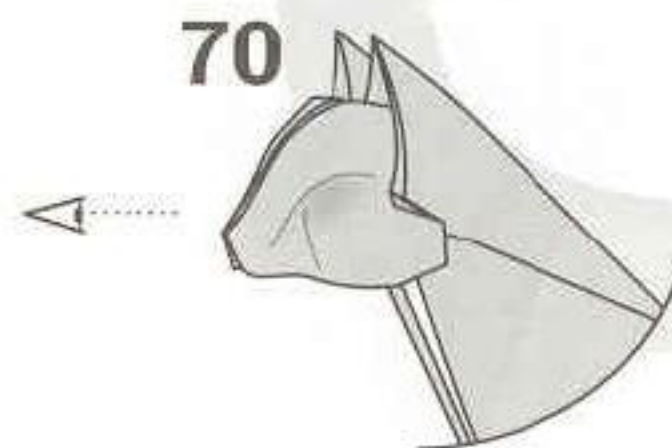


65 を横から
見たところ

67



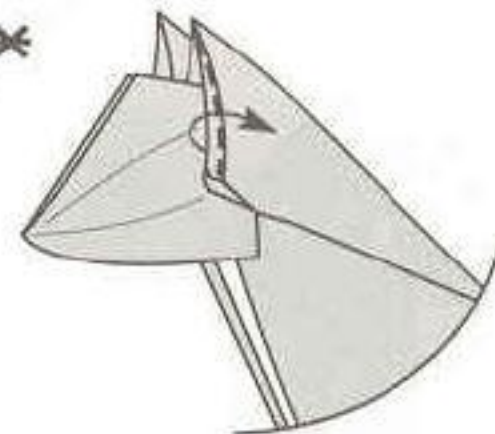
70



写真も参考に
してください

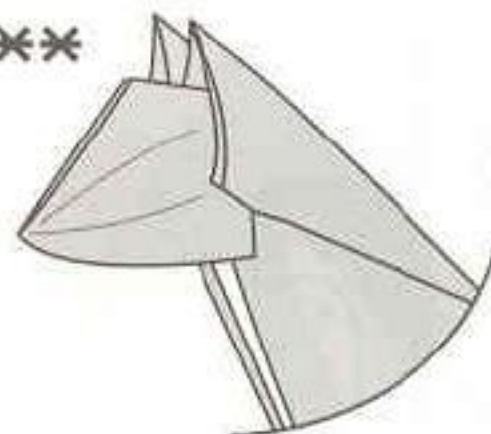
大きい紙で折る場合は、
66 のところで次のような折りを
加えるといいでしょう。

66*

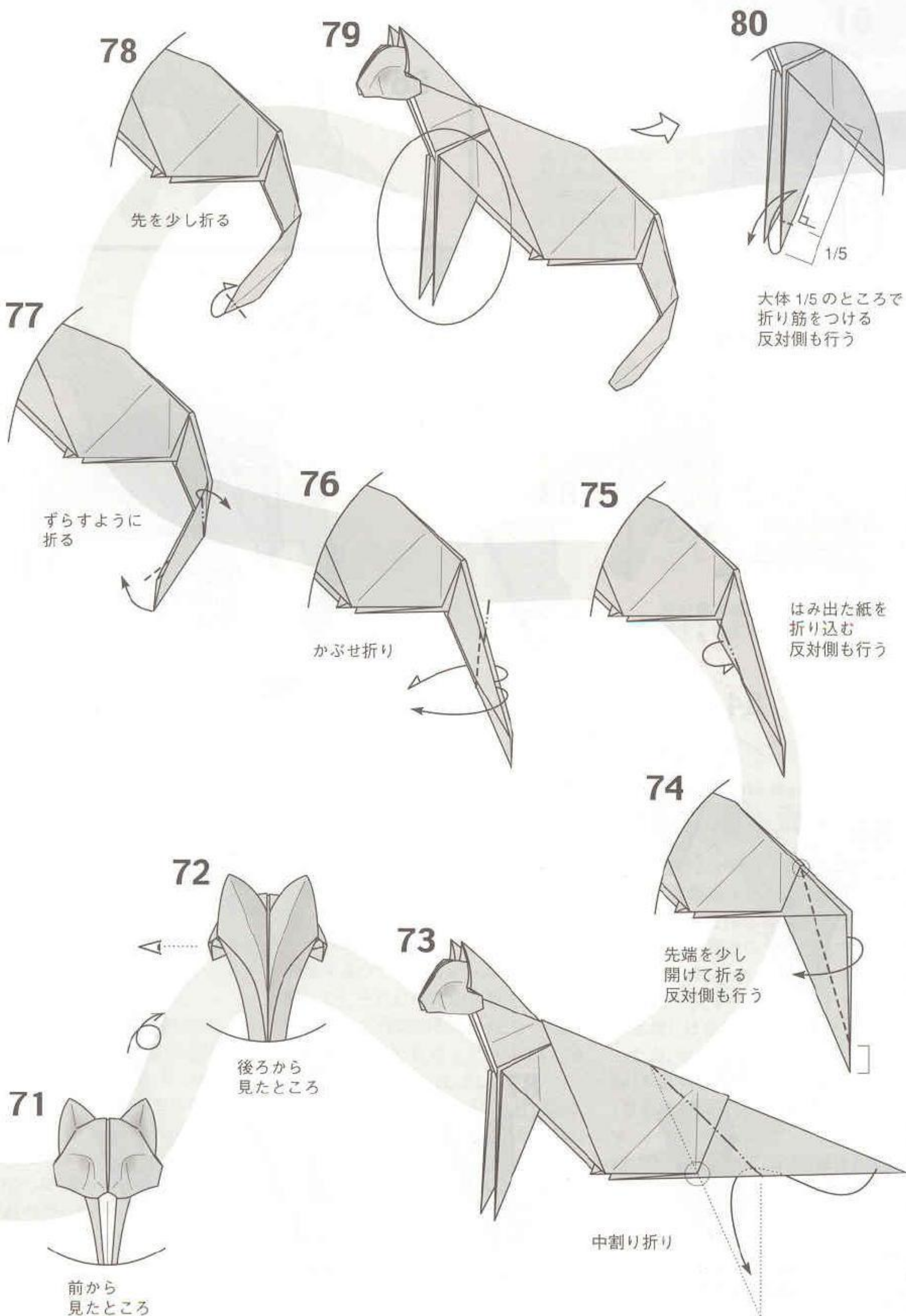


耳の横の紙を少し引き出した
形にして、それを耳にかぶせる
ように折り返す

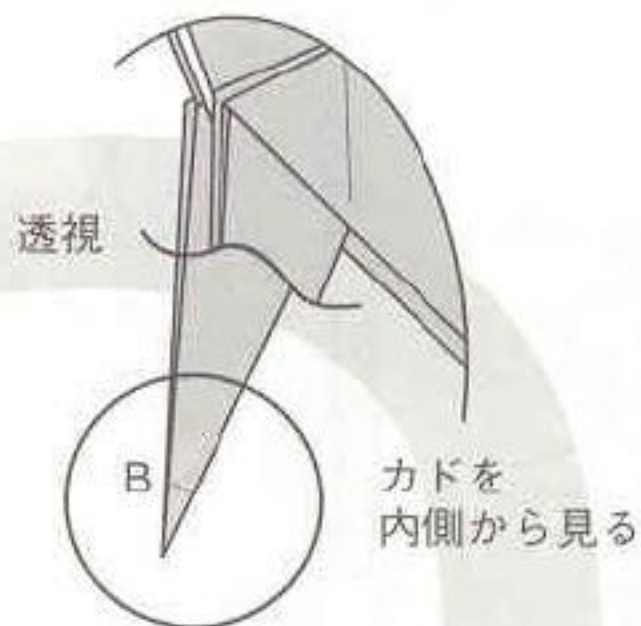
66**



これで形が崩れるのを
防ぐことができます。

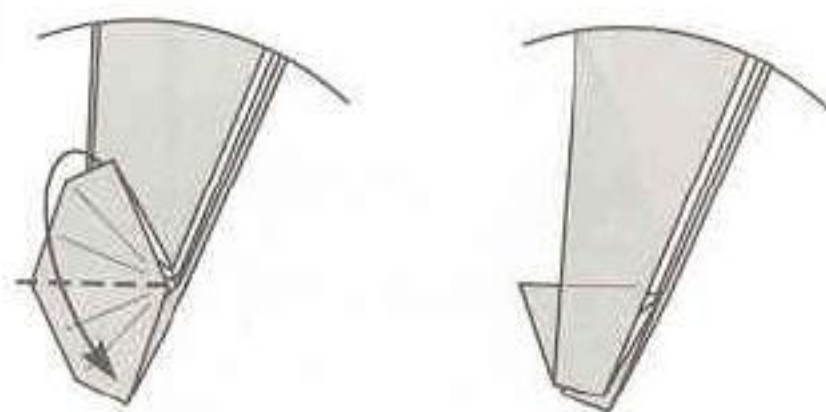


81

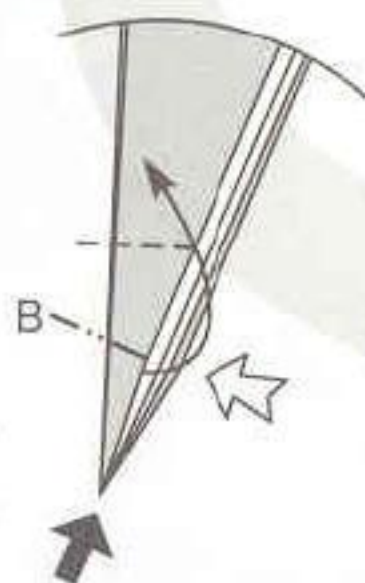


小さい紙で折る場合は。86~88 を次のように簡略化するというでしょう。

86*

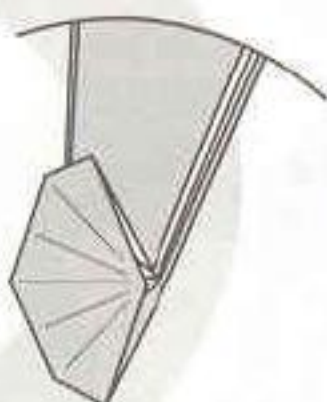


82

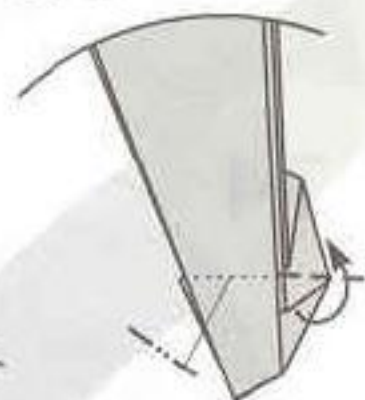


次の図のようにカドを扇状にひろげてつぶす

83



84



中割り折り
でヒダを上に向ける

85

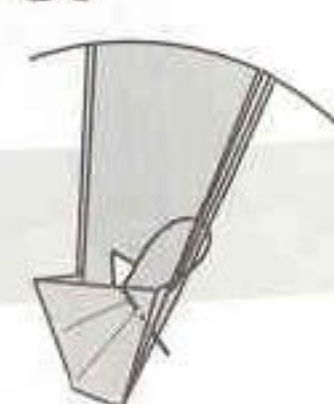


86



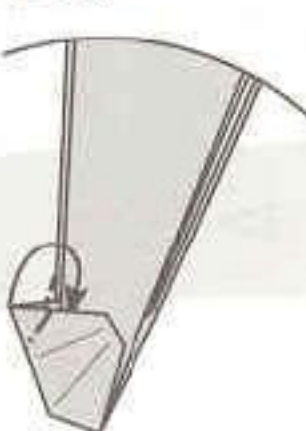
押し込むように
内側に沈め折り

87



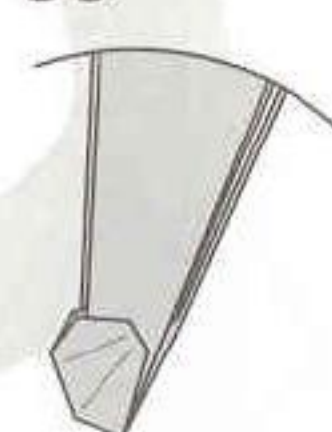
少し
後ろに折る

88



少し内側に折る

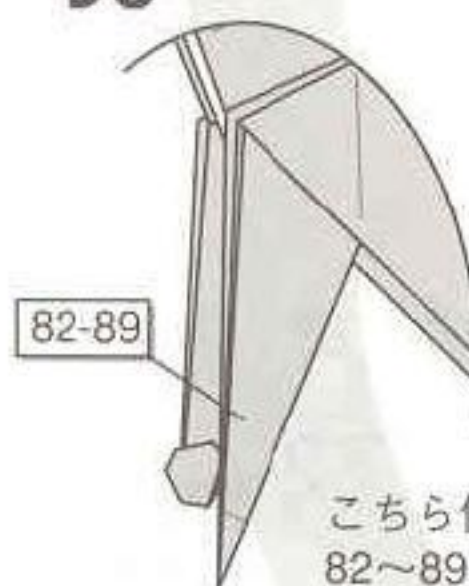
89



91



90



こちら側のカドも
82~89と
同様に折る

93



つけた折り筋に
合わせて折る
反対側も行う

92



フチと平行に
折り筋をつける
反対側も行う

94



折り目を逆にして
体を立体的に折る

数年前に見つけた猫耳の折り出しを改良しつつ、「22.5度系の構成で猫らしさを出す」ことを目標にして制作したものです。私にとって長年の課題であったリアルタイプの猫というテーマに対して、ひとまずの答えを出すことが出来たと思っています（もちろん完璧な回答ではありませんが）。

今回は創作中からなるべく折りやすい作品になるようにと気を使いました。「楽しめる工程」「覚えられる作品」になっていたら嬉しいです。

顔の真ん中の線が広がらないようにするために、58の工程をきっちり折ってください。



Orisuzi ("Fold-Creases")

Does someone know any origami models beginning with "nu"?

“ぬ”で始まる作品知りませんか？

Oka Masao

岡 雅夫

例会^{※1}のあと会員の一人が何気なく発した一言が全ての始まりでした。

「“あ”から順に折り始めたんだけど、“ぬ”が見つからなくて。」という話に「来月の例会までに探してきますよ。」とつい答えてしまいました。

数年分の雑誌を調べれば2~3件は見つかるだろうと簡単に考えて探し始めましたがなかなか見つかりません。もっと遡らなければならないけどただ探すだけでは勿体ない。蔵書が増えてどの本にどんな作品があるのかわからなくなっているの、どうせなら作品のデータベースを作成しよう。ということで作業を開始したのです。

“ぬ”の付くものを捜しながら作品名をパソコンに入力していても一向に出てきません。もう諦めかけてた時つ

いにあったのです、『おりがみ』82号に！そして既刊分雑誌の入力も完了しました。

せっかく作った索引を自分達だけで利用するのではなく、ホームページで公開しよう、それには何か名称を付けなくては。そこで作成のきっかけとなった「50音順に折っている」をヒントに「あいうえお」と命名することにしました。

頭文字の多い作品と少ない作品は、多い順に「は・か・お・こ・き」、少ない順に「ぬ・る・れ・む・け」です。「ん・を」は0件です。「おりがみしりとり」をする時「ぬ・る・れ・む・け」で終わるものを作れば勝てますよ。

さて、「ぬ」で始まる作品はいくつあったと思いますか。索引上で2件。但し、この2件は同一作品の再掲載ですので、

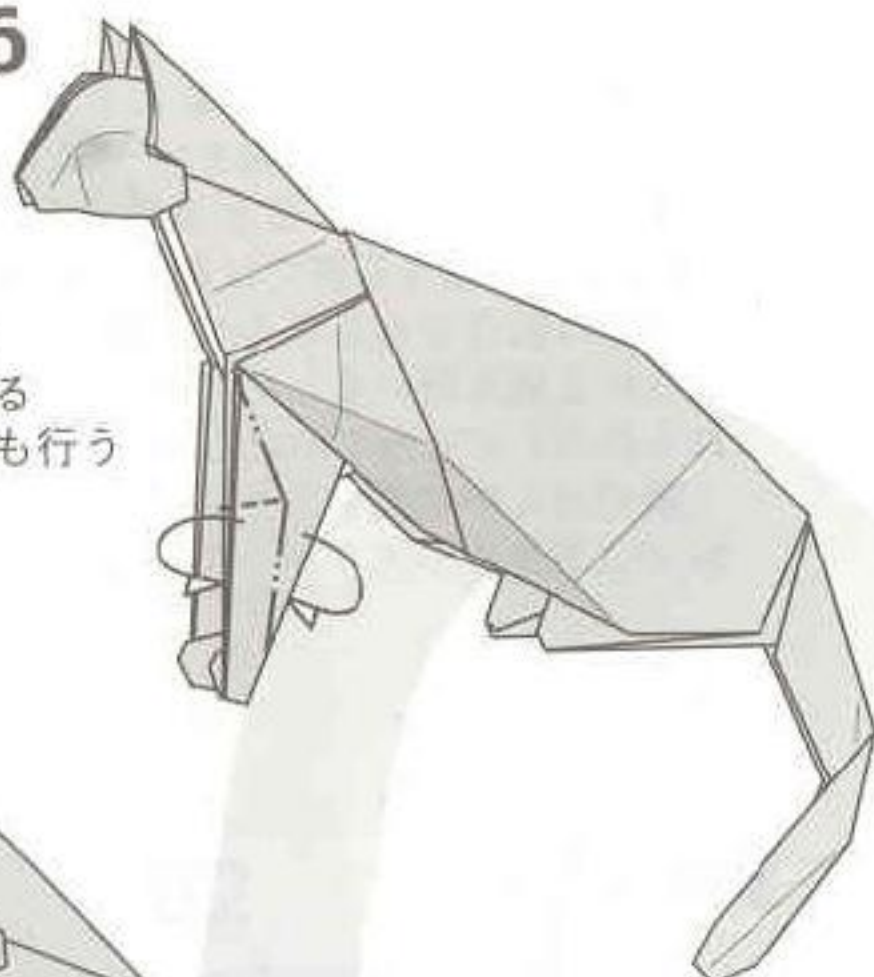
実質は1件となります。その貴重な作品とは石橋美奈子さんの「ヌイクン」です。えっどんな作品？と思われたでしょう。逆立ちが得意な犬の作品で「イヌ」を逆さまに読んで「ヌイ」です。「この作品名は…」という訳で、「ぬ」で始まる作品探しはまだ続いています。

なお、本内容はおりがみ「あいうえお」^{※2}第3版(平成14年10月)の情報(登録件数6,225件)をもとにしています。

(※1編注=NOAちくご(日本折紙協会筑後支部)の月例会のこと ※2編注=“おりがみ「あいうえお」”は岡氏が運営するウェブサイト「NOAちくご」で一般公開されているデータベース。(本誌70号P38に関連記事掲載)URL=<http://homepage2.nifty.com/noachikugo/> 折紙探偵団のページからもリンクしています。)

96

前脚を
細く折る
反対側も行う



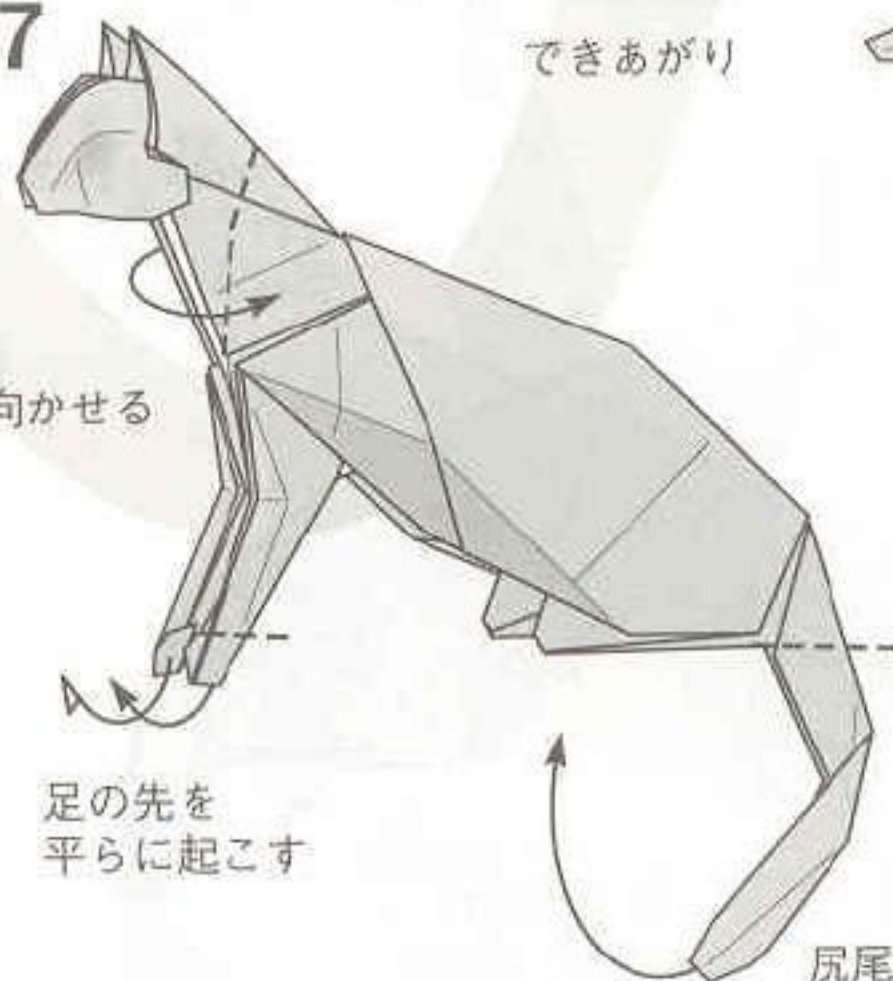
98



できあがり

97

首を
振り向かせる



足の先を
平らに起こす

尻尾を
平らに起こす

95



後脚の先を
少し折り込む
反対側も行う

折紙三昧 ⑬

Origami-Zanmai (This Origami and That)

著作物としての折り紙の成り立ち

How Origami Can Be Copyrighted

○先の折紙探偵団コンベンションでは、“見立てを鍵に折り紙を眺める”との題目で40分ほどの講演の機会を得ました。意図したことがどれだけ伝わったか、準備も悪かったと過ぎたことをやや後悔しています。講演は、「創作折り紙行為が“紙折りの幾何学からの多様性発生と、見立てをはじめとする形の選抜に他ならない”と眺めてみましょう。」と要約できます。大切な主張は“選抜”という創造手法が消極的(否定的)なニュアンスで捉えられるべきものではないというものです。もっとも、この見方だけでは一点の作品を見たときの“折りの巧拙”や“紙の選択の妙(選ぶこと、紙を作ること)”、“作品を通じたパフォーマンス”を感じ、評するには足りません。

折り紙作品には作者の思想や情熱が表現されているとするならば、暫定的にでも折り紙作品の一般的な成り立ちを論じておく必要があると考えています。こういう鳥瞰的な物言いの有用性は今後課題です。

○本号のクローズアップでは、著作権研究会メンバーの逆瀬川さんをお願いして、折り紙作品の著作権との関わりをまとめていただきました。前記のこととも関連しますが、折図を著したとき作品の複製(折図のではない)を承諾していると思わせるという事象をとってみても、これが折り紙作品の一般的な成り立ちとして了解されているかを考えておくことは大切です。生まれ落ちたときから折り方を伝える(折図に限らず)ことに作者の情熱の一部が注がれて

いるとすれば、著者はいわゆる著作権法で規定する権利の一部を開放していることになりますが、著者自身その範囲をどのように考えているでしょう。このように表現形式が生来的にもっている一般的な性質について論じ、了解するのは法律家ではなく、その文化の担い手の役割でしょう。容易でない話題をまとめるのはご苦勞があったと思います。逆瀬川さんにはこの場を借りてお礼申し上げます。今後、作者の意思表示の必要性や善意のある愛好家が安心して利用するための方法を議論するたたき台としたいと考えています。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

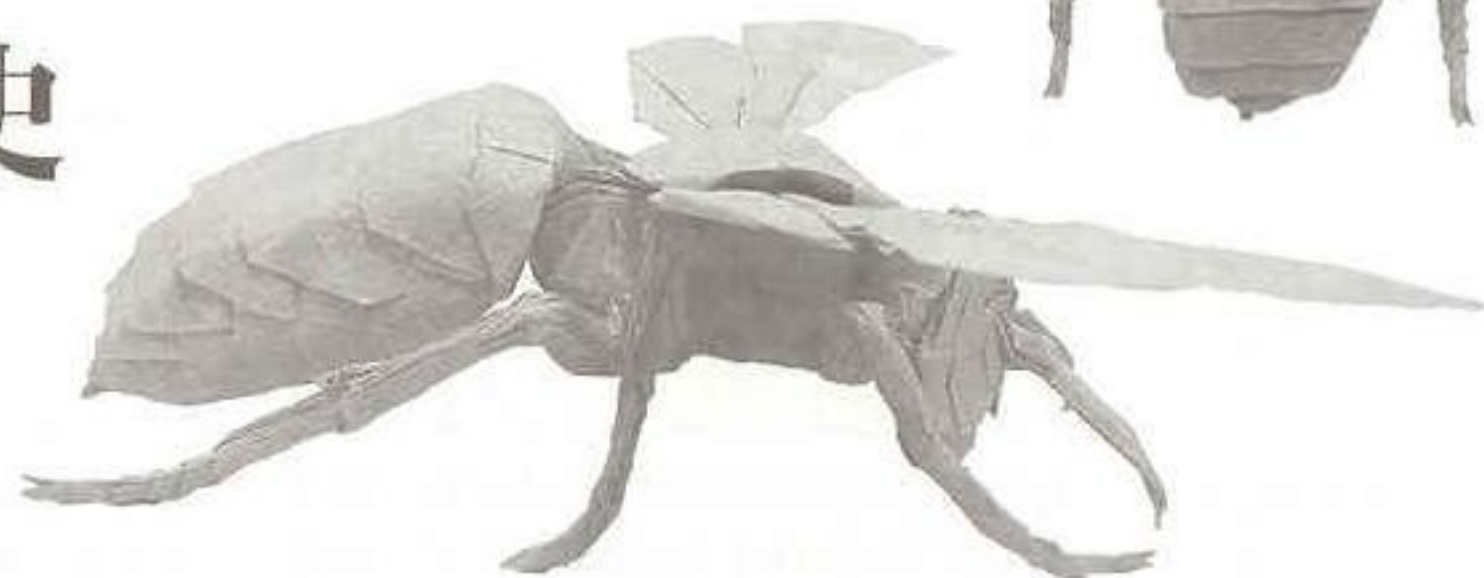
第22回 Vespid

スズメバチ

Kamiya Satoshi

神谷哲史

作 2002/07/10
図 2002/10/21



この作品を考えた時のコンセプトの一つに「一般的な物よりさらに一回り細かく折り込んでみたらどうなるか?」というのがあります。そういう意味ではこのスズメバチは実験作と言えるかもしれません。ですが一番気に入っているのは生の形が残っている前翅だったりします。

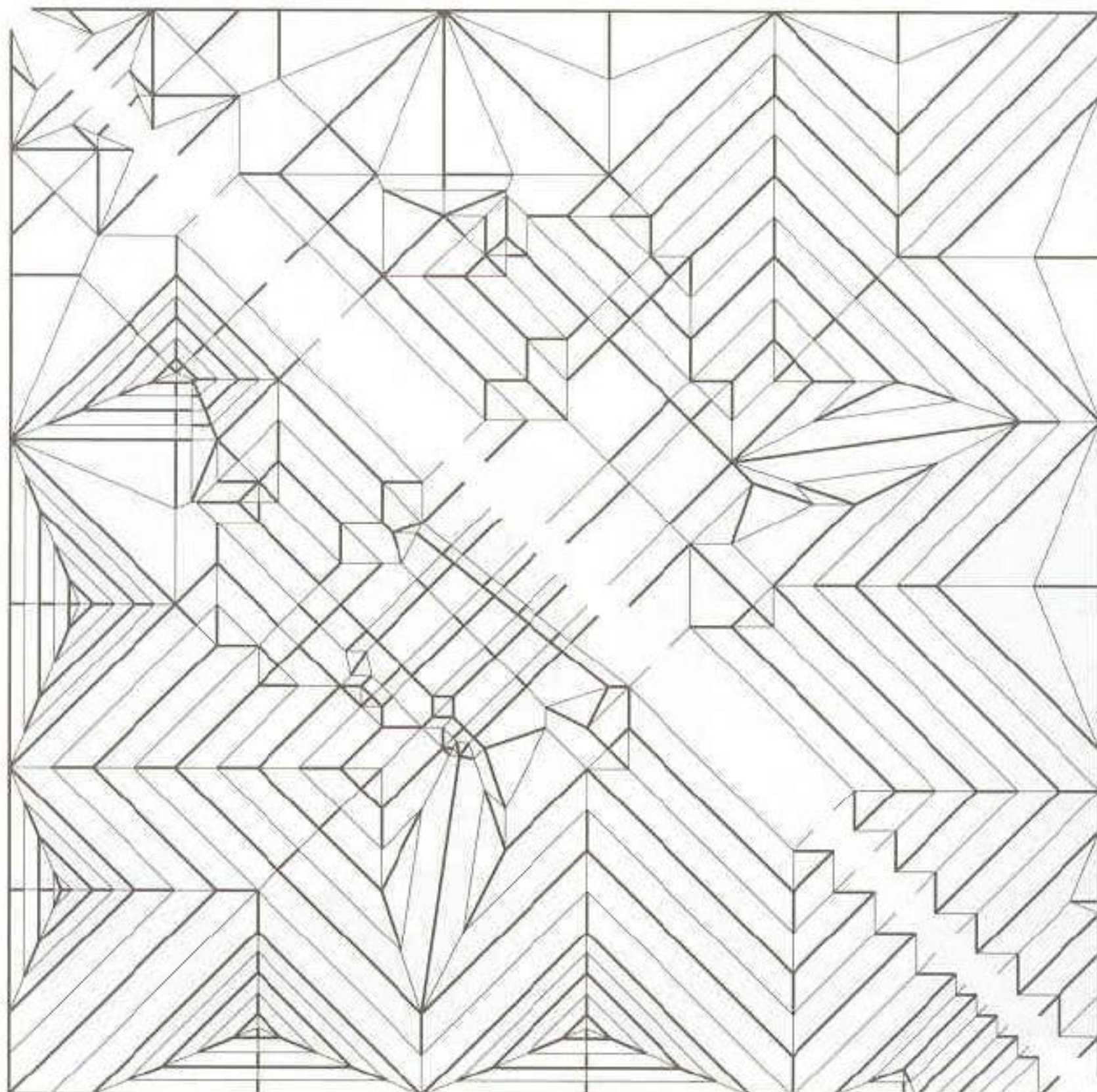
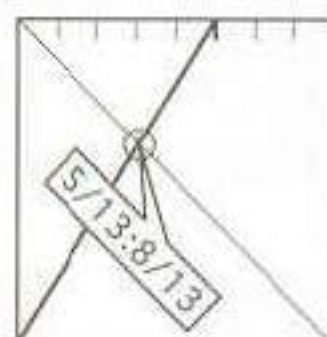
発想は非常にシンプルで各辺を3等分してそこにかどを配置、つまり9ツルでかどから頭、前脚、後翅、前翅、中脚、後脚となっています。これに腹部に襞を加えるために内部を蛇腹化、そして頭部に触角のために襞を増やして余裕を作ったものが基礎構造になります。

中央付近にある45°から外れた部分なのですが、これは3:4:5の直角三角形の分子がベースになっています。さらに原子を見てみると1:1:√2、1:2:√5、1:3:√10の3種類の直角三角形で出来ているのが分かります。この構造は色々な面で蛇腹との相性がよく、45°だけでは紙が引っ張られてしまう場合などに使えます。また、これらを使って22.5°の設計のように使う、平面への模様折りなど相当色々な事が出来るようなのですが、まだしっかりと手をつけていません。この辺は今後の研究課題となりそうです。腹の襞は良く見れば分かるように図に嘘があり、斜めの変な角度が入るため厳密には折りたためません。折る場合は

上手くごまかしましょう。

右上半分が前半、反対側が後半で13等分からはじめます。私の作品中でも1、2を争う紙の薄さに頼った作品なので、普通のホイル紙でも厚いと感じる事もあるかと思います。可能な限り薄い紙を使用して下さい。サイズは脚の先を

仕上げる場合は50cm以上、仕上げをしない場合は小さくてもけっこう折れます。ちなみに実物大に折るには12~15cmから。いや、出来るとは言わないけど—。



File-3

Ethan Plaut

イーセン・プラウト

イーセン・プラウトさんは新進気鋭の折り紙アーティストです。アメリカ出身ですが、本誌75号でもご紹介した通り、現在は福井県で英語を教えています。



Photo : Yamaguchi Makoto

—大学で美術を学んでいたそうですが、ノース・ウェスタン大学で美術を専攻しました。もちろん折り紙もしましたが、写真や絵画、音楽なども学びました。オリジナルのCDアルバムも作ったんですよ。作曲、演奏、ジャケットのデザインもしました。

そのころから興味を持っているのは、芸術における形式の問題です。芸術にはさまざまな分野がありますが、それぞれの形式がどのように表現にかかわっているか、ということの研究しました。

—そのような観点から折り紙を論ずるとしたら？

折り紙における幾何学は美しいと思います。特に対称性には魅かれます。しかし、彫刻や現代美術を学ぼううちに、折り紙にはほかにも大切なことがあることがわかってきました。それは、形を作るうえで、紙が本来持っている性質を活かすということです。単純なアイデアから出発して、紙が自然に動いてゆくのに任せる、というような。

最近も表裏同等折りの作品を作りましたが、幾何学的な面白さだけではないと

いう意味で、これまでにない作品ができたと思います。

—折り紙はどのように始められたのですか。また、もっとも影響を受けた人は？

始めは伝承作品を折っていました。それから、笠原邦彦など、日本の折り紙を折るようになりました。影響を受けた人はたくさんいますね。エリック・ジョワゼル、マイケル・ラフォース、マーティン・ウォール、ポール・ジャクソンといった人たちです。

折り紙だけでなく、ほかの分野の芸術家からも影響を受けています。一人だけ挙げるとしたら、デイル・チフリです。この人はガラスを使った作品を作っています。それ以前は工芸にすぎないと思われていたガラス作品を、芸術の世界に位置づけた人です。

—折り紙も、ガラスと同じように、芸術にすることができるとは思いますか。

可能だと思います。

—そのためには何が必要だと思いますか。

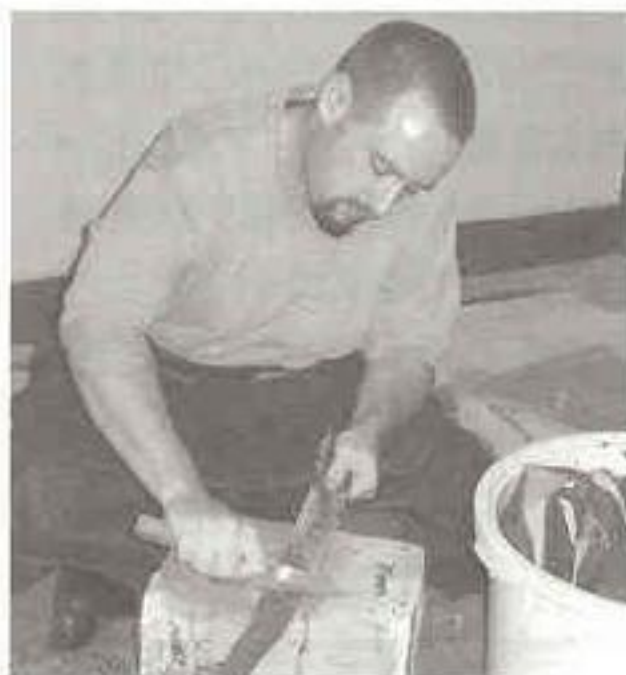
それは難しい質問ですね。こう答えましょう。折り紙が芸術になるために欠けているものが何であるのかわかったら、私

の探求は終わるのだ、と。

ただ一つ、こういうことはいえると思います。私の考えでは、芸術と工芸の違いというのは、芸術にとって思想や観念がもっとも重要であるのにたいして、工芸にとっては面白さや快さが重要だということです。人々が折り紙作品を見るときには、観念を見ない傾向がありますね。—新しい職場に日本を選んだのには、何か理由がありますか。—

もちろん、折り紙に対する関心からです。それに、以前から、日本語を勉強したいと思っていました。日本の文化にも関心があります。

自分にとって新しい文化の中で教えることで、自分が知っているのとは違った教え方・学び方を知りたいと思っています。そうすれば、私も日本の達人たちから折り紙を学ぶことができるようになりますから。



▲現在、福井で教師をする傍ら、和紙作りも勉強中



Photo : Yamaguchi Makoto



Photo : Yamaguchi Makoto

▲2002年のOrigamiUSAコンベンションで展示されていたイーセン・プラウト氏の作品

第6回 吉野一生基金 招待者レポート

A Report from the Yoshino Fund 6th Invited Folder

ジニー・モズリー

Jeannine Mosely

The original English version of this report by Jeannine Mosely can be read in the following website:
<http://origami.gr.jp/Etc/convention02/Mosely.html>



この夏吉野一生基金招待者の一人として、東京における第八回折紙探偵団コンベンションに招かれたことは、私にとってめったに体験できない栄誉でした。

コンベンションは八月二日の金曜日の午後から、おりがみはうすにほど近い東洋大学で開かれました。参加者は皆大教室でオープニング・スピーチを聞き、そして総会へと突入しました。日本語でしたので、私には理解できませんでしたから、アメリカから来た他の十名ほどの参加者とともに、部屋の後ろで静かに折紙を折りながら、過ごしていました。

その後、もう一人の吉野基金招待者であるヴァンサン・フロデュレルさんが、彼の折紙の手法と哲学について大変興味深い講演をしました。彼は英語で講演をしましたが、羽鳥公士郎さんが日本語で通訳をしていました。

金曜日に、コンベンションの時間割が渡されました。私たち欧米からの参加者が教える講習以外は、時間割は皆日本語で書かれていましたが、幸いなことに、アン・ラビンさんが、日本語が少し分かりましたので、私たちのために時間割を一生懸命翻訳してくれました。時間割表は大変よく作られていて、Origami USAでもアイデアを採用したいと思いました。例えば、はさみやのりなどの道具を必要とする講習にはちゃんとその旨アイコンで記してある、また、折り図集にある作品の講習はそれが分かるようになっている、などです。

土曜の朝、私たちは大教室にスピーチと講習受付の為に再び集まりました。私も、羽鳥さんの通訳で、自分の折紙について短いスピーチをしました。その時、私が全参加者に差し上げました、カード用紙から作れる星型から五角形に自由に形を変える作品の作り方についても話をしました。

また土曜日の朝には、皆が展示作品を教室外の廊下に展示しました。私も展示作品をおりがみはうすで組み立てて持って来

ました。「パルサー」と「カレイドゴン(変身多面体)」をいくつか、そして、「オーブ(P.21に写真掲載)」と新作の曲線ユニット作品「六角星」を展示しました。

海外からの参加者は講習受付を優先してうけられましたので、自分が望むところに行くところが出来ました。土曜日は前川淳さんの「アトラスオオカブト」と西川誠司さんの「ライオン」の講習を受けました。ライオンは折り図が折り図集に載っていましたが、私はまだ持っていませんでしたので、隣に座っていたご婦人に見せてもらって、ついていくことが出来ました。アトラスオオカブトは折り図がなく、前川さんは、時間も限られていていちいち英語でもう一度話す暇もありませんでしたので、ちょっと心配していました。が、言葉は分からなくても、前川さんの折り方や手振りが分かりやすかったので、一番前に座って、注意してみることで、何とか完成することができました。

午後の最後の講習時間に、私自身も「オーブ」を教えました。コンパスを使って丸い折線をつける作品です。普通折紙をする人はコンパスなどを持っていないので、何個かコンパスを持ってきて、使ってもらいました。松下節子さんが大変良い通訳をしてくださったので、そこにいた皆が同じ言葉を話しているような感覚にとられました。

夜には、ほとんどの人が会場近くで開かれた素晴らしい懇親会に行きました。ビュッフェ形式の晩餐会で十分なおいしい食べ物があり、多くの方と親交を暖めることができました。実際、日本折紙学会の多くの方と話が出来ました。食事の後、フロデュレルさんと私は吉野一生基金より、招待補助金を受け取り、短い感謝のスピーチをしました。

日曜は、2つの講習を受け、1つ教えました。朝、まず最初に布施知子さんのとてもかわいいリスを習いました。次に、羽鳥公士郎さんの最少折り線モデルの講習を受けました。ポーラ・ヴァースニックさ

んの二線折りサンタや私の二線折りスキー・リゾートなど、とてもたくさんの作品が出来ました。羽鳥さんから皆実験するように言われ、一緒に講習を受けていた布施さんがとても素敵な二線折りの能役者を作りました。あまり素晴しかったので、一日中皆に見せてまわっていました。

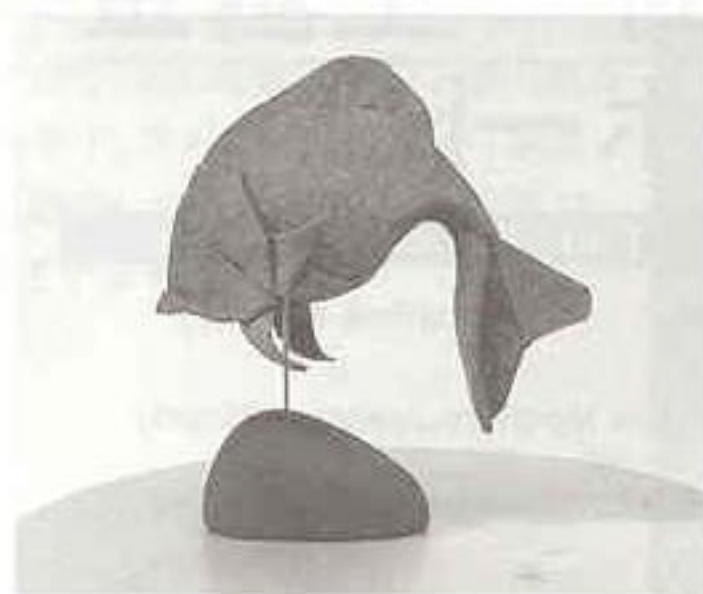
昼食の後、パルサーを3コマで教えました。また松下さんに通訳していただきました。決して難しい作品ではありませんが、24枚ずつ3種類の72枚ユニットですので、長い時間がかかります。残念なことに誰も時間内に完成までは至りませんでした。が、ほとんどの人がたくさんのユニットを折り上げましたし、どのように組むかは分かるでしょうし、後で完成できたことと思います。折り図も配りましたから、問題は無いでしょう。この講習は、英語の説明が読めない人にもよりわかりやすいような折り図を作る必要があることを、私に痛感させてくれました。

最後に、大教室でオークションが行われ、初めに、事前申し込みのオークションの結果が発表されました。私も、折紙模様のハンカチに名乗りを上げていたので、競り落とすことができて、大変嬉しかったです。

日本に居る間、日本の人たちが大変親切にしてくださったのが印象に残ります。多くの方がいろいろな場面で私を助けてくれました。全員の名前をここにあげることはできませんが、アン・ラビンさんとエルザ・チェンさんには日本への旅行についての貴重なアドバイスをいただきましたし、池上牛雄さんと松浦英子さんにはコンベンション参加について事前にいろいろお手伝いいただきました。また、羽鳥公士郎さんと松下節子さんには通訳でお世話になりましたし、日本折紙学会の評議員の皆様には私を招待してくださったことに感謝の念で一杯です。しかし、何よりも心よりの歓迎で、この旅を一生忘れないものにしてくださった山口真先生に感謝したいと思います。

Rabbit Ear つまみおり

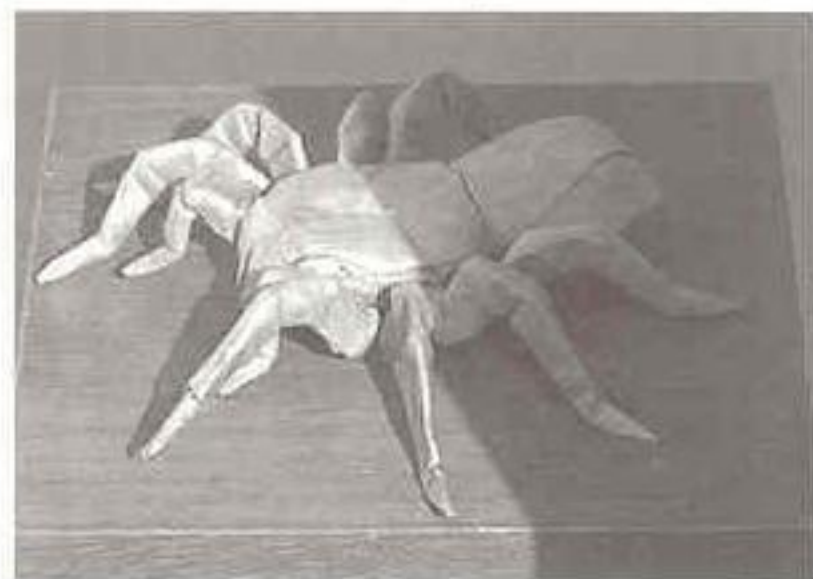
Information



▲エリック・ジョワゼル氏の作品から。▶
その仕上げの巧みさはますます磨き
が掛かってきている ▼



▼ラング氏の「タランチュラ」



▼パステル調で仕上げたシュマコフ夫妻の大作
「ORILAND」。本物を見ないとその迫力の全ては
伝わらない。10,000を超えるパーツで仕上げられ
ているという



Photo by Yamaguchi Makoto

第5回 Southeast Origami Festival レポート

布施知子

1年おきにシャーロットで開かれる「Southeast Origami Festival」が9月末にあり参加した。さまざま省いて、気になった展示作品について報告する。(敬称略)

Vincent Flodererは今年日本で披露されたテクニックを使った大小のオブジェ。Eric Joiselは独自のスタイルをさらに深めたマスクの他に、高さ30cmほどの衣を纏って立つ男の全身像があった。北條氏の人物像とは趣きを異にし、ブロンズ像を思わせる。後で本人に聞いたところ、最終的には人の全身像を目指すとのこと、今後の展開が楽しみ。

Chris Palmerはシルクの平織り作品。Robert Langは精緻な昆虫の数々。Takaaki Kiharaは段ボールのようなプラスチックボードを使っての大きな折り紙建築。Ronald Kohは鱗が際立つ蛇。正三角形で構成していくDavid Mitchellのユニット平面作品(製作は別人)は光る素材で作られており、紙の選択が成功しているかどうかは好みとして、その重要性を再認識。Paul Jacksonはいつも挑戦的実験的。黒っぽい紐が絡まって垂れ下がっているような、なんじゃこりゃの作品の下に彼の名前をみつけて、早速聞いてみたら、なんとユニット作品だそうで、次のように説明してくれた。かっちりとした形、はっきりした色使い、しっかりした組み方、などなどユニットの特徴を全部反対にした。そして「今一番興味を持っているのはユニット」との事。

Flodererが花開かせた『揉み』の技法もそもそもはJacksonが折り紙に取り入れたのだし、彼からは目が離せない。展示で最も驚いたのはロシアのShumakov夫妻のOriland。ファンタスティックな大規模なジオラマ。「折り」のきれいさは比類なく、カールは優美。楽しさを醸しながら展示に弛みがない。これで生活していくという気迫が感じられた。コピー用紙を切って使っているそうで、その淡い限られた色が統一感を出していた。花器に花を生けたOribanaの展示もきれいだった。

余談として、David BrillとMakoto Yamaguchiの行くところビールありであった。

資金的困難を乗り越えて、今後もがんばれ、Jonathan Baxter!



◆第5回折紙探偵団静岡コンベンションレポート

折紙探偵団静岡友の会主催によるコンベンションもはやくも5回目。初参加した関西友の会の立石浩一氏によるレポートをお送りする。

静岡の皆様は関西コンベンションにいろいろな形でご参加下さるのに、関西からは静岡に誰も行ってない！ いかん、と思いつつ、うわーん、11月は、土日出勤が一番多い時なんだよー！ 年々募る罪悪感。今年こそ、と心に決めるも、メモ帳には、「11月9日、入試」の文字。腹をくって上司の所へ、すると、ちょうど入試シーズンの仕事の割り振りをしている！ これはチャンスとねじ込み、やっと今回初参加。

で、静岡まで行ってみたら、関西からは私を含めて3人も。ちょっと拍子抜け？ いや、やっと出来た友の会の輪、大事にせねば。参加受付、講習受付が終わって、全体会。手作りなんだから、これくらいテキパキすっきりと進めた方がいいなあ、とか、いろいろ感心。講習が始まり、山梨明子さんに初めて習ったとか、いろいろあるのですが、さて自分の講習は、パーツだけで終わってしまった... 組めなかった...。勉強になりましたとも。折り紙って本当に奥が深い。

会場は、1つの部屋で各テーブルに分かれて4つの講習をするもの。飯沢さんの講

習なのに、隣の岡村さんの声がよく聞こえてましたので、ついひよこが折り鶴に化けてしまいそう。でも、そのくらい近くで4つの講習があると、隣の雰囲気も分かり、にぎやかでよいです。関西も見習わないと。

他の懇親会(OrigamiUSA)のビデオを見ながらの懇親会、というまるで鏡の迷路のような経験をしました(羽鳥さんがよく映ってました)。

懇親会後、ロビーで皆でわいわい。小笹さんと笹出さんがアツい折紙論を展開しました。酔って。岐阜の「ツルリスト」、たなかまさしさんも初参加、皆に強烈なインパクトを残しました。横を見ると、神谷さんと北條さんが床に座って作品をああでもないこうでもない。めったにない光景だよなと思いつつ、これが珍しくなくなってる自分をふと振り返ってしまう。最近、家の親戚より前川さんやアノ村木さんの方がよく会ってるものね。

アットホームで楽しいコンベンションでした。静岡は少人数で手作りで運営してるので、細かなところに目が行き届き、それは大



前川氏の「悪魔」がこんなになった。たなかまさし氏の「あくまこあくま」はもちろん不切一枚から

▲前川氏の「悪魔」がこんなになった。たなかまさし氏の「あくまこあくま」はもちろん不切一枚から



▲静岡コンベンション懇親会恒例、前川淳氏の一瞬芸(?)。今年はハサミ禁止マークのくつした

変なところもあるのだけれど、うらやましい、と思いました。さあ、今度はこっちの番、関西コンベンションは半年後だ。頑張ろう。(立石浩一)

◆高校の文化祭で巨大ユニット制作

三重の高校三年生、服部吉晃君が文化祭で企画した3万個に及ぶユニット多面体の制作。クラス全員で取り組んだ一大計画を振り返ってもらった。

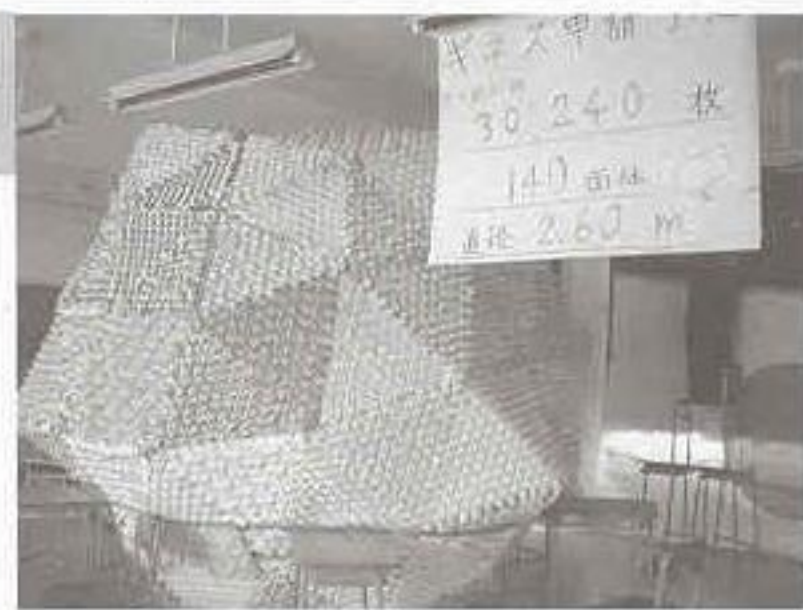
今振り返ってみて最初に思うことは、この文化祭の企画は受験生がするような企画ではなかったということです。はっきり言って企画があまりに大きすぎました。何から何まですべてが手探りで進めてきました。次から次へと押し寄せてくる問題のために私自身、常に完成できるだろうかという不安と戦わなければならず、勉強が手につかなかったり、イライラしたりしました。それを乗り越え完成させることが出来たのも多くの人のアドバイスのおかげでした。

四日市南高校3年1組で巨大ユニットの企画が決まってから、まず39色の紙を買い、夏休みの間に一人一色担当し、全員が約780枚折ることから始めました。そして数日かけて数万個のパーツをボンドで一つ一つ組み合わせていきます。また折り紙だけで球体を作ることは明らかに無理なのでダンボールで骨格を作る必要がありました。大きなダンボールを学校周辺の家具屋へもらい

に回り、それで約70cmの正三角形を140枚分切り出します。

当日まで10日と迫ってくると追い込み作業が始まりました。土日は学校に集合し一日中制作し、平日も朝6時に集合し、夜遅くまで作業するというような恐ろしい日々が続いたのです。というのも骨格が自重のためうまく具合に作れず計画が遅れてしまったためです。この問題は最後まで悩んでいましたが、塩化ビニルのパイプの輪をはめこみ負担を軽くするという工夫が決め手となり、文化祭開始の数分前にギリギリで完成させることができました。これでようやく約7万円弱かけて30240枚の蘭部式ユニットを使用し、受験生がのべ2000時間かけて作った直径2.6m、重量70kgの巨大ユニットが完成したのです。

細かい作業が苦手な人にとってはどんなに780枚が苦しかったことでしょう。そんないろいろな人がいる中で、39人全員が力を合わせて一つの大きな球体を作ることが出来



▲完成した巨大ユニット。机とパイプで固定



▲巨大多面体をみんなで囲んで

たのはなによりもうれしいし誇りに思います。最後に3-1の皆さん、本当にお疲れ様でした。今度はもっとでっかいの作りましょうね(笑)。(服部吉晃)

◆中学の文化祭で折り紙展示

文化祭のレポートをもうひとつ紹介する。早稲田中学1年の神谷亮君は作品展示で「ティラノサウルス全身骨格」に挑戦。故・吉野一生氏の名作は今も折り紙少年の心をとらえ続けているようだ。

小学六年生の一年間、中学受験のため、「折り紙がしたい」という気持ちをせいっぱい我慢していた。そしてこの四月、僕は晴れて中学生になった。

僕は、密かに中学校の文化祭で大きなティラノサウルス全身骨格を作って展示しようと心に誓っていたのだが、どうすれば実現できるのかは見当がつかなかった。文化祭の準備が始まると、幸運にも僕は展示の折り紙班になった。そして、仲間が4名集まった。

そして夏休み、探偵団コンベンションに初めて参加した。そこで開成中学のM君と知り合った。なんとM君の学校には、折り紙

同好会なるものがあり、部員は20名もいるそうだ。しかも、文化祭は僕らの学校の1週間前、是非行かねばと思った。開成の文化祭当日、早朝より出かけて、まず、ほかのものも見ずに折り紙展示へ直行。なんとそこには、「ティラノサウルス全身骨格が置いてあるではないか!」それも、僕が制作中のものとサイズがまったく同じである(色は違うが)。後で聞いたところ、偶然の一致らしい。「怪しい……まあいいか。」

さて、我が中学校の文化祭前日、どうしてもティラノサウルスの頭部が落ちそうなので、上からひもでつるすことにした。そし

て安心して迎えられる予定だったのだが、当日の朝、心配していたことが起こった。ティラノサウルス全身骨格は、接着部分のはがれてみごとに分解していた。始まるまでの30分、至急仲間と組み立て上げたのだが、それでもはじめのお客さんが来るときには、まだ完成していなかった。

ところで、当日一番まいったのは「○○をつくってください。」という小学生からの言葉だった。さすがに1時間以上かかるようなものを頼むような子はいなかったが、大切なお客さんであるし、将来の受験生かもしれないと思うと、断るわけにもいかないのいろいろな物を折った(開成でもこのような苦労があったのだろう)。お客さんの要望に応え、当日まる2日間折り続けた。準備段階から考えれば一ヶ月、肩はパンパンに腫れたが、とても充実した日々だった。(神谷亮)

◆ドン・シャルさん関西友の会を訪問

2002年11月2日(土)は、関西友の会にとって、記念すべき日であった。

この日、第4回関西コンベンションの会場予約が無事済んだだけでなく、Origami USAの創設者の1人、マイケル・シャルさんのご兄弟である、ドン・シャルさんとお会い出来たのである。シャルさんは、アメリカ・バーモント州で折り紙の普及・講習に精力的に活動されている方。京都にお勤めの奥様を訪ねての来日となった。デボラ・フォアマン・タカノさんを通して、是非関西の面々とお会いになりたいとのことで、この会合となった。

京都は長岡天神のちゃんこ屋「両国」で、鍋とビールを囲んでの折紙談義・講習に花

が咲き、楽しいひと時であった。関西友の会から、本当に最後の(だと信じて)関西コンベンション折り図集過去3回分が進呈され、中の作品に見入っておられた。(立石浩一)



▲シャル氏(左)と新本祐一氏

第4回折紙探偵団 関西コンベンション 日程決まる

2003年5月10日(土)~11日(日)
主催=折紙探偵団関西友の会
会場=キャンパスプラザ京都

例年と同じく、2日間の折り紙講習と懇親会を企画中。

詳しい情報は、次号77号(1月25日発行予定)にてお伝えします。申込書もその時期に発行する予定です。

◆例会のお知らせ ※おりがみ用紙は各自持参をお願いします。

東京友の会

- 12月7日(土)は忘年会のみ 会場=文京区民センター3階3-C/時間=18:00~21:00/参加費=大人4,000円、中高生3,000円、小学生以下2,000円
- お問い合わせ、申し込みは12月3日まで事務局まで。メールでの連絡可。
- 1月11日(土)会場=文京シビックセンターB1F生涯学習センター・学習室/講習会=14:00~/講師:未定/作品:未定/研究会=16:00~

静岡友の会

- 会場=増武ビル(静岡市呉服町1-3-6)/参加費=500円/時間=10:30~12:00
- 12月1日(日)●1月19日(日)
- お問い合わせは16時以降(20時まで)、054-254-4541(増武内 山口)へ。

関西友の会

- 会場=長岡京産業文化会館
- 12月7日(土)14:00~17:00 講師=未定、作品=羊/参加費=500円●17:00から懇親会 参加費=4,000円程度

折紙探偵団ホームページ

<http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

関西友の会ホームページ

<http://kobe.cool.ne.jp/tatekoo/>

折紙探偵団

2002年11月25日発行 第13巻4号通巻76号
発行所/日本折紙学会
〒113-0001
東京都文京区白山1-33-8-216
Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司
編集人/山口 真
編集スタッフ/松浦英子
デザイン/おりがみはうす
翻訳/立石浩一
発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

I♥ORIGAMI おりがみはうす商品案内

広告のコーナー

※このページの商品の取扱いはいすべて おりがみはうす です。折紙探偵団の口座とは別になります。
※「おりがみドルハウス」以外の書籍は、一般書店で取り扱っておりませんのでご注意ください。



「シャチ」の表紙が目印

第8回折紙探偵団コンベンション **NEW** 折り図集VOL.8

神谷哲史氏「シャチ」、小松英夫氏「トラ」、Robert J. Lang氏の「さそり」等のコンプレックス作品や、川村みゆき氏「セレス」等のユニット作品も充実。

45作品収録／B5判／256ページ
定価：2,000円(税込)
送料：420円(梱包込)

第7回折紙探偵団コンベンション **折り図集VOL.7**

国内・外の作家の51作品を収録。B5判／256ページ／
定価：2,000円(税込)／送料：420円(梱包込)

折り紙色紙百花 (しきしひゃくか) 田中具子 著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル
B5判／全120ページ／カラー口絵8ページ／31作品収録
定価：2,500円(税込)／送料：390円(梱包込)

面～The Mask～ 布施知子 著

作者がユニット折り紙に出会う前の、面ばかりを集めた作品集
B5判／全200ページ／全27作品カラー写真紹介
定価：3,300円(税込)／送料：460円(梱包込)

折紙図鑑「昆虫II」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編

B5判／全200ページ／カラー口絵4ページ／17作品収録
定価：3,100円(税込)／送料：460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B5判／全200ページ／カラー口絵8ページ 吉野一生 著
トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
定価：2,900円(税込)／送料：460円(梱包込)

折るころ 岡村昌夫 構成・執筆

A4判／全108ページ／フルカラー48ページ
定価：1,400円(税込)／送料：420円(梱包込)
折紙の貴重な歴史的資料満載の一冊

たのしいおりがみドルハウス 山口 真 著

ナツメ社刊 B5判／全312ページ／カラー口絵16ページ
／定価：1,260円(税込)／送料：420円(梱包込)
書店でも好評発売中：ISBN4-8163-3082-8

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B5判／箔押しロゴ入／定価：750円(税込)／送料：
250円(梱包込)／雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能

只今制作中 まだまだ制作中。気長に待っていて下さい。

西川誠司作品集／西川誠司 著・西川折り紙の集大成

折紙図鑑「昆虫II」／北條高史、前川 淳、目黒俊幸共著

折紙図鑑「犬」／佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: origamih@remus.dti.ne.jp

四季の千代紙 30cm判 **NEW**

TOYOから発売中の「四季の千代紙」大判サイズ

※上質紙にカラー印刷したおりがみです。和紙ではありません。

四季をテーマにしたかわいい柄のおりがみです。モチーフが細かいのも魅力。75号のP.20、P.21の背景に春・秋・冬の模様が載っています(柄の大きさは原寸)。一般のおりがみより若干厚手なので、実用小物の制作に適しています。

30cm×30cm／20枚入(4柄×5枚)／定価：450円(税込)
送料(ロールにして発送)：1セット=240円、2～3セット=390円
送料(梱包ケースに入れて発送)：1セット=490円、2～3セット=680円

みなからおれるDVD 暮らしの折り紙 山口 真 監修 **NEW**



人気の実用折り紙の折り方を、実写の動画でわかりやすく説明。

- テーブルウェア編／12作品
- ギフト編／11作品
- 季節のインテリア・雑貨編／12作品

定価：2500円(税込)／送料：
1本=320円、2～3本=470円

おりがみDVD ママとおりがみ 山口 真 監修

簡単でかわいい作品の折り方を実写の動画でわかりやすく説明。
折り図が読めなくてもこれなら折れる?! 1本 各120分。

- りくのどうぶつ／8作品
- みずべのどうぶつ／12作品
- もりのとり・むし・はな／11作品

定価：2100円(税込)／送料：1本=320円、2～3本=470円

たのしいおりがみドルハウス専用 おうち用クラフト用紙

張りがあって折りやすい、筋入りクラフト紙を正方形に切りました。実用小物の制作も最適。全て単色のセット。片面にそれぞれの色を印刷(裏面は曇色)。おりがみはうすオリジナル商品。

色：赤・紺・緑・茶・こげ茶／15cm×15cm／50枚入／
定価：250円(税込)／送料：4～6セット=390円、7～9セット=580円、10～12セット=700円 ※4セット以上で申込みをお願いします。

恐竜柄おりがみ

70kgコルキーの表面に細かい恐竜模様をこげ茶色で印刷。

35cm×35cm／10枚入／定価：1,000円(税込)／
送料：1セット=200円、2セット=270円、3セット=390円

北條高史氏作ドラゴン折り図つきセット

定価：1,200円(税込) ※送料は恐竜柄おりがみと同様

●商品の申し込み方法●

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です。(お盆・年末年始等を除く)

※書籍は冊子小包で発送している為、本とそれ以外の商品(ファイル・紙)を同時にご注文の場合、基本的に送料は別々に頂いております。ご了承ください。

■複数商品ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。